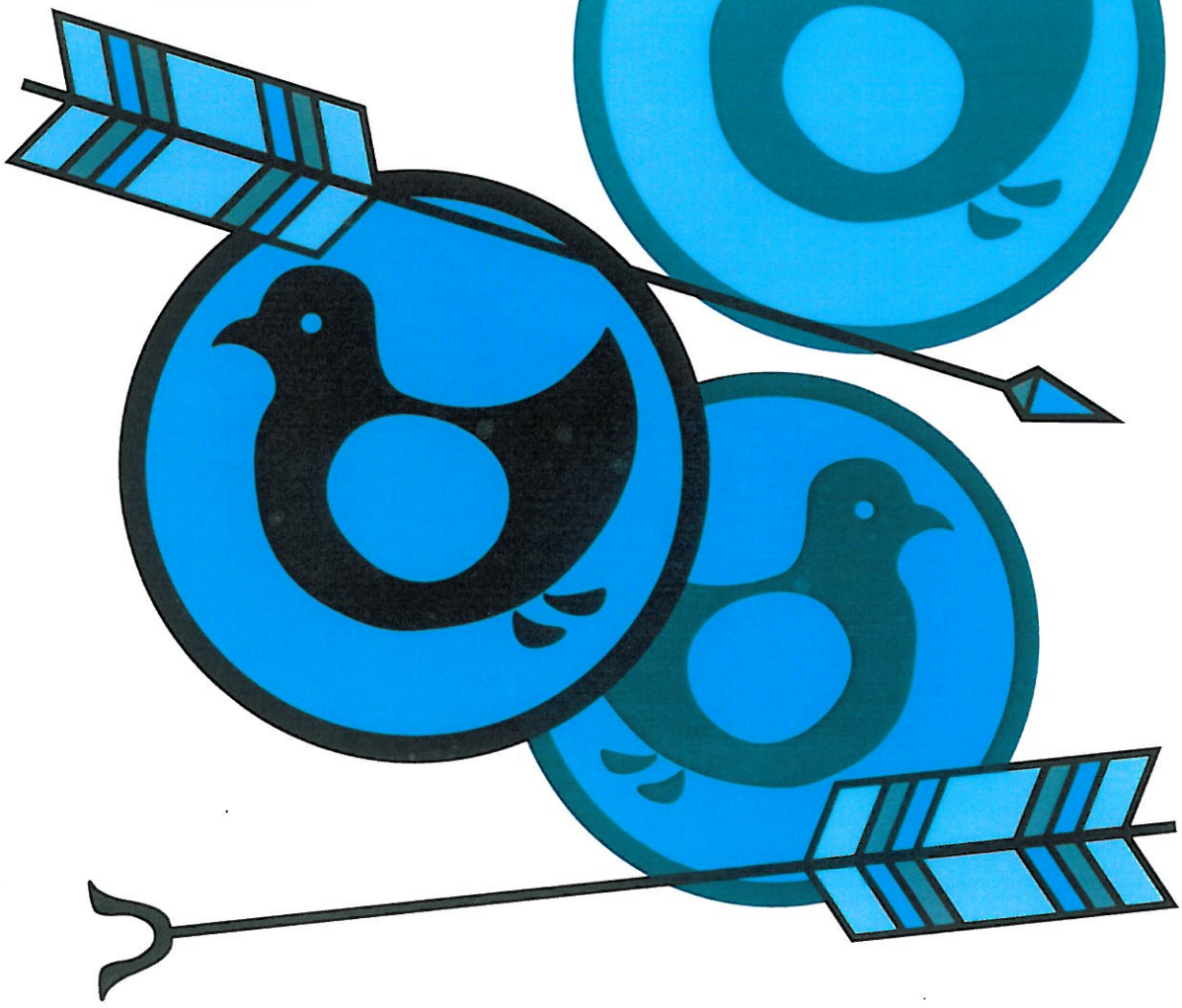
通訳案内士試験

第1次邦文試験受験対策

基礎から体系的に学ぶ

マラソンセミナー

日本歴史



ハロー通訳アカデミー 受験対策指導部

＜通訳案内士試験第１次邦文試験受験対策＞

基礎から体系的に学ぶ

マラソンセミナー

日本歴史

ハロー通訳アカデミー

まえがき

本書は、通訳案内士試験第 1 次邦文試験受験対策《基礎から体系的に学ぶマラソンセミナー》の《日本歴史》用に作成したテキストです。
国土交通省の通訳案内士試験ガイドラインと近年の出題傾向の詳細な分析に基づき、《日本歴史の重要事項》をすべて体系的にまとめました。
＜日本歴史＞を学ぶ上で大切なことは、史実を大きな流れの中で、互いに関連づけて理解し覚えてゆくことです。本書では、＜日本歴史＞の古代から現代までを通史として分かりやすくまとめました。
「外国人観光旅客の関心」を引くと思われる事柄ならびに「日本と世界との関わり」に関する史実については、試験対策上、重要なので、特に配慮して解説しました。
ガイドラインに「地図や写真を使った問題も出題する」とあり、実際、そのように出題されているので、本書では出来るだけ多くの地図と写真を掲載するようにしました。また、合計 165 問の予想問題により知識の整理を図り本試験への備えとしました。
本書が、通訳案内士試験合格の一助になれば幸いです。

ハロー通訳アカデミー
植山源一郎

目次

【1】 通訳案内士試験ガイドラインと本書の特長…… 3
【2】 授業進度表……4
【3】 使用するテキスト……4
【4】 参考図書……4
【5】 はじめに…… 5
【6】 弥生時代……5
【7】 古墳時代……5
【8】 飛鳥時代……6
【9】 飛鳥時代の文化……8
【10】奈良時代……9
【11】奈良時代の文化(天平文化)……10
【12】平安時代…… 12
【13】平安時代の文化…… 15
【14】 鎌倉時代…… 18
【15】鎌倉時代の文化…… 21
【16】室町時代(南北朝時代含む)…… 25
【17】戦国時代…… 28
【18】安土桃山時代…… 29
【19】室町時代の文化…… 32
【20】安土桃山時代の文化…… 35
【21】江戸時代…… 37
【22】江戸時代の文化…… 48
【23】明治時代…… 52
【24】大正時代…… 59
【25】昭和時代…… 62
【26】明治時代の文化…… 67
【27】大正時代の文化…… 71
【28】予想問題…… 73
【29】予想問題解答…… 94
【30】日本史年表…… 95
【31】文化史のまとめ……101

【１】 通訳案内士試験ガイドラインと本書の特長

[1] 通訳案内士試験ガイドライン（日本歴史）（2013 年度より適用）

（1） 試験方法

1. 試験は、日本の歴史についての主要な事柄（日本と世界との関わりを含む）のうち外国人観光旅客の関心の強いものについての知識を問うものとする。
2. 試験の方法は、多肢選択式（マークシート方式）とする。
3. 試験時間は、40 分とする。
4. 毎年の出題レベルをできる限り同じにするため、満点を 100 点とし、平均点が 60 点程度となるような出題に努める。
5. 問題の数は、40 問程度とする。
6. 内容は、高校の日本史Bの教科書をベースとし、地図や写真を使った問題も出題する。

（2） 合否判定

合否判定は、平均点が 60 点程度となることを前提に、概ね 60 点を合格基準点として行う。

[2] 本書の特長

1. 「文化史」は、近年、全体の 50％以上出題されている最重要ジャンルであるので、次のような「文化史」対策を施した。
   (1) 付録を「日本史年表」と「文化史のまとめ」の二本立てにし、「日本史年表」では「政治、経済、外交史」を、「文化史のまとめ」では「文化史」を、それぞれ系統的にまとめて理解し易くした。
   (2) 各時代の通史の後に、その時代の「文化史」の詳しい解説を加えたので、「政治・外交史」と関連づけて「文化史」を学べるようにした。
2. 「文化史」の次の重要分野は「政治史」である。「政治史」は、歴史の流れを理解することがまず大切なので、編年体によって記述した。近年、歴史上の重要人物の事績に関する問題がよく出題されているので、歴史上の重要人物の事績を紀伝体によって記述して対策とした。実際の講義ではエピソードを交えつつ説明し、記憶の定着の助けとしたい。
3. 近年、「地図や写真を使った問題」が約 40％出題されているので、地図、写真を多数掲載した。特に、写真については、「文化史」関連を中心として 80 葉掲載してある。
4. 予想問題は近年の出題傾向に準拠して作成した。予想問題を学習することにより、全時代の重要事項がきちんと整理できるようにした。あえて難問も含めてあるが、これは近年の問題の難易度に準拠したからである。当初、難問が解けなかったとしても落胆する必要は一切ない。このあたりは、講義の中でも説明してゆく。予想問題は、ズバリ的中する可能性が高い問題ばかりなので、何回も復習して本試験に備えることが肝要である。
5. 覚えておくべき重要事項は、「太文字」と「太文字かつ下線」の二種類で重要度表示し、メリハリをもって「重要事項重点学習」ができるようにした。

【2】 授業進度表

第1回	傾向と対策 政治・外交史(弥生時代以前～建武の新政)／文化史(飛鳥文化～鎌倉文化)
第2回	政治・外交史(室町時代～江戸時代後期) 文化史(室町文化～安土桃山文化)
第3回	政治・外交史(江戸時代末期～昭和時代前期) 文化史(寛永期文化～化政文化)
第4回	政治・外交史(昭和時代前期～昭和時代後期)／文化史(明治・大正・昭和前期の文化) 予想問題(文化史・政治史)

【3】 使用するテキスト

「マラソンセミナー　日本歴史」テキスト(ハロー通訳アカデミー)

【4】 参考図書

1. 「新詳日本史」(浜島書店)
2. 「詳説日本史B」(山川出版)
3. 「ビジュアルワイド図説日本史」(東京書籍)
4. 「角川新版日本史辞典」(角川書店)

【5】 はじめに

恐らく数十万年前、まだ大陸と陸続きだった現在の日本がある地域に人々が移ってくるようになり、木の実を採集し、イノシシなどを狩猟し、貝などを取って生活していたものと想像される。そして今から1万年ほど前になって氷河時代が終わり、海面が上昇するに従って、日本列島が形成された。元々陸続きだったためにその後もずっと大陸や朝鮮半島との接触は絶えることなく続き、大陸は日本に様々な影響を与えてゆくことになる。そのため日本人の意識は常に西に向かっていた。西からの様々な文物の終着点が日本だった。逆に言うと、東の太平洋を横断しようとする大勇猛心を起こした日本人は17世紀の田中勝介(しょうすけ)まで皆無だった。それから日本は鎖国に入り、再び太平洋を渡った日本人は勝海舟や福沢諭吉らで19世紀中頃であった。このことを考えると日本という国は中国や朝鮮と離れがたくつながっていたのである。

【6】 弥生時代

BC1 世紀頃、日本は百余りの国が乱立し、定期的に中国に朝貢していた。朝貢とは中国周辺の弱小国が中国に貢ぎ物を奉る行為だが、周辺国にすれば巨大中国王朝に逆らうことは出来ず、むしろそれにすり寄って自国支配のお墨付きを得ようという、さらには他の小国よりも国内での立場を高めようという魂胆があったものと思える。いずれにせよ、この朝貢という形の外交、いわば一種の従属外交はこれからも断続的に続き、16世紀日本を統一した豊臣秀吉で終わりを告げる。(彼は明を征服すると言い出した。さらに近現代の中国大陸侵略は長い歴史の中で日本が延々と行ってきた従属的な外交の一種の反動であると見てよいのかもしれない)

この頃はそれぞれの国が小さな領土を持ち、支配被支配の関係はまだ見えてこない。さらに紀元57 年に奴国(なこく)の王の使者が後漢の都洛陽に赴き、印綬(身分や位階を表す官印とそれを身に付けるための組紐)を受けた。奴国は福岡平野にあった小国であり、その領域である**志賀島**(しかのしま)(海ノ中道の先端にある陸繋島)から後漢の光武帝から授かったとされる金印が発見されている。やがて、30の小国家を率いる邪馬台国(やまたいこく)の女王卑弥呼(ひみこ)は 239 年、魏に難升米(ぎなしめ)という使いを送って朝貢し、魏の皇帝より「親魏倭王(しんぎわおう)」の称号と、銅鏡 100 面などを贈られた。

邪馬台国の位置については主に北九州説と大和説に別れ、昔から議論のあるところであるが、もし前者なら、のちのヤマト政権は邪馬台国とは別に東方で形成され、九州の邪馬台国を統合したものか、邪馬台国が東遷したということになる。大和説をとれば、既に近畿地方から九州に及ぶ広域政治連合が成立していたと考えられる。

【7】 古墳時代

- 古墳とヤマト政権……3世紀後半頃、近畿や西日本各地に大規模な墳丘を持つ古墳が出現する。これらはいずれも前方後円墳ないし前方後方墳で、呪術的な銅鏡の他に武器類を置いた副葬品の組み合わせなど、いずれも共通している。これは首長間の同盟関係を表し、広域の政治連合が形成されていたことを示唆している。出現期の古墳の中で墳丘の長さが 200m を超

えるものは、奈良県桜井市にある箸墓古墳など、奈良盆地南東部（三輪山のふもと）の大和地方のみに見られ、このことは大和地方を中心とする近畿地方の勢力が中心となって政治連合（ヤマト政権）が形成されたことを示している。古墳は遅くとも4世紀中頃までには東北地方中部にまで波及しており、これは東日本の広大な地域がヤマト政権に組み込まれたことを意味している。

- ❑ 古墳の巨大化……古墳時代中期（4世紀末～5世紀）になると、ヤマト政権中枢の巨大古墳は奈良盆地から河内平野に移る。日本最大の規模を持つ古墳は大阪府堺市にある**大仙古墳**（**仁徳天皇陵／大山古墳**）で、墳丘の長さは 486m もある。これだけ巨大な古墳を造るにはたくさんの人夫を要し、何年もかかるわけで、ヤマト政権の大王の権威が高かったことが想像できる。
- ❑ 古墳の小型化……古墳時代後期（6～7世紀）に入ると古墳は小型化した。代表的なものには**高松塚古墳**、キトラ古墳（ともに奈良県明日香村）がある。
- ❑ 倭の五王……『宋書』倭国伝には、5 世紀初めから約 1 世紀にわたって讃・珍・済・興・武の 5 人の倭王（「倭の五王」）が相次いで宋に朝貢したことが記されている。
- ❑ **仏教伝来**……『日本書紀』には 552 年に百済の聖明王が仏像・経巻を献じたとあり、公的伝来の初めという。（朝鮮からの渡来人がそれ以前にもいたことを考えると、私的にはもっと早く伝来していたことは間違いない）『上宮聖徳法王帝説』や『元興寺縁起』には 538 年と記され、後者が有力とされる。仏教はしかしながらすんなりと受け入れられた訳ではない。神道を信奉する中臣氏や物部氏と仏教推進派の蘇我氏との権力闘争が絡んだ対立があり、蘇我氏が勝ったことによって仏教はだんだんと日本人の心に浸透していくことになる。ちなみに日本で最初に仏教を信仰した天皇は聖徳太子の父、用明天皇である。天皇と言えば、神道の大司祭といってもいい立場の人だが、その人が外来宗教を信仰するのは面白いことである。しかし神道を棄教しなかったことは日本人の宗教観を考える上で非常に興味深い。

【8】 飛鳥時代

- ❑ **推古天皇**……554～628。わが国最初の女帝（在位 592～628）。聖徳太子を摂政に任じる。推古が天皇に即位した理由は明確でないところがある。即位直前に崇峻天皇が蘇我馬子の差し金で暗殺される事件が起こり、皇室を束ねるには推古が適任だと馬子が判断したものと思われる。もっとも推古は幾度も辞退しているところを見ると、彼女は自分は政治に不向きである、あるいは能力がないと思っていたふしがある。それで馬子は英明な聖徳太子を摂政につけたのであろう。ちなみに摂政とは天皇が幼少、病弱である時に就くのが普通だが、このように女帝の場合もある。さらに聖徳太子は皇太子となっていたので、摂政となっても何ら不思議ではない。平安時代の藤原氏の摂政とは区別して考える方がよい。
- ❑ **聖徳太子**（厩戸王）……574～622。用明天皇の皇子。推古天皇の摂政として内外の政治を整備した。603 年、**冠位十二階**（徳・仁・礼・信・義・智の 6 つを大小に分けて十二階）を定めて人材登用を図り、604 年には憲法十七条を制定し、607 年、**小野妹子**を隋に派遣した。小野妹子は隋の皇帝に対等の立場での国交を求める国書を提出した。（日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す、恙無きや。）この書は皇帝の怒りを買ったが、翌年には返礼の使者を遣わ

し、さらにこの使者が帰国する時、日本は留学生・学問僧を同行させた。この中には**高向玄理**がいたが、彼はのち大化改新に始まる国政改革に大きな役割を果たす（大化改新で国博士となり、太政官制の立案を行う）。聖徳太子はこのように大陸文化導入に努めた。先進文化を持つ国に使節を派遣してその文化を直接摂取する考えは後の遣唐使にも、明治政府が欧米に派遣した文部留学生にも反映している。聖徳太子は仏教興隆に尽力し、**法隆寺**（世界最古の木造建造物。現存する金堂は7世紀後半の再建だが、むろんそれでも世界最古。日本は地震国で、なおかつ火災に弱い木造建築が21世紀も残っていること自体奇蹟である）、**四天王寺**を建立するなど多くの業績を残した。

- **憲法十七条**……「国に二君なし」という条文に天皇を中心とする国家意識が強調されている。太子は天皇を国政の中心に据え、天皇に権力を集中させる中央集権国家を目指した。（国の改革を迅速にするためには中央集権国家の方が都合がよい。明治時代に政府は廃藩置県を断行することによって中央集権国家体制を確立した。これが近代化に成功した要因のひとつ）「篤く三宝を敬え。三宝は仏法僧なり」という条文に太子の仏教に対する崇敬心が出ている。
- **遣唐使**……630年（飛鳥時代）～894年（平安時代）の間に10数回渡海。630年第1回目の遣唐使は**犬上御田鍬**。894年**菅原道真**の献言で中止。彼の挙げた理由は航海の危険性と唐の内乱。遣唐使は進んだ中国の文物を直接摂取することに成功しした。
- **天智天皇**……626～671。**中大兄皇子**の時代に中臣鎌足とともに蘇我氏を倒し改新政治を推進。舒明・斉明両天皇の皇太子。斉明天皇死後、称制（即位式を挙げずに政治を執ること）、近江遷都後即位。庚午年籍（徴税・軍事の基本台帳）を作成し、近江令（日本で最初の行政法）制定を行う。
- 蘇我氏打倒の大義名分……蘇我蝦夷・入鹿親子は自邸を宮門と呼び、息子を皇子と呼んだ。入鹿は皇位継承の有力候補であった聖徳太子の子山背大兄王を自殺させ、権力の集中を図った。
- **大化改新**……645年の中大兄皇子、中臣鎌足らによる蘇我氏打倒に始まる一連の政治改革。唐の律令制をもとに天皇中心の中央集権国家建設を目指した。このことは、聖徳太子の遺志を中大兄皇子らが継いだことを意味する。646年改新の詔が発せられ、公地公民制への移行を目指す政策が示され、全国的な人民・田地の調査、統一的税制の施行もうたわれた。
- **白村江の戦い**……唐・新羅軍に滅亡（660年）させられた百済を救援するために、663年に朝鮮半島に赴いた日本の水軍が唐の水軍に大敗した戦い。百済の復興は成らず、日本は半島の足場を失った。
- 大宰府……奈良、平安時代に対外防備および九州を統括するために筑前国筑紫郡（現・福岡県太宰府市）に置かれた役所。白村江で敗れたヤマト朝廷が大陸に対する防衛基地として創設した。九州、壱岐、対馬などを管轄し、外交を司った。後に、菅原道真が左遷されたことでも知られる。鎌倉時代になっても名称、職員などは存続したが、博多に鎮西探題（九州探題）が置かれると、その機能は全く失われた。
- **壬申の乱**……天智天皇の死後、672年に天智天皇の子大友皇子の近江朝廷側と吉野の大海人皇子が皇位継承をめぐって争った古代最大の内乱。この乱は朝廷を二分する戦いであった。大海人皇子が勝利し、後に天武天皇として即位。（皇位継承を巡る争いは保元の乱（後記）等ある）

- **天武天皇**……？～686。舒明天皇の子、天智天皇の弟で大海人皇子という。672 年壬申の乱後、飛鳥浄御原宮で即位。近江朝廷側に付いた大豪族が没落したこともあって天武天皇は強大な権力を握り、これまで置かれていた大臣を置かずに、皇族(皇后や草壁・大津・高市の3皇子)を重用して(これを皇親政治という)天皇政治を強化した。この頃から天皇の神格化が見られ天皇の権威が確立した。さらに八色の姓(豪族たちを天皇中心の身分秩序に編成した)・飛鳥浄御原令を制定。
- 持統天皇……天武天皇の皇后。飛鳥浄御原令を施行(689 年)。690 年に庚寅年籍を作成して人民を統一的に支配する基礎を築いた。これによって6年ごとに戸籍を作り、それに基づいて班田(耕作すべき田を各人に班つこと)を行う制度が確立した。694 年には藤原京が完成し、持統・文武・元明の3代に渡る、新しい中央集権国家を象徴する宮都となった。



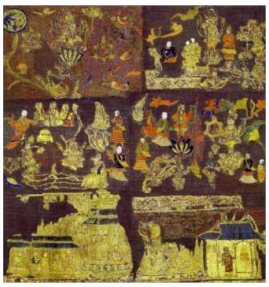
- **大宝律令**……701 年成立、施行。文武天皇の命で刑部親王・藤原不比等らが編集。これにより律令体制(律は刑法、令は行政法)が確立。

【9】 飛鳥時代の文化

(1) 飛鳥文化



- 三教義疏……法華経・勝鬘経・維摩経の注釈書で聖徳太子の撰。現存の『法華経義疏』は太子自筆と伝えられ、伝存する日本最古の書物。
- **四天王寺**……大阪市所在。略称「天王寺」。聖徳太子が物部守屋との戦いで四天王に祈り、勝利を得たので、創建したという。▼四天王＝仏法守護の武神のこと。東方を持国天、南方を増長天、西方を広目天、北方を多聞天がそれぞれ守護する。
- **法隆寺**……7 世紀初めに大和の斑鳩に聖徳太子が建立した寺院。斑鳩寺ともいう。金堂、五重塔などの西院と、夢殿、伝法堂のある東院に分かれる。▼法隆寺金堂は西院の中心で、7世紀の建造。柱のエンタシスなど南北朝様式を特色とする。**鞍作鳥**の釈迦三尊像や焼失した壁画は著名。五重塔・中門・歩廊とともに世界最古の木造建築。▼エンタシスは建築用語で，円柱の胴部につけられたふくらみのこと。古代ギリシャの神殿建築や、その流れを汲むといわれる法隆寺歩廊(右上の写真)、唐招提寺講堂の柱などにその例が見られる。



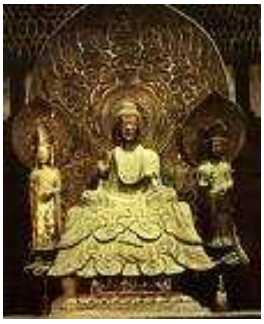


- **中宮寺**……聖徳太子が母の宮跡を寺にしたもの。法隆寺に隣接する尼寺で、**半跏思惟像**(木像。片足を他の足の股の上に組み(半跏)、頬に手を当てて思惟している。南朝形式に近い。右上の写真)・天寿国繍帳(聖徳太子の死後、太子の妃が太子の天寿国にある姿を縫いとらせた刺繍。右上の写真)で有名。
- **飛鳥寺**……蘇我馬子が飛鳥の地に建立した寺。法興寺ともいわれ、718 年平城京に移建され元興寺となる。もとの飛鳥寺の地には現在安居院が建ち、**鞍作**

鳥(**止利仏師**)が造った飛鳥大仏(右上の写真)を安置している。



- **広隆寺**……603 年に渡来人の秦河勝が京都の太秦に建立したものと伝える。秦氏の氏寺で、半跏思惟像(木像。603 年聖徳太子が秦河勝に賜った朝鮮伝来のものと伝えられ、韓国に類似する像がある。中宮寺の像とともに新羅様ともいう)で有名。
- **法隆寺金堂釈迦三尊像**……金銅像。南北朝様式の飛鳥仏の典型。**鞍作鳥**の代表作(右下の写真)。▼金銅像＝銅像の表面に鍍金を施した像で、飛鳥・白鳳時代に多い。奈良時代は塑像・乾漆像、平安・鎌倉時代は木像が全盛。



- 法隆寺玉虫厨子……宮殿風の厨子は飛鳥建築を偲ばせ、須弥座周囲の浮彫の飾り金具の下に 2,563 枚の玉虫の羽を伏せてあった。(右上の写真)。

(2) 白鳳文化

- **薬師寺東塔**……裳階つきの三重塔。リズムある姿で「凍れる音楽」の異称がある(右下の写真)。



- 薬師寺薬師三尊像……金銅像。飛鳥仏の硬さを脱し、変化ある姿勢で柔らかく表現。台座の唐草文様などには西アジアの影響がみられる。
- 薬師寺東院堂聖観音像……金銅像。技巧に優れ、飛鳥仏の外面性から天平仏の内面性への推移を示すといわれる。(右端の写真)



- 興福寺仏頭……685 年造立。平安末、興福寺僧徒が飛鳥の山田寺から奪取した丈六の薬師三尊の頭部と推定される。童顔の明るい顔は白鳳の精神を示す。(右下の写真)



- 法隆寺金堂壁画……聖徳太子建立の法隆寺金堂内部に描かれていたが、1949 年の火災で焼損。(右端の写真)



【10】 奈良時代

- **平城京**……710 年から 784 年長岡京に遷都されるまでの都城。現在の奈良市街西方にあたる。710 年、元明天皇によって藤原京より遷都され、奈良時代を迎えた。2010 年は平城京遷都から 1300 年目にあたる。
- **藤原不比等**……659～720。鎌足の子。大宝律令の制定に参画し平城京遷都に努力。養老律令を完成した。娘宮子が文武天皇夫人として聖武天皇を生み、藤原氏が外戚(母方の親戚)となる端緒を作った。さらに聖武天皇にも娘の光明子を嫁がせて天皇家と密接な関係を築いた。
- 藤原氏の進出‥‥不比等亡き後は、皇族の左大臣長屋王が政権を握った。長屋王は天武天皇

の孫で文武天皇の妹を妻としていた。ところが藤原氏の外戚としての地位が危うくなると、不比等の4人の子供は、729 年、策謀によって長屋王を自殺させ（長屋王の変）、光明子を皇后にたてることに成功した。しかし、折しも流行した天然痘によって4兄弟は相次いで亡くなり、藤原氏の勢力は一時後退した。代わって、皇族出身の **橘 諸兄**（光明皇后の異父兄）が政権を握り、唐から帰国した**吉備真備**（717 年留学生として唐に渡り、20 年近く唐で勉強した。のち右大臣にまで昇った）や**玄昉**（745 年藤原氏の反感を買って九州に左遷され、翌年その地で死去）が聖武天皇に信任され力を振るった。聖武天皇が退位した後、娘の孝謙天皇の時代には、大権を握る光明皇太后と結びついた甥の藤原仲麻呂が専制を振るった。仲麻呂は橘諸兄を引退させ、その子奈良麻呂のクーデター計画を未然に防ぎ（橘奈良麻呂の変）、姻戚関係にある淳仁天皇を即位させた。その後天皇から恵美押勝の名を賜り、破格の処遇を得るとともに権力を独占し、太政大臣にまで昇りつめた。しかし、光明皇太后が死去すると、孝謙上皇の寵愛を受けた道鏡が進出し、これをもとに皇権が孝謙上皇と淳仁天皇に分裂、764 年、恵美押勝は孝謙上皇に対して兵を挙げたが、敗れた（恵美押勝の乱）。淳仁天皇は廃位され、孝謙上皇は称徳天皇となって位につき、道鏡は太政大臣禅師（765 年）、法王（766 年）となって権勢を振るった。769 年には称徳天皇が道鏡に皇位を譲ろうとする事件が起こったが、この動きは和気清麻呂によって妨げられた。（宇佐八幡宮神託事件。宇佐八幡宮は右の写真）。称徳天皇が死去すると、道鏡は追放され、藤原百川らは長く続いた天武天皇系の皇統に代わって天智天皇の孫である光仁天皇をたて、律令政治の再建を目指した。



- **聖武天皇**……701～756。文武天皇の皇子。皇后は光明子（藤原不比等の娘）。深く仏教を信じ、仏教の持つ鎮護国家思想によって国家の安定を図ろうとし、諸国に国分寺・国分尼寺を創建させ、東大寺大仏を鋳造した。（このとき大仏造営に協力したのが僧の**行基**である）天皇は天平文化の黄金期を作った。遺品は**正倉院**（右の写真）にある。
- **東大寺大仏**……盧舎那仏。「華厳経」の本尊で、太陽を表す。743 年聖武天皇が大仏造立の 詔 を出し、娘の孝謙天皇の時 752 年開眼供養した。



【１１】 奈良時代の文化（天平文化）

- **東大寺**……「総国分寺」、「金光明四天王護国之寺」などと称され、仏教の鎮護国家の思想を具現。伽藍は大仏鋳造後 789 年までにはほぼ完成。広大な荘園を私有。1180 年と 1567 年の 2 回、兵火で焼失。現在の大仏殿は江戸時代の再建で、世界最大の木造建築。華厳宗大本山。
- **興福寺**……藤原鎌足の私寺山階寺（山城国）が前身で、藤原不比等により奈良に移され、以後藤原氏の氏寺として栄えた。法相宗の大本山として南都教学の中心となり、中世には大和国守護を兼ね多くの座（商工業者などの特権的同業組合）を支配し、俗界にも君臨した。
- **元興寺**……奈良市にある華厳宗の寺。飛鳥寺を 718 年平城京内に移したもの。平安時代初期の「**薬師如来立像**」（国宝）を安置する。▼当初の僧坊を鎌倉時代に改造して本堂、禅室（とも

に国宝)とした極楽坊は、現在、元興寺から独立した寺として同市内にある。

- ❑ **南都六宗**……奈良時代、奈良の都に起こった仏教の 6 つの学派。**三論宗・成実宗・倶舎宗・法相宗・律宗・華厳宗**。「宗」は初め「衆」とも書いたように、仏教の哲学的研究の団体であり、後世の宗派とは違い、一つの寺院の中にいくつもの衆(宗)があった。興福寺は法相に、東大寺は華厳に、唐招提寺は律に重きを置いた。
- ❑ **正倉院**……**東大寺**境内にある宝庫。聖武天皇の遺宝数千点を擁する。**校倉造**(柱を用いずに断面が台形や三角形の木材を井の字形に組み壁面を構成する。正倉院の場合は断面が三角形の木材を用いている)としては最古かつ最大の例。
- ❑ **唐招提寺**……奈良市に所在。759 年**鑑真**の創建。金堂は天平建築の遺構、また講堂(下の写真)は平城宮の朝集殿を移したもので奈良時代の宮殿建築唯一の遺構。





- ❑ **鳥毛立女屏風**……東大寺正倉院蔵の天平文化を代表する絵画。6 枚あるが、いずれも樹下に唐風の美女を描く。(右の写真)
- ❑ **乾漆像**……奈良時代に盛行した漆を用いた彫刻像。乾漆を用いて造った像で製法には次の 2 種がある。1)**脱活乾漆**＝粘土で原型をつくり、その上に漆で麻布を数枚張り重ね、乾燥したあと中の土を脱し去り、補強の木枠を入れる。2)**木芯乾漆**＝木彫りで像の粗造りをし、麻布を漆で張っていく。いずれも細部は木粉に漆を混ぜて仕上げた。前者の代表例に**東大寺不空羂索観音像**(右下の写真)、**唐招提寺鑑真和上坐像**(唐招提寺御影堂に安置され、鑑真の慈悲、高邁な精神をよく表現する肖像彫刻の傑作。右端の写真)などがあり、後者の代表例には**聖林寺十一面観音像**がある(右上の写真)。





- ❑ **東大寺法華堂**……「**三月堂**」とも。750 年頃建立。毎年 3 月に法華会が行われるのがこの名の由来。寄棟造の正堂が天平建築。礼堂は鎌倉建築。ここの本尊が不空羂索観音像。他に法華堂には、**日光菩薩・月光菩薩像**(優しい顔立ちで静かに合掌する塑像。粘土でつくった彫像。木の芯に藁をまき、その上に粘土をつける。天平時代に流行した。右の写真の両脇の菩薩像)、皮の甲冑に身を固め、右手に金剛杵を執り、左手を斜め後ろに伸ばして忿怒する**執金剛神像**(次ページの写真)がある。



- ❑ **古事記**……稗田阿礼が伝誦した、神代から推古天皇までの天皇系譜や皇室の伝承を、**太安万侶**が筆録して、712 年元明天皇に献上したもの。
- ❑ **日本書紀**……元正天皇の 720 年完成。編者は舎人親王ら。
- ❑ **風土記**……713 年諸国に撰進が命じられる。その国の地名の由来・産物・伝承などを記載。現

存は常陸・出雲・播磨・豊後・肥前の 5 つで、出雲のみ完本。

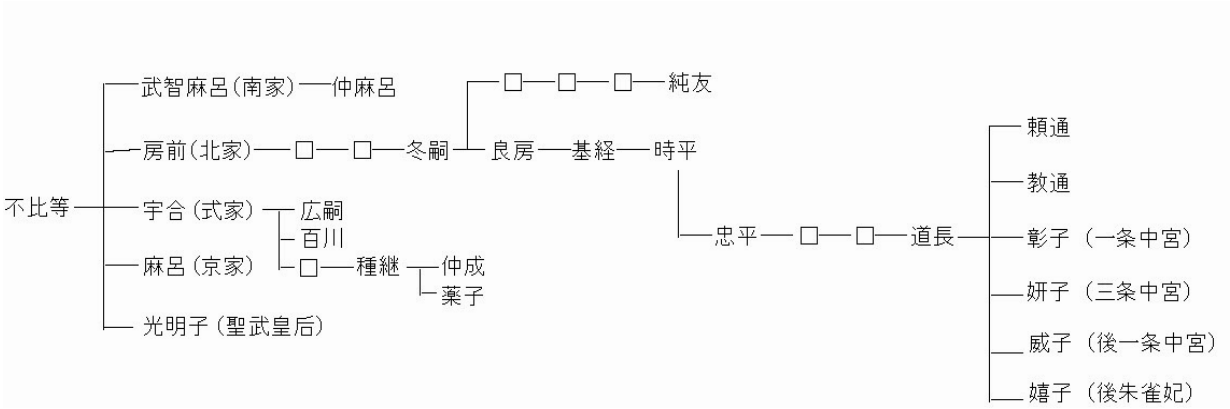
- **懐風藻**……わが国最古の漢詩集。751 年成立。
- **万葉集**……770年頃成立。編者は大伴家持か？歌風は素朴で力強く万葉調とよばれる。



【１２】 平安時代

- **藤原種継**……737～785。藤原宇合（式家）の孫。長岡京造営を主導し長岡京への遷都を強行。785 年現地で監督中射殺される。この結果早良親王（桓武天皇の弟）は皇太子を廃され、大伴・佐伯の旧豪族が多数処刑された。
- **平安京遷都**……794 年、桓武天皇が和気清麻呂の献言で長岡京（784～794）より遷都、平安時代が始まる。天皇は遷都によって仏教政治の弊害を断とうとした。
- **桓武天皇**……737～806。平安京遷都・勘解由使（国司交替の際の事務手続きを厳しく監督する）・健児の制（軍団・兵士の廃止に伴い、郡司の子弟や有力農民の子弟で弓馬の巧みな者を 60 日交替で国府の警備や国内の治安維持にあたらせる）実施のほか、坂上田村麻呂に蝦夷討伐を行わせ、最澄・空海に新仏教を興させるなど、政治刷新を実施。

◆ **藤原氏系図**



- **藤原冬嗣**……775～826。平安初期の公卿。嵯峨天皇の信任あつく、蔵人所（810 年の薬子の変の際、平城上皇側に漏れることなく嵯峨天皇の命令を太政官組織に伝えるための役所）設置とともに、蔵人頭となる。これによって藤原北家が台頭することになる。二男良房は人臣最初の摂政となる。
- **承和の変**……842 年 7 月 15 日嵯峨上皇が没した混乱に乗じ、その 2 日後、皇太子恒貞親王の側近である伴健岑、 **橘 逸勢**（三筆の 1 人）らが皇太子を奉じて東国に赴き反乱を企てているとして逮捕され、無実の恒貞親王が皇太子を廃された。首謀者として伴健岑は隠岐に、橘逸勢は伊豆に配流されるなど多数が処罰された。8 月 4 日、藤原良房の甥で道康親王（のちの文徳天皇）が皇太子となった。逸勢は 8 月 13 日、伊豆へ向かう途中死亡した。逸勢の死後橘氏は急速に衰微した。
- **摂政**……天皇に代わって政務全般を行う官職。本来天皇が幼少・病弱・女帝などの場合、皇族がその任についた。593 年聖徳太子が推古天皇の摂政になったのが最初。臣下では、858 年即位した清和天皇が幼少のため外祖父の**藤原良房**がその任についたのが初めてである。10 世紀後半からは常置の官になり、藤原北家（特に初代摂政の良房の子孫）が独占した。
- **関白**……「関り白す」の意味からできた言葉。朝廷の中で、すべての書類を天皇が見る前に

見ておくことが、その仕事である。実質的には摂政と変わりなく、天皇成人後に政務を担当する場合にいう。884 年光孝天皇即位に際し、**藤原基経**（良房の兄の子で良房の養子）がその任についたのに始まる。「関白」の称は 887 年に宇多天皇が基経に下した詔に初見。

- 応天門の変……宮中にあった応天門が 866 年に炎上した事件。はじめ左大臣源信に放火の疑いがかかったが、大納言伴善男が源信を失脚させるために子に命じて火を放ったして告発され、善男父子らが流罪となった。背後には藤原良房の工作があったと考えられ、いわば良房によって罪を免れた源信はこれによって、もはや良房の正式な摂政就任に反対できなくなった。そして同年良房の摂政を命じる詔が出ている。
- 阿衡の紛議……887 年に即位した宇多天皇は、太政大臣藤原基経を関白として先代の光孝天皇と同様に政務を一任しようとした。基経は当時の慣例に従い辞退したが、それに対して橘広相が起草した勅書に「よろしく阿衡の任をもって卿の任となすべし」とあった。「阿衡」とは位のみで職掌がないとする藤原佐世の言に従い、基経は以後出仕するのをやめた。この事件を「阿衡の紛議」という。事件は翌年宇多天皇が源融の助言で勅書を改訂し、重ねて基経を関白とすることで一応の収拾をみたが。基経は天皇の信任の厚かった橘広相の影響力の低下を狙うとともに、外戚関係のない宇多天皇に対して、自らの関白としての政治的立場を再確認する意図があったことは想像に難くない。なお事件は 888 年、基経の娘温子を宇多天皇の皇后として入内させることで最終的に決着した。
- 昌泰の変……醍醐天皇の時に右大臣にまで昇っていた菅原道真が、道真の娘婿で醍醐天皇の弟を、天皇を廃して擁立しようとした嫌疑で 901 年太宰府に流された事件。
- 安和の変……969 年。左大臣源高明の娘をめとっている為平親王を皇位につけようとする一味が謀反を計画しているとの密告をきっかけに源高明が太宰府に流された事件。この事件以降、藤原氏の勢力は不動のものとなり、摂政・関白が常置されるようになった。摂政・関白を出す家を摂関家（藤原北家）と呼んだ。
- **摂関政治**……10～11 世紀、平安中期、藤原氏が外戚として摂政・関白を独占し国政を左右した政治。11 世紀前半の藤原道長・頼通父子が全盛期。その間、地方政治は乱れた。摂関政治では天皇に力はなく、その下の位の藤原氏が実権を握った。これは日本社会でたびたび現れる権力の二重構造である。
- **藤原道長**……966～1027。藤原兼家の子。995 年内覧（関白に準じる地位）となる。4 人の娘を一条・三条・後一条・後朱雀の后とし、孫の後一条・後朱雀・後冷泉3 代の外祖父として権勢を振るう。1016 年摂政、1017 年太政大臣となり藤原氏の全盛期を現出。娘の威子が皇后になる日に道長が即席で詠んだ歌「此の世をば我が世とぞ思ふ望月の、かけたる事も無しと思へば」
- **藤原頼通**……992～1074。道長の子。後一条・後朱雀・後冷泉3 代の摂政・関白となる。平等院鳳凰堂（京都府宇治市）を建て、「宇治殿」といわれた。1067 年隠退。道長以来約 60 年間は摂関政治の最盛期。
- **荘園**……8 世紀から 16 世紀にかけて存在した私的所有地。荘園発生の直接的契機は 723 年の三世一身法ではなく 743 年墾田永年私財法の発布。ピリオドを打ったのは豊臣秀吉の太閤

検地である。

- **荘園整理令**……荘園増加の防止・縮小のため出した法令。902 年の醍醐天皇による「延喜の荘園整理令」と、1069 年の後三条天皇による「延久の荘園整理令」が有名。しかし、前者はかえって摂関家(藤原良房の子孫)に荘園を集中させることになり、後者はかなりの成果を上げたものの、結局、荘園が天皇・院に集中する結果になった。
- **後三条天皇**……1034～73。藤原氏と外戚関係がなく藤原氏に憚ることなく親政を行う。1069 年延久の荘園整理令を出し記録荘園券契所(「記録所」とも)を設ける。摂関家の荘園も例外ではなく、この整理令はかなりの成果をあげた。この結果、摂関家の権勢も衰えを見せ始める。
- **後三年の役**……1083～87 年。奥羽地方で勢威をふるっていた清原氏の相続争いに陸奥守として赴任した源 義家が介入、藤原清衡を助けて清原氏を滅ぼす。この戦いは朝廷から私闘と見なされ、義家に対して恩賞が与えられなかったため、義家は自腹で配下に恩賞を与えた。義家のこの態度が東国武士団との主従関係を強め、源氏の信望が東国に高まり武家の棟梁の地位を確立するに至るとともに、藤原清衡は奥州藤原氏の祖となる。
- **院政**……後三条天皇の死後、その遺志を受け継いで親政を行ったその子白河天皇は 1086 年、わずか 8 歳の皇太子(堀河天皇)に位を譲り、自らは上皇として政治の実権を握った。これが「院政」の始まりである。上皇の命令を伝える「院宣」は次第に天皇の「詔勅」よりも権威を持つようになった。院の警備には「北面の武士」(上皇の御所の北面にいた)が選ばれた。院政は、白河・鳥羽・後白河の 3 上皇の間、100 余年続き、藤原氏の摂関政治に終止符を打つことになった。院政も実権は天皇にではなく、上皇にあるので、権力の二重構造である。
- **後白河天皇**……1127～92。1155 年に即位したが、これが翌年の保元の乱の原因となった(実は鳥羽法皇が崇徳天皇に譲位を迫る際、近衛天皇の次は崇徳の子重仁親王を即位させると約束していたが、法皇は約束を破った)。1158 年、二条天皇に譲位し、以後、二条・六条・高倉・安徳・後鳥羽の 5 代 34 年にわたって院政を行った。源平の争乱、鎌倉幕府の成立など激動期にあって、貴族勢力維持のため武家勢力と対抗。1169 年法皇となり、造寺・造仏を盛んに行い、今様(今でいう歌謡曲)を好んで『梁塵秘抄』を撰じた。「我等は何して老いぬらん、思へばいとこそあはれなれ、今は西方極楽の、弥陀の誓を念ずべし」
- **保元の乱**……平安末期(1156 年)の内乱。皇位継承問題をめぐる崇徳上皇と後白河天皇の対立に、摂関の地位をめぐる関白藤原忠通とその弟で左大臣頼長の対立がからみ、崇徳上皇は源為義らの武力を頼んで天皇方と争う準備をしたが、平清盛、源義朝らの武士を動員した後白河天皇陣営に敗れた。この結果、武士が急速にその地位を向上させ、中央に進出する契機となった。
- **平治の乱**……平安末期(1159 年)の内乱。源義朝らのクーデター。彼は平清盛に敗れ、結果として殺害され、義朝の子頼朝は伊豆に流され、そこで約 20 年間雌伏の時期を過ごす。
- **平清盛**……1118～81。平安末期の武将。平治の乱で源氏を圧倒し、藤原氏に代わって政権を掌握。その子重盛らの一族もみな高位高官に昇り、勢威は並ぶものがなくなった。1167 年太政大臣となって政権を握り、娘徳子(建礼門院)を高倉天皇の中宮に入れ、その子・安徳天皇を皇位につけた(これは摂関家と同じ権力操縦法)。また大輪田泊を修築して日宋貿易を行い、

厳島神社を尊崇した。晩年は、諸国の源氏の挙兵にあい、失意のうちに病死した。

- 日宋貿易……平氏が栄えた経済的基盤の一つ。894年の遣唐使の停止以降、中国との正式な国交は途絶えていたが、九州沿岸を主要な舞台として、宋との間に私貿易が行われ、平安末期には盛んになっていた。▼平清盛は瀬戸内海航路を整え、大輪田泊(現・神戸港)を修築して貿易を行った。日本からの輸出品は金・硫黄・漆器・うるしなど、輸入品は織物・書籍・香料・陶器・銅銭など。特に宋銭の輸入は、国内の貨幣経済の発達を促し、その後の社会に大きな影響を与えた。
- 平家滅亡……平氏の権力独占に対する不満は、貴族や大寺社、地方武士の間で高まった。1180年、清盛が高倉天皇に譲位させ2歳の孫安徳天皇を位につけると、後白河法皇の皇子以仁王と源頼政は園城寺や興福寺の僧兵を味方に平氏打倒の兵を挙げた。それ自体は失敗したが、平氏を打倒しようとする武士が次々に立ち上がり、5年にわたって源平の争乱が続いた。1180年、頼朝も挙兵し、三浦・千葉氏などの有力な関東武士と主従関係を結んだ。一方、従兄弟の源義仲は信濃で挙兵し、北陸諸国で急速に勢力を拡大した。さらに天才的な武将である弟源義経が一の谷の合戦、屋島の合戦、さらに壇ノ浦の合戦で連勝し、とうとう平氏は1185年に滅亡した。

【13】 平安時代の文化

(1) 弘仁・貞観文化



- 空海……774～835。平安初期の僧。**真言宗**の開祖。**高野山**に**金剛峯寺**を開き、**真言密教**を広めた。日本最初の庶民教育機関**綜芸種智院**を開設。書道でも**三筆**の1人として名高い。右の写真は金剛峯寺多宝塔。
- 最澄……766～822。平安初期の僧。**天台宗**の開祖。**比叡山**に**延暦寺**を建立。
- **延暦寺**……伝教大師最澄創建による天台宗総本山。園城寺(大津市)の「寺門」に対し「山門」、興福寺(奈良県)の「南都」に対し「北嶺」ともいう。785年最澄が19歳の時、比叡山に入山して草庵「一乗止観院」を建てたのに始まる。その後唐に渡った最澄は帰朝後天台宗を開き、「一乗止観院」を「根本中堂」と改めた。▼最澄はそれまでの東大寺戒壇における受戒に対して、新しく独自の大乗戒壇の創設をめざしたが、南都(奈良)の諸宗から激しい反対を受けた。822年6月最澄没後7日目にようやく大乗戒壇の設立が公認され、最澄の開いた草庵に始まる比叡山延暦寺は仏教教学の中心となっていった。その後は数々の名僧を輩出し、浄土教の源信や、鎌倉新仏教の開祖である法然、親鸞、栄西、道元、日蓮はいずれもここで学んでいる。▼現在の根本中堂(国宝)は1640年江戸幕府3代将軍徳川家光の再建(1642年完成)。右の写真は根本中堂の廻廊。



- **園城寺**……天台寺門宗総本山。通称「三井寺」。686年の創建と伝える。859年円珍が再興して延暦寺の別院としたが、円仁門徒と争った円珍の門徒が993年園城寺を拠点として独立した。以後、延暦寺を「山門」あるいは「山」、園城寺(三井寺)を「寺門」あるいは「寺」という。園城寺蔵の不動明王

像(平安前期作)は「黄不動」とよばれ、密教絵画(「弘仁・貞観文化」)の貴重な作品とされる。



- **金剛峯寺**……和歌山県北東部にある 1,000m 前後の山に囲まれた高野山にある真言宗総本山。816 年弘法大師空海の創立。▼835 年空海没後、9 世紀後半には伽藍は一旦完成したものの、10 世紀には衰退し、11 世紀初頭には金剛峯寺に止住する僧は一人もいなかったという。その金剛峯寺に繁栄をもたらしたのは、「弘法大師が入定した高野山はこの世の浄土である」として「高野詣」をした藤原道長であった。以後、藤原頼通、白河上皇、鳥羽上皇と参詣が相次ぎ、歴代の徳川家に至るまで、時の権力者がその権力を保持せんがために高野山に参詣した。



- **教王護国寺(東寺)**……京都市にある古義真言宗東寺派の総本山。823 年嵯峨天皇(三筆の1人)から空海に勅賜。五重塔(右上の写真)・不動明王像などが有名。
- **室生寺**……奈良県北東部、室生村にある真言宗室生寺派の本山。女人禁制だった高野山に対し「女人高野」と称し、女人の登山参詣を許した。▼681 年役小角の開創と伝えるが、824 年空海が登山して真言宗の道場とした。山岳寺院の自由な伽藍配置を示す。▼室生寺の五重塔(右の写真)は平安初期の建立で、「弘法大師一夜造りの塔」と呼ばれる端麗な小塔。屋根は檜皮葺で、寝殿造への移行を示す。



- **元興寺薬師如来像**……9 世紀作の木像。檜の一木造(頭部と胴体が一本の木材で作られている)。量感に富み、神秘的面相を持つ。両脚の前面を覆う衣は長卵形の面を作り、厚みのある衣は翻波式の襞を刻む。
- **神護寺薬師如来像**……8 世紀末作の木像。檜の一木造。金堂の本尊で顔の表現に威圧感がある。堂々たる体躯を持ち、力強さに富む。(右の写真)
- **観心寺如意輪観音像**……9 世紀。木像。平安前期の密教彫刻の代表作で華麗な彩色と豊満な肢体は女性的表現を強調。(右下の写真)▼観心寺は大阪府河内長野市にある真言宗の寺。
- 薬師寺僧形八幡神像……僧の形をした八幡神の像。平安時代の神仏習合の影響により、仏像彫刻にならってつくられた神像彫刻の代表的なもの。



- 神仏習合……神と仏は同じものであるとして、神道と仏教を調和させようとする説。▼奈良時代に神社に神宮寺がつくられ、平安時代初期には神前読経や神に「菩薩」号(「八幡大菩薩」など)をつけるようになった。平安中期になると「本地垂迹説」の思想が成立し、神に「権現」(仮の姿の意)の称号が与えられた。
- 神護寺両界曼荼羅……真言宗で悟りの世界を図に示したもの。『大日経』によるものを「胎蔵界曼荼羅」、『金剛頂経』によるものを「金剛界曼荼羅」と言い、合わせて「両界曼荼羅」と言う。大日如来を中心に各部の諸尊を配置している。

(2) 国風文化(藤原文化)

- **浄土教**……10 世紀以降発達した、阿弥陀如来の住む浄土に往生することを願う信仰。
- **源信**……942～1017。平安中期の僧。通称「**恵心僧都**」。念仏による極楽往生の方法を示した『**往生要集**』を著わした。鎌倉時代の浄土教成立の先駆をなし、平安時代の浄土信仰に大きな影響を与えた。
- 法界寺阿弥陀堂……法界寺は京都市伏見区にある真言宗の寺。1051 年日野資業が出家の際創建。現存の阿弥陀堂、**阿弥陀如来像**は平安浄土教美術の代表的遺例。



- **平等院鳳凰堂**……1053 年建立。**藤原頼通**の宇治の別荘を阿弥陀堂にしたもの。**定朝**の**阿弥陀如来像(寄木造)**、欄間の 52 体の雲中供養菩薩像(右の写真)、壁扉画などが有名。定朝は平明円満な日本化された仏像を完成し、その作風は定朝様として後世の造仏の規範となった。
- 高野山聖衆来迎図……来迎図とは、浄土に生まれることを願う人の臨終に、阿弥陀仏が西方浄土から迎えに来る姿を描いたもの。平安中期以後、浄土教の発達に伴って描かれるようになった一種の仏画。高野山の「聖衆来迎図」は代表作(右の写真)。



- 大和絵……藤原時代、唐絵に対し日本的風物を主題とした絵画。季節の推移を主題とした四季絵が大半を占める。その手法は絵巻に発揮され、土佐派・住吉派が生まれて日本画の源流となる。
- **古今和歌集**……905 年、**醍醐天皇**の命で**紀貫之**(最初のかな日記『**土佐日記**』の作者)・紀友則らが編集した初の勅撰和歌集。優美・繊細・技巧的な歌風で「古今調」とよばれ、「万葉調」と対比される。
- **源氏物語**……11 世紀初め。**紫式部**の大長編小説。光源氏を中心とする 41 帖と、光源氏没後の薫大将を主人公とする 13 帖から成る。藤原氏全盛期の貴族社会を描写。世界最古の長編小説。
- **枕草子**……**清少納言**の随筆集。鋭い感覚・機知に富む。四季の情趣、人生の面白みなどを記す。

(3) 院政期文化



- **中尊寺**……岩手県中南部、平泉町にある天台宗の寺。奥州藤原氏の藤原清衡が建立。
- **中尊寺金色堂**…… 光堂ともよばれ、1124 年藤原清衡が自らの葬堂として建てた方三間の宝形造・木瓦葺の阿弥陀堂。一面に金箔を押してあり、堂全体が鞘堂で保護されている。中央須弥壇の下に清衡・基衡・秀衡3 代のミイラが安置されている(右の写真)。

- **臼杵の磨崖仏**……大分県臼杵市。凝灰岩に刻まれた62体の石仏群が谷をめぐって4ヶ所に存在。平安後期に大半が完成した日本の石仏の代表。
- 平家納経……1164年平清盛ら一門が繁栄御礼のため、厳島神社に奉納した装飾経。
- 源氏物語絵巻……平安末期の代表的絵巻物。『源氏物語』を絵巻物にしたもので、藤原隆能の絵。流麗な詞書とあいまって絵巻物中の傑作の一つとされる。(右の写真＝夕霧)。大和絵の人物顔面描写の一技法である「引目鉤鼻」や「吹抜屋台」が顕著。



- 伴大納言絵巻……平安末期の絵巻物。土佐光長筆といわれる。866年大納言伴善男が応天門に放火し、これを左大臣源信のしわざと告発したが、真相が露見して流罪に処せられたという「応天門の変」を描いたもの。
- 鳥獣戯画……京都市高山寺所蔵の平安末期の絵巻物。4巻あるが、第1巻は猿・兎・蛙などを擬人化したもので、鳥羽僧正覚猷の作と伝わるが未詳。全巻描線を主とした白描画の最高峰(右の写真)。



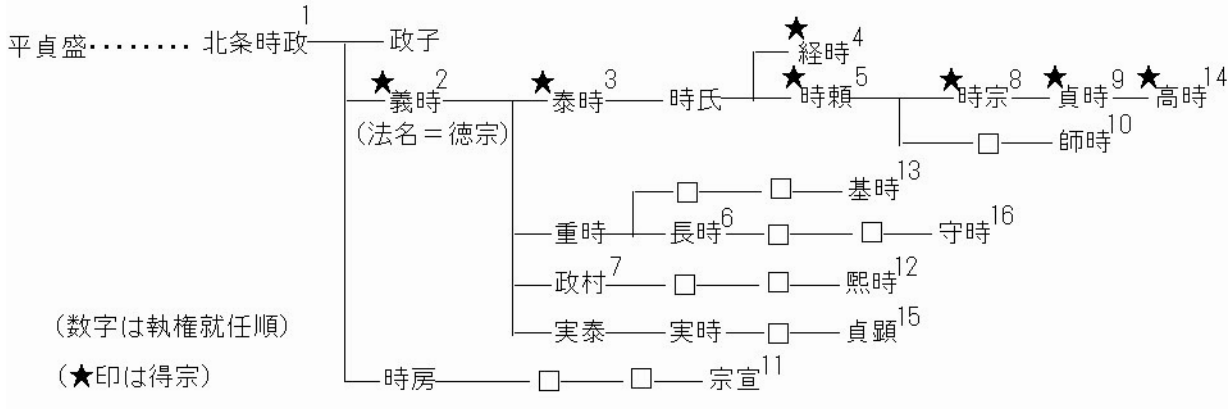
- 大鏡……11世紀後半。平安中期の歴史物語。藤原道長一代を中心とした藤原全盛期を批判的に叙述。紀伝体、仮名史書の初め。

【14】 鎌倉時代

- **源頼朝**……1147～99。鎌倉幕府初代将軍。平治の乱後敗走の途中捕らわれ、伊豆に配流。1180年、以仁王の令旨を受けて挙兵したが、石橋山の戦いに敗れる。1184年、弟範頼、義経を大将に任じ、源義仲を討ち、平氏を一の谷から追い落とし、1185年、義経をして壇ノ浦に平氏を滅亡させた。同じ年、諸国に守護・地頭を設置し武家政権を確立した。1192年、征夷大将軍に任ぜられ、幕府を創設した。
- 御家人……鎌倉時代、将軍と主従関係を結んだ武士。頼朝は主人として、御家人を主に地頭に任命することによって、先祖伝来の所領の支配を保障したり(「本領安堵」)、新たな所領を与えたりした(「新恩給与」)。この「御恩」に対して御家人は、戦時には軍役を、平時には京都大番役や鎌倉番役(東国の御家人に幕府を警護させる役)などを務めて、従者として「奉公」した。院政期以来、各地に開発領主として勢力を拡大してきた武士団、特に東国武士団は、こうして御家人として幕府の下に組織され、地頭に任命されることで所領を支配することを将軍から保証されたのである。
- **守護**……鎌倉・室町幕府における職名。各国に一人ずつ、主として東国出身の有力御家人が任命された。のちに規定されたその権限は、謀反人の逮捕、殺害人の逮捕、諸国の御家人に天皇・院の御所を警護させる京都大番役の催促という「大犯三箇条」のみに限られていた。しかし実際には守護は地方行政にも関与した。

- **地頭**……守護と同様、御家人の中から任命されて、こちらは荘園・公領に置かれ、その職務は年貢の徴収と荘園領主への納入、土地の管理、治安維持などであった。地頭の勢力は、幕府権力の伸展とともに、自らの支配権の拡大に努め、荘園領主との間の紛争が増えていった。領主にとって、土地に根をおろした地頭を抑えることはできず、下地中分や地頭請という解決方法を取らざるを得なかった。前者は、地頭と領主が土地・住民を分け合ってお互い完全な支配権を認め合うことである。後者は、地頭に荘園の管理一切を任せ、一定額の年貢納入だけを請け負わせるというものである。
- **北条政子**……1157～1225。北条時政の娘で源頼朝の妻。頼朝の死後、北条氏一門とともに幕府政治を執り、「尼将軍」と呼ばれた。
- **源頼家**……1182～1204。源頼朝の長男。2 代将軍。家督をついで間もなく北条氏によって勢力を失い、義父の比企能員と結んで北条氏討伐を企てたが失敗。能員は殺され、頼家は伊豆修禅寺に幽閉、翌年殺された。
- **源実朝**……1192～1219。源頼朝の 2 男。3 代将軍。北条氏の圧迫が強く、やがてその策謀で頼家の子公暁に暗殺された。和歌に優れ、歌集に『金槐和歌集』がある。
- 執権……鎌倉幕府で将軍を補佐して幕政を統括する職。頼朝の死（1199 年）後、頼朝の妻北条政子の父である北条時政は、2 代将軍の頼家を廃し、弟の実朝を立てて自ら幕府の実権を握った。この時政の地位は執権と呼ばれて、子の義時に継承された。その後、北条氏は幕政の主導権を握ると、執権は北条氏一族の間で世襲されるようになっていった。特に5代将軍以降の将軍は執権の傀儡であり、ここでも上位の者に実権がなく、下位の者が実権を握るという権力の二重構造が見られる。（「摂関政治」「院政」を参照）

■北条氏系図



- **承久の乱**……1221 年、後鳥羽上皇の鎌倉幕府打倒の兵乱。時の執権北条義時は子の泰時と弟の時房に軍を授けて上皇方を破った。その結果、後鳥羽上皇ら 3 上皇が配流された。上皇が処罰されるなど前代未聞のことであり、朝廷方の権威が著しく失墜した。さらに、幕府は上皇方についた貴族や武士の所領 3,000 余カ所を没収し、戦功のあった幕府の御家人らがその地に地頭として任命され、幕府の影響力が全国に及ぶようになった。承久の乱で上洛した北条時房・泰時はそのまま京都六波羅に留まり、朝廷の監視、京都の警護、西国御家人の統制にあたった。ここに幕府の朝廷に対する優位が確立した。

- 連署……鎌倉幕府の職名。執権を補佐して政務を行う。3 代執権北条泰時が執権の時、1225 年叔父時房をこの職に補したのが始まり。連署の名は、幕府の公的な文書に執権と並んで署名することに由来する。副執権ともいうべきこの職は、以後北条一門の有力者が任命された。
- 評定衆……鎌倉・室町両幕府の職名。1225 年執権北条泰時が叔父時房を連署としたのち、裁判その他一般の政務を合議する職として創設。泰時の基本方針である集団指導体制による執権政治がいよいよ本格的に始動した。
- 北条氏の他氏排斥

  (1)和田合戦……1213 年、侍所別当和田義盛が執権北条義時を打倒するために起こしたクーデター。北条氏側の反撃で和田氏は滅亡し、北条氏の支配体制が強化された。

  (2)宝治合戦……最有力の御家人であった三浦泰村一族が北条氏と結ぶ安達氏の挑発に乗って 1247 年に挙兵し滅亡した。執権北条氏の独裁体制が確立した。
- 得宗(北条氏嫡流当主)専制政治の確立

  (1)2月騒動……1272 年2月、北条時宗が、謀反の企てありとして、庶兄の時輔および名越時章を討滅した事件。一族内部の敵対勢力がほぼ一掃され、時宗政権は安定した。

  (2)霜月騒動……北条時宗の執権時、彼の下に有力御家人の安達泰盛と御内人(得宗の家臣)の平頼綱という2人実力者がいた。両者の重しになっていた時宗が 1284 年に死去すると対立はにわかに激化し、翌1285年11月、頼綱は兵を集めて泰盛一族を滅ぼした。この事件は発生した月にちなんで「霜月騒動」と呼ばれる。

  (3)平禅門の乱……執権北条貞時が永仁の大地震の混乱のなかで内管領(御内人首座)として専権を振るっていた平禅門(平頼綱)を 1293 年に急襲し、頼綱とその一族を滅亡させた。この後、得宗専制政治は絶頂期を迎えた。
- **御成敗式目**……1232 年、**北条泰時**が定めた鎌倉幕府の根本法典 51 ヵ条。最初の武家法。成立年号をとって「**貞永式目**」ともいう。頼朝以来の先例や武家社会の慣習を基準とする。この式目は武士にのみ適用され、貴族社会における律令はこれまで通り有効であった。
- **元寇**……「**蒙古襲来**」、「**文永・弘安の役**」とも。鎌倉中期、8 代執権**北条時宗**の時にあった、2度にわたるモンゴル軍の日本襲来。文永の役(1274 年)では元軍2万、高麗軍1万数千からなる元・高麗連合軍は博多湾に上陸し、戦局は元軍の一方的な優勢のうちに(日本軍の度肝を抜いたのは鉄炮である。これは火薬を利用した武器といわれているが、まだ火薬を知らなかった日本軍はその轟音と閃光に陣中大混乱をきたした)夜を迎えたが、なぜか(恐らく夜襲を恐れて)元軍は野営を避け船に引き揚げた。その日、日没頃から始まった風雨は夜に一段と激しさを増し、博多湾に浮かぶ軍船は激浪にもまれ、次々と難破した。この戦役における元軍の死者は1万3,000 人を超えるという。なお、この日は太陽暦では 11 月 26 日にあたり、風雨は台風ではなく、急速に発達した低気圧による暴風雨と思われる。弘安の役(1281 年)では元・高麗等の東路軍4万2,000 人、軍船900 隻と旧南宋の江南軍 10 万人、軍船3,500 隻であった。しかしなかなか上陸出来ないうちに、今度は正真正銘の台風によって壊滅的な打撃を受け退却した。▼軍事的・経済的負担の増加による御家人の経済的窮乏を招くとともに幕府財政をも困窮に導き、幕

府の滅亡を早める原因となった。一方、朝廷は敵軍を降伏させるため祈願に専念したことから、2 度の暴風を「神風」とする神国思想が発展する契機となった。▼太平洋戦争時、敵艦体当たりを敢行した特攻隊を神風特攻隊という。

- ❑ **永仁の徳政令**……1297 年鎌倉幕府が出した徳政令。これは、御家人に売却した土地で売却後 20 年未満のものと、非御家人・庶民に売却した土地のすべてを無償で売り手の御家人のもとに返却させるというものであった。御家人の窮乏を救済する目的で発したが、逆に御家人が苦しむ結果となり、一部を残して撤回に追い込まれた。結局御家人は日に日に不満を募らせ、得宗が主導する幕府はそれを抑えるために一層専制的・高圧的になっていく。そのことがますます御家人たちの反発を招き、幕府の存在を動揺させる結果となった。
- ❑ 幕府滅亡……1318 年即位した**後醍醐天皇**は幕府にも院政にも摂政・関白にも邪魔されることのない天皇親政を理想とした。この頃、鎌倉幕府は求心力を失い、後醍醐天皇の親政は風雲急を告げていた。後醍醐天皇の1回目の倒幕計画(正中の変)は1324年未然に発覚したが、側近が責任を取り、天皇は難を逃れた。さらに 1331 年にも挙兵を企てて失敗したため(元弘の変)、光厳(こうごん)天皇が幕府に推されて即位し、後醍醐天皇は 1332 年隠岐に流された。しかし、後醍醐天皇の皇子護良(もりよし)親王や楠木正成らは反幕府勢力を結集して蜂起し、幕府軍とねばり強く戦った。やがて天皇も隠岐を脱出し、天皇の呼びかけに応じて倒幕に立ち上がる者も次第に多くなった。幕府軍の指揮者として畿内に派遣された有力御家人足利高氏(のちの尊氏)も幕府に背いて六波羅探題を攻め破り、関東で挙兵した新田義貞(にったよしさだ)も 1333 年鎌倉を攻め、得宗の 14 代執権**北条高時**以下を滅ぼし、ここに鎌倉幕府は滅亡した。

【15】 鎌倉時代の文化

(1) 鎌倉新仏教

■新仏教の宗派一覧

宗派	開祖	主要著書	中心寺院	所在
浄土宗	法然(ほうねん)	選択本願念仏集(せんちゃくほんがんねんぶつしゅう)	知恩院(ちおんいん)	京都
浄土真宗(一向宗)(いっこうしゅう)	親鸞(しんらん)	教行信証(きょうぎょうしんしょう)	本願寺(ほんがんじ)	京都
時宗(じしゅう)	一遍(いっぺん)	一遍上人語録(いっぺんしょうにんごろく)	清浄光寺(しょうじょうこうじ)	神奈川
日蓮宗(法華宗)(にちれんしゅう ほっけしゅう)	日蓮(にちれん)	立正安国論(りっしょうあんこくろん)	久遠寺(くおんじ)	山梨
臨済宗(りんざいしゅう)	栄西(えいさい)	興禅護国論(こうぜんごこくろん)	建仁寺(けんにんじ)	京都
曹洞宗(そうとうしゅう)	道元(どうげん)	正法眼蔵(しょうぼうげんぞう)	永平寺(えいへいじ)	福井

- ❑ **法然**……1133～1212。**浄土宗**の開祖。源信の『往生要集』により、浄土宗開立を決意し専修念仏による往生を説いた。主著『**選択本願念仏集**(せんちゃくほんがんねんぶつ)』。
- ❑ **親鸞**……1173～1262。鎌倉初期の僧。**浄土真宗**の開祖。師は浄土宗を開いた法然。主著『**教行信証**(きょうぎょうしんしょう)』の他、弟子、唯円の編になる法話集『歎異抄』がある。

- **一遍**……1239～89。**時宗**の開祖。「**踊念仏**」により時宗の普及に努める。その法話の集成が『**一遍上人語録**』。
- **日蓮**……1222～82。鎌倉時代の僧。仏法の真髄が「**法華経**」にあることを悟り、日蓮宗（法華宗）を開いた。主著『**立正安国論**』。
- **栄西**（えいさい）……1141～1215。鎌倉時代の禅僧。**臨済宗**を初めて日本に伝える。京都に**建仁寺**を建立。主著『**興禅護国論**』、『喫茶養生記』。
- **道元**……1200～1253。鎌倉初期の禅僧。**曹洞宗**を初めて日本に伝える。越前（現・福井県）に**永平寺**を創建。著書に『**正法眼蔵**（しょうぼうげんぞう）』。
- **浄土宗**……美作（みまさか）（今の岡山県）の武士の家に生まれた**法然**（**源空**（げんくう））は、比叡山で研鑽を積んだのち、1175 年、それまでの浄土信仰を発展させて「称名念仏専修（しょうみょうねんぶつせんじゅ）」（**専修念仏**（せんじゅねんぶつ））の浄土宗を開いた。彼は、ひたすらに阿弥陀仏の名を唱えるだけで、誰でも極楽浄土に往生できると説いた。その教えは、貴賤を問わず多くの人に受け入れられたが、旧仏教勢力の圧迫を受けて、法然は讃岐（土佐とする説も有力）に流された。それにより、かえって庶民や地方の武士に教えは広まった。
- **浄土真宗**……貴族の出である**親鸞**は、比叡山で修業したのちに法然の弟子となり、師の教えをさらに徹底させた。親鸞は自力の行いはすべて捨て、ひたすら阿弥陀仏の衆生救済の誓い（＝弥陀の本願）を信じる「**絶対他力**」の信仰を説いた。▼また、善人よりも自分の罪を自覚した悪人の方が仏にすがろうとする心が強いから、いっそう阿弥陀仏によって救われるという「**悪人正機**（あくにんしょうき）」の教えを説いた。▼法然の流罪のとき、親鸞も越後に流されたが、赦されてからも30年近くも関東にとどまって布教し、その教えは地方武士・農民に広まった。
- **時宗**……同じ浄土宗の流れの中からやや遅れて出た**一遍**は、念仏を唱えれば善人・悪人や信心の有無にかかわらず全ての人が救われるという教えを説き、集団で念仏を唱和して功徳を得る「**踊念仏**（おどりねんぶつ）」をすすめた。**一遍**は「捨聖（すてひじり）」と自称し全国を遊行（ゆぎょう）したことから「**遊行上人**」とよばれ、生涯を通じて 250 万人に信仰を広めたと伝えられる。その教えは「時宗」とよばれ、地方の武士や農民に広く受け入れられた。

  ※　時宗の名の由来……『阿弥陀経』の「臨命終時（命終わるときに臨んで）」という経文に基づき、平時にあっても臨終時の覚悟で念仏するという意味から付けられた。
- **日蓮宗**……安房（あわ）（今の千葉県）の一漁村に生まれた**日蓮**は、はじめ天台宗を学んだが、**法華経**（ほけきょう）こそが仏陀（ぶっだ）の真意を伝える経典であるとし、題目（だいもく）（「**南無妙法蓮華経**（なむみょうほうれんげきょう）」）を唱えることで救われると説いた。日蓮は、鎌倉を中心に法華経による鎮護国家を志し、辻説法で他宗を激しく攻撃したので、幕府によって佐渡に流されたが、その教えは関東・北国の武士や商人に広まっていった。
- **臨済宗**……法然と同じ頃、やはり比叡山に学んだ**栄西**は、宋より禅宗の一派である**臨済宗**を本格的にもたらした。臨済宗は、坐禅に打ち込み、師から示される**公案**と呼ばれる設問を解くための必死の努力の中から悟りが開けると説く。栄西の自力と克己を尊ぶ教えは武士の気性に適合し、関東の武士たちを中心に受け入れられた。
- **曹洞宗**……貴族の家に生まれた**道元**は、栄西の門に禅を学んだのち宋に渡り、**曹洞禅**をおさめて帰朝した。名誉や利益を求める心（名利（めいり）の念）こそが修業の妨げであるとして、ひたすら坐

禅に徹すること(「**只管打坐**」)により悟りを開こうとした。▼道元は権力に近づくことを避け、北陸の地方武士に迎えられて**永平寺**を開いて、厳しい修業の中で弟子を養成した。その教えは地方武士や農民の間に広まった。

- **建長寺**……神奈川県鎌倉市山ノ内にある臨済宗建長寺派の本山。1253 年 5 代執権**北条時頼**が建立。開山は宋僧**蘭渓道隆**。もと刑場であった因縁から地蔵を本尊とする。

(2) それ以外の鎌倉文化



- **東大寺南大門**……陳和卿(宋の鋳物師)の協力を得た重源が、宋の寺院建築を模範とした「**大仏様**」(天竺様とも)を用いて東大寺を再建した。大仏様は天井を張らず、架構が見えるようにして全体的な構造美を示し、柱は先細りとなっている。東大寺南大門はその代表的遺構。



- **円覚寺舎利殿**……円覚寺は鎌倉市にある臨済宗円覚寺派の大本山。1282 年 8 代執権**北条時宗**が建立。開山は宋僧**無学祖元**。舎利殿は「**禅宗様**」(唐様とも)と呼ばれる中国から禅宗とともに伝わった建築様式の代表的遺構。禅宗様は、白木の丸柱や細い桟のついた戸などに細やかな木材を用いて清楚な美しさを表現するのが特色。右上の写真。





- 三十三間堂(蓮華王院本堂)……京都市東山区にある天台宗の寺(右上の写真)。平安末期、**後白河法皇**の勅願により**平清盛**が創建。1266 年再建された。内陣の空間が 33 間あるところから三十三間堂という。その建築様式は平安時代以来の日本的なやわらかさな美しさをもつ「和様」と呼ばれる。▼本尊の「千手観音坐像」と 1001 体の「千手観音立像」はともに運慶の長男湛慶一門の作。



- **東大寺南大門金剛力士像**……阿形・吽形の一対の仁王像。1203 年造立。奈良仏師の**運慶・快慶**の合作による寄木造の傑作。右上の2葉の写真。
- 快慶……生没年不明。12 世紀末頃の仏師。代表作「東大寺南大門金剛力士像」、「**東大寺僧形八幡神像**」(右の写真)。(薬師寺僧形八幡神像は平安時代初期の弘仁・貞観文化)。
- 六波羅蜜寺空也上人像……六波羅蜜寺は京都市東山区にある真言宗の寺。963 年空也の創建と伝える。空也は「市聖」といわれた、平安中期に浄土信仰を説いた民間布教僧。上人像は鎌倉時代の康勝(伝・運慶の四男)の作で、口から南無阿弥陀仏を表す 6 体の阿弥陀仏を出している。右の写真。



- 東大寺重源上人坐像……鎌倉初期、東大寺再興に活躍した重源の肖像彫刻。木像彩色。運慶一派の作とされる。



- **似絵**(にせえ)……鎌倉時代に発達した大和絵の肖像画。実際の人物を写実的に描き、個性まで表現した。藤原隆信(たかのぶ)・信実(のぶざね)父子の名手があらわれ、隆信は伝源頼朝像(神護寺蔵)、信実(のぶざね)は後鳥羽上皇像などを残した。(右の写真＝伝源頼朝像)
- **一遍上人絵伝**……鎌倉後期の絵巻物。一遍の生涯を描いたもの。『一遍聖絵(ひじりえ)』ともいう。鎌倉時代の絵師円伊(えんい)の作。当時の庶民生活や風景および大和絵研究の好資料。(右下の写真)
- **蒙古襲来絵巻**……「蒙古襲来絵詞」とも。御家人竹崎季長(たけざきすえなが)が、元寇の戦いで奮戦した自分の姿を描かせたもので、当時の日本の武士と元軍の戦い方がうかがえる貴重な資料。(右下の写真)



- 北野天神縁起絵巻……京都市北野神社所蔵の鎌倉初期の絵巻物。
- **金沢文庫**(かなざわぶんこ)……「かねざわぶんこ」とも。鎌倉中期、北条義時の孫の**北条実時**(ほうじょうさねとき)が**武蔵国**金沢(現・横浜市金沢区)称名寺(しょうみょうじ)内に開設した私設図書館。石川県金沢市にはないことに注意。



- **北条実時**(さねとき)……1224～76。執権北条義時の孫。**評定衆**として時頼・時宗らを助けた。学問を好み、自分の蔵書を公開して**金沢文庫**を設けた。
- **愚管抄**(ぐかんしょう)……天台座主**慈円**(じえん)の歴史書。1220 年成立。歴史の展開としての「道理」と末法思想によって歴史をみる。最初の歴史哲学的著述。
- **吾妻鏡**(あづまかがみ)……1180 年の 源 頼政(みなもとのよりまさ)の挙兵以後 1266 年までの諸事件を日記体に記した鎌倉幕府の記録。鎌倉時代の最も重要な資料。のちに徳川家康も愛読した。
- **方丈記**(ほうじょうき)……鎌倉前期、**鴨長明**(かものちょうめい)の随筆文学。無常を感じて閑居した心境を綴ったもの。『枕草子』、『徒然草』と並ぶ日本の代表的随筆の1つ。
- **徒然草**(つれづれぐさ)……1331 年頃成立。**吉田兼好**(よしだけんこう)の傑作随筆。動乱期の人間・社会の深い洞察を簡潔・自由な筆で写す。
- **西行**(さいぎょう)……1118～90。平安末期の歌人。俗名佐藤義清(のりきよ)。もと鳥羽法皇に仕えた北面の武士。23 歳で出家、諸国を行脚し、旅の詩人として自然・人生を叙情的に歌った。『新古今和歌集』に最も多く歌がおさめられている。家集に『山家集(さんかしゅう)』。
- **新古今和歌集**……1205 年、後鳥羽上皇の命によって、藤原定家(ふじわらのていか)らが編集した勅撰和歌集。編纂年代は『古今和歌集』のちょうど 300 年後。
- **平家物語**……仏教的無常観に基づく叙事詩的物語で、軍記物語の代表。成立は鎌倉中期と推定されている。琵琶法師によって語られた。

【16】 室町時代（南北朝時代含む）

- **建武の新政**……「建武の中興」とも。鎌倉幕府滅亡後、1334年6月～1336年12月にかけて、後醍醐天皇が行った天皇親政の復古政治。新政権の基本はすべてを天皇の裁断とすることであり、土地の所有権の認定も天皇の出す命令書によるとした。しかしあまりにも急速に天皇への権限集中がはかられたため、殺到する恩賞請求や所領安堵の要求に対処できず、政権は信頼を失っていった。また、内裏造営のために増税を行い、社会慣行や前例を無視するような専制政治が行われたため、公家に比べて恩賞が少ないと不満を抱く武士を中心にますます政権に対する失望と不満が高まっていった。そして武家政権の再興を志すようになった源氏の棟梁**足利尊氏**の離反により、わずか2年半で崩壊。
- 南北朝動乱……1336 年 6 月、尊氏は光厳上皇を奉じて入京し、光明天皇をたてて、11 月には『建武式目』を制定し室町幕府を開いた。それに対し後醍醐天皇は、12 月に京都を逃れて吉野の山中に籠り、正統の皇位にあることを主張した。それで、足利政権に擁立された持明院統の朝廷（北朝）と、吉野にある大覚寺統の朝廷（南朝）の、2つが並び立つ状態となった。その後、56 年間にわたり、両統に連なる勢力は互いに争った。この時代を南北朝時代と呼ぶ。
- 1336 年……いざ去ろう僕は行くのだ、吉野の山へ　▼後醍醐天皇が京都を逃れた時に発した言葉
- 守護大名の強大化……こうした争乱の中で、室町幕府が国ごとに派遣した軍事統率者である守護の役割が大きな意味を持つようになり、権限が大幅に拡大した。とりわけ観応の擾乱の最中 1352 年に出された「半済令」は特に動乱の激しかった近江・美濃・尾張3国の荘園・公領の年貢の半分を、1年だけ兵糧米として守護が預かるというもので、その効果は大きかった。守護はこの権限を利用して荘園や公領を侵略し、それを地方武士たちに分け与えて彼らを統制下に組み込んでいった。守護の中には一国全体に及ぶ支配権を確立する者も現れ、任国も次第に世襲されるようになった。鎌倉時代の守護と区別して、室町時代の守護を「守護大名」と呼ぶこともある。
- 観応の擾乱……1350～52。足利尊氏と弟の足利直義の抗争。最初に、尊氏の執事の高師直と尊氏の弟の足利直義の抗争で、直義が、高師直を殺害した。その後、尊氏と直義が戦い、尊氏、直義を毒殺。
- 2代将軍、足利義詮……中国の国号が元から明へと変わる。義詮の弟、足利基氏（初代鎌倉公方）、鎌倉公方を名乗る。鎌倉公方の補佐役として関東管領が置かれ、上杉氏が世襲する。
- 3代将軍、**足利義満**……最初に九州を平定。**後醍醐天皇**の子、征西将軍懐良親王（九州の南朝）を、九州探題の**今川貞世**（了俊）に追放させる。京都の将軍補佐役として**三管領**（細川・斯波・畠山）を置き、侍所の所司（長官）には**四職**（赤松・一色・山名・京極）のなかから任命された。
- **南北朝合一**……南北朝の動乱が始まって半世紀も過ぎると南朝勢力も衰えてきた。室町幕府3代将軍**足利義満**は 1392 年南朝の後亀山天皇（大覚寺統）に対して、大覚寺統（南朝）と持明院統（北朝）の両統が交替で皇位につくという提案を行った。これを受け入れた後亀山天皇は入京し、北朝の後小松天皇（持明院統）に神器を渡し、ここに南北朝合一が実現した。しかし、義満は提案を反故にしてしまった。

- 1392 年……いざ国はひとつだ、南北朝　▼1192 年と並んで覚えやすい年の双璧
- **足利義満**……1358～1408。室町幕府 3 代将軍。京都室町に将軍邸宅「花の御所」を営む。1392 年南北朝合一を成就し、北山に**金閣**を建て、**北山文化**を現出。明と国交を開き、「日本国王臣源」と称し、**日明貿易**（**勘合貿易**）に努めた。1404 年に日明貿易を始めたのは足利義満であるが、義満が貿易を開始した時の将軍は4代将軍足利義持である。
- **明徳の乱**……1391 年、有力守護山名氏清の反乱。11 カ国の守護職を兼ねた山名氏の勢力を恐れた将軍足利義満は氏清らを挑発し、氏清らが挙兵して京都を襲うと、大内・細川・畠山らの兵を集めて氏清を討った。「六分一殿」と呼ばれていた山名氏の勢力はこれで一時衰えた。
- **山名氏清**……1344～91。南北朝時代の武将。3 代将軍足利義満に仕え、南朝との戦いに功を立て、和泉・丹波・美作・因幡の守護となる。一族合わせて 11 カ国を領し、「六分一殿（衆）」と呼ばれ強勢を誇ったが、一族の内紛と義満との反目から 1391 年明徳の乱を起こし敗死した。
- **応永の乱**……1399 年、有力守護大内義弘が幕府の圧迫に耐えかね、和泉の堺で起こした反乱。義満の討伐を受けて敗死。
- 大内義弘……1356～99。南北朝～室町前期の武将。周防・長門・石見の守護を父弘世から継ぎ、九州平定の功により豊前を、明徳の乱の功により和泉・紀伊を加えて 6 カ国の守護となる。朝鮮との貿易を行って巨利を得、富強を誇ったが、将軍足利義満と対立し、1399 年応永の乱を起こし、堺で敗死した。
- **日明貿易**（**勘合貿易**）……1404 年、足利義満が明と勘合による朝貢貿易を開始。▼日本からの輸出品は刀剣・槍・鎧などの武器・武具類、扇・屏風などの工芸品、銅・硫黄などの鉱産物。輸入品は銅銭のほか、生糸・高級織物・陶磁器・書籍・書画などで、これらは唐物とよばれて珍重された。▼特に大量にもたらされた銅銭（永楽銭）は、日本の貨幣流通に大きな影響を与えた。
- **勘合**……明国が外国との貿易で海賊船（倭寇）や密貿易を防ぐために作製し、日本などに与えた割符。日本からの遣明船は、明から交付された勘合を持参することを義務づけられた。これにより日明貿易を勘合貿易ともいう。
- 朝貢貿易……日明貿易は明を中心とする国際秩序の中で行われたため、国王が明の皇帝へ朝貢し、その返礼として品物を受け取るという形式を取った。▼朝貢形式の貿易は、滞在費・運搬費などすべて明側が負担したので、日本側の利益は大きかった。明からの返書には「日本国王源道義」と書いてあり、これに対して、義満は自らを「日本国王臣源」と名乗って国書を送った。臣源を名乗ったことは、明への臣従を意味する。その後明の勘合を得て、勘合貿易を行った。
- 鹿苑院太上天皇……順調に出世していった足利義満は天皇・上皇になりたくて、生前中に「鹿苑院太上天皇」と書かれた位牌まで作らせた。死後に義満を天皇にするという話が朝廷から持ち上がったが、義持が拒否した。また、義持は勘合貿易も一時中断させた。
- 応永の外寇……1419 年、李氏朝鮮、倭寇の本拠地とみなした対馬を攻める。
- **永享の乱**……1438 年、鎌倉公方足利持氏が幕府に背き、6 代将軍足利義教が討伐。持氏は挙兵したが上杉憲実に敗れ、翌 1439 年持氏の自殺で終わった。以後、関東管領の上杉氏が関東支配の実権を握った。

- ➢ 鎌倉公方……足利尊氏は、鎌倉幕府の基盤であった関東を治めるため、子の足利基氏(もとうじ)を「鎌倉公方」として「鎌倉府」(関東府)を開かせ、東国の支配を任せた。以後、鎌倉公方は基氏の子孫が受け継ぎ、鎌倉公方を補佐する「関東管領(かんとうかんれい)」は上杉氏が世襲した。鎌倉府の組織は幕府とほぼ同じで、権限も大きかったため、やがて京都の幕府と衝突することが多くなっていった。

- ❑ **上杉憲実**……1410？～66。関東管領。**足利学校**を再興したことで知られる。永享の乱で鎌倉公方足利持氏を破り、1439 年持氏を自殺に追い込んだ。
- ❑ **正長の土一揆**……1428 年、5代将軍義量(よしかず)の死後、将軍空位時に起こった代替わり一揆。近江の馬借(ばしゃく)(運送業者)の蜂起をきっかけとする農民による徳政一揆。日本開闢(かいびゃく)以来の一揆。
- ❑ **嘉吉の乱**……1441 年、播磨守護**赤松満祐**(みつすけ)が 6 代将軍義教(よしのり)を謀殺。山名氏ら諸将が満祐を討伐して赤松氏は衰退した。以後、山名氏の勢力が巨大となっていった。この事件は室町時代の特に後半の戦国時代の特徴である下剋上(げこくじょう)の先駆けとなるような事件となった。
- ❑ 嘉吉(かきつ)の土一揆……1441 年、7代将軍義勝の時に京都で起こった徳政一揆。借金帳消しの徳政令(とくせいれい)が出された。
- ❑ 戦国時代の先駆け……8代将軍義政の時に、足利持氏(永享の乱で自殺)の子足利成氏(しげうじ)が、上杉憲実(のりざね)の子を謀殺し、下総(今の茨城県)で古河(こが)公方を名乗り、関東管領の上杉氏と全面抗争に入った。一方、義政は成氏への対抗上、弟の足利政知を関東に派遣したが、伊豆で堀越公方を名乗り、古河公方とにらみ合い、関東は他に先駆けて戦国時代の様相を呈した。
- ❑ **応仁の乱**……1467～77。畠山・斯波両家の家督争いに、足利義視(よしみ)(義政の弟)と義尚(よしひさ)(義政の子)の家督争い、それに幕府の実権をめぐる**細川勝元**(かつもと)と**山名持豊**(もちとよ)**(宗全**(そうぜん)**)**の対立がからんで起きた 11 年間の大乱。その結果、公家勢力、将軍の権威は失墜し、世は戦国時代となる。
  足利義政は、弟の義視を次期将軍と決め、有力守護大名の一人、細川勝元をその後見人とした。一方、日野富子は息子義尚の後ろ盾として山名宗全を選んだ。大大名の大内政弘が2万人の大軍を率いて山名宗全側の西軍の味方についた。東軍の旗頭のはずであった義視は山名宗全側に走り、裏切られた兄の義政は怒り、天皇の勅命によって弟義視の将軍後継の権威を剥奪し、息子義尚(よしひさ)を後継者として指名した。これにより敵と味方は入れ替わり、東軍は義政、富子、義尚(よしひさ)、細川勝元であり、西軍は義視(よしみ)、山名宗全、大内政弘という図式に変わって戦われた。
- ❑ 1467 年……一世むなしい応仁の乱 ▼世のむなしさを感じ、文化に走った義政であった。
- ❑ **足利義政**……1436～90。室町幕府 8 代将軍。応仁の乱の原因を作る。奢侈を好み、**銀閣**(**慈照寺**)を建て、美術を愛好し、いわゆる**東山文化**を生んだ。慈照寺東求堂同仁斎とよばれる書院は**銀閣**とともに現存する室町時代の貴重な遺構。
- ❑ **細川勝元**……1430～73。管領(かんれい)。応仁の乱の東軍の将。義政の子足利義尚(よしひさ)をたて山名持豊(やまなもちとよ)の西軍と戦ったが、勝敗決せぬまま死去。
- ❑ **山名持豊**(**宗全**(そうぜん))……1404～73。室町時代の武将。応仁の乱では西軍の将として義政の弟足利義視をたて、細川勝元率いる東軍と戦ったが、陣中で死んだ。
- ❑ **日野富子**……応仁の乱の結果、9代将軍には、義政の子足利義尚がなったが、実権は母親である日野富子が握った。1474 年山名宗全の後継者・山名政豊と細川勝元の後継者・細川政元

の間で和平協議が成立し戦いの大義名分はなくなったが、小競り合いが繰り返され、都では略奪や乱暴狼藉が横行していた。畠山義就に、兄政長と戦う軍資金を与えれば都から兵を引くと考えた富子は西軍の義就に1,000貫文貸与という形で資金を与え、都から退却させた。更に、同じく敵方の大内政弘にも従来通り四カ国を治めることを幕府として許し、朝廷からの叙位任官をとりつけて、京都から撤退させた。大内政弘は、幕府の敵方であったにもかかわらず、官位と領国を確保し、敵方の東軍諸将が見守る中堂々の撤退をし、国元へと凱旋した。このように、応仁の乱の終結に関しては日野富子の政治的手腕、女性ながらの平和的手腕が大きくものを言った。乱の終結後、京都では経済的な発展が大いにみられるようになった。しかし、義尚は酒に溺れ、25 歳で病死し、その後足利将軍家の威光はよみがえることはなく、裏切りと陰謀と殺戮がうごめく戦国時代になっていった。　　「偽りの　ある世ならずは　ひとかたに　たのみやせまし　人の言の葉」

【１７】 戦国時代

- **下剋上……**下剋上の時代に入ると、農民は国人（地方に土着した武士）層を、国人層は守護代を、守護代は守護大名を、そして守護大名は将軍を圧迫し、権力を手に入れようとした。13 代将軍足利義輝の代になると、幕府の実権は細川氏の家臣三好長慶に、さらに長慶の家臣松永久秀に移り、その久秀によって将軍が殺される有様であった。一方、各地で守護、守護代、国人など、様々な階層出身の武士たちが自らの手で分国（領国）をつくりあげ、独自の支配を行う地方政権が誕生した。中部地方では、16 世紀半ばに越後の守護上杉氏の守護代であった長尾氏に景虎が出て、関東管領上杉氏を継いで上杉謙信と名乗り、甲斐から信濃に領国を拡大した武田信玄としばしば北信濃の川中島で戦った。中国地方では、守護大名として権勢を振るった大内氏が重臣の陶晴賢に国を奪われ、さらに安芸の国人から起こった毛利元就がこれに代わり、山陰地方を制した尼子氏と激しい戦闘を繰り返した。このように、今川氏や武田氏などを除いて、守護大名がそのまま戦国大名になった例は少なく、むしろ守護代や国人から身を起こした者の方が圧倒的に多かった。
- **山城の国一揆……**1485 年、南山城地方（京都府南部）で国人や地侍が起こした一揆であり、畠山政長、義就兄弟を追放し、国掟という独自の法を定め、8年間南山城は自治的に支配された。
- **加賀の一向一揆……**1488 年、浄土真宗（一向宗）の信者が加賀の守護富樫政親を殺害したが、織田信長の石山本願寺（大阪市）攻めによって 1580 年平定された。
- 戦国大名の分国支配……戦国大名は、絶え間ない戦いに勝ち抜き、領国を安定させなければ支配者として地位を保つことができない。そこで、家臣団統制や領国支配のための政策を次々と打ち出し、中には領国支配の基本法である分国法（家法）を制定するものも現れた。

●戦国大名の分国法または家法

大名	国名	法令
伊達氏	陸奥	塵芥集
北条氏	伊豆・相模	早雲寺殿二十一箇条

武田氏	甲斐	甲州法度之次第
今川氏	駿河・遠江・三河	今川仮名目録
朝倉氏	越前	朝倉孝景条々
大内氏	周防	大内氏掟書（大内家壁書とも）

- 撰銭令……11代将軍足利義澄が1500年、撰銭をしてはいけないという命令を出した。しかし、効果がなかったので、後に悪銭と比較的質の良い銭との交換率を設定するようになった。
- 三浦の乱……1510年、海賊に間違われた無実の日本人が当地の当局に捕えられ、処刑されたことに端を発し、朝鮮の三浦（富山浦・及而浦・塩浦）の倭館に住む日本人居留民が暴動を起こした。これを三浦の乱という。
- **寧波の乱**……博多商人がバックアップする大内氏と、堺商人が支援する細川氏が、1523年中国明の寧波で激突した。勝ったのが大内氏で以後大内氏が貿易を独占し、城下町の山口は小京都と呼ばれるほど繁栄した。
- **天文法華の乱**……1532年、法華宗が六角氏と組んで、一向宗（浄土真宗）の山科本願寺を焼打ちにした。これを法華一揆という。しかし、その後、六角氏は比叡山延暦寺と組んで、法華宗寺院を焼打ちにした。これを**天文法華の乱**という。

【18】 安土桃山時代

- **織田信長**……1534～82。戦国大名。1560年、今川義元を桶狭間に破って、威名天下に鳴り、諸方を征略。**安土城**を築き、統一政権樹立を志したが1582年、京都本能寺で明智光秀に襲われ自刃した。▼信長の革新性は機動力に富む強力な軍事組織をつくりあげただけでなく、伝統的な政治や経済の秩序・権威に挑戦してそれらを破壊したことにある。
- **織田信長**の戦い1（信長の領土拡張期）……将軍義輝が家臣の三好長慶の家臣松永久秀により殺害された後に、1568年、足利義昭を奉じて上洛。義昭のために二条新第を造営した。1570年、姉川の戦いで越前の朝倉義景、近江の浅井長政の連合軍を破り、近畿を平定した。中世最大の宗教的権威であった比叡山延暦寺を1571年に焼打ちにした。反信長連合を呼びかけた足利義昭を1573年、京都から追放し、この年をもって室町幕府は名実共に終わることになる。
- **織田信長**の戦い2（信長の天下統一の道）……1575年、長篠合戦で武田信玄の子・武田勝頼を倒す。1574年、伊勢の長島一向一揆を平定し、翌年越前一向一揆も平定する。そして、1580年に石山本願寺を包囲し、本願寺11代門主の顕如が寺を明け渡し、石山本願寺との和睦がなる。
- **長篠の戦い**……1575年、三河国長篠（現・愛知県新城市長篠）で信長・家康の連合軍が武田勝頼軍と戦う。勝頼が長篠城（城主奥平貞昌）を攻めている間に、設楽原までゆっくりと行軍し、勝頼に気づかれないように設楽原に空堀を作り三重もの柵を築いて野城[陣城]を造った信長が武田勝頼を長篠城から設楽原におびきよせた。一見野戦をしているようにみせかけて実質的には勝頼に城攻めをさせた信長軍が、当時無敵と言われた武田の風林火山の騎馬隊を退けて大勝した。

信長の勝利の方程式 その1……鉄砲隊だけには頼らない。

信長の勝利の方程式 その2……野城[陣城]を造る。

信長の勝利の方程式 その3……勝頼を設楽原(したらがはら)の野城までおびきよせる。

心理戦を制した信長が自分の勝利の方程式通りに動くように、勝頼の心理を誘導した。ちなみに、戦いは梅雨の時期に行われ、鉄砲による三段攻撃は後に作られた軍記物を面白くするための作り話であり、実質的には不可能であった。

- **一向一揆対信長**……1570 年代に信長を悩ましていたのは、本願寺 11 代門主**顕如**に率いられていた一向宗門徒の反乱であった。1574 年には伊勢長島の一向一揆を、1575 年には越前の一向一揆を鎮めた信長は、1580 年石山本願寺を包囲し顕如からの和睦を受け入れ、ここに石山戦争は終結した。
- **一向宗**……浄土真宗のこと。15 世紀前半、浄土真宗は教勢が振るわなかったが、15 世紀後半に**蓮如**が出て、本願寺を興隆した。1465年に比叡山衆徒のために本願寺を焼かれて1471年越前吉崎に坊舎を構え、教化活動を展開し、一向宗を一大宗教に育てた。**蓮如**が布教のために書いた手紙は**御文**と呼ばれ、**講**の集まり等で読み聞かされ、門徒の結合を深め、布教に大きな役割を果たした。
- **講**……信仰者の団体で、随時に集まって経を読み、法話を聞いたあとに酒食を共にして連携を深めた。
- **楽市楽座**(らくいちらくざ)……特権的な座や市場の独占を廃し、商品取引の拡大円滑化を図った政策。1577 年織田信長が安土城下に布令したものが有名。領主の城下町繁栄と商業統制のための政策。
- **南蛮貿易**……16世紀中期から鎖国までの約100年間行われた「南蛮人」(ポルトガル人・スペイン人)との貿易。ポルトガルが中心で、1543 年から来航し、マカオを根拠地として日本と中国・南方との中継貿易を行った。スペインは 1584 年から来航、マニラを根拠地とした。▼貿易とキリスト教布教の一体化が特色。九州の諸大名は富強を目的として南蛮船を歓迎、貿易港として平戸・長崎・豊後府内(現・大分)が栄えた。▼輸出品の中心は銀、輸入品は中国産の生糸・絹織物が主。
- **鉄砲伝来**……1543 年**種子島**(たねがしま)に伝来。火縄銃で「種子島銃」とも呼ばれた。やがて九州・堺・紀伊根来(ねごろ)・近江国友(くにとも)などの鉄砲鍛冶により製造され、普及した。
- 1543 年……以後予算食う鉄砲伝来 ▼確かに鉄砲製造はたくさんお金がかかる。
- **キリスト教伝来**……1549年スペイン人イエズス会宣教師**フランシスコ・ザビエル**によってもたらされる。
- 1549 年……以後よく広まるキリスト教 ▼確かにそうだ。1600 年頃日本には約 30 万人のキリスト教信者がいたと言われている。
- **天正遣欧使節**(てんしょうけんおうしせつ)……イタリア人イエズス会宣教師ヴァリニャーニ(「バリニャーノ」とも)のすすめで、1582 年 1 月、九州の大村・大友・有馬の 3 大名がローマ教皇に送った少年使節。伊東(いとう)マンショ・千々石(ちぢわ)ミゲル・中浦(なかうら)ジュリアン・原(はら)マルチノの 4 少年が派遣され、ローマで教皇グレゴリウス 13 世に会い、1590 年に帰国した。
- **本能寺の変**……1582 年 6 月、明智光秀が主君織田信長を京都の本能寺に襲った事件。信長は自刃。しかし事変の 11 日後、山崎の戦いで明智は羽柴秀吉に討たれ、秀吉は信長の後継者として名乗りをあげた。

- 光秀の動揺……1582 年5月、**明智光秀**は主君**織田信長**に領地である畿内 34 万石を召し上げられ、突然出雲・石見への国替えを命じられ、「毛利軍と戦う羽柴秀吉のもとに駆けつけ、加勢せよ」と言い渡された。理不尽な国替え、秀吉の部下とされた屈辱。それは、これまで信長に尽くしてきた光秀にとって、許し難い仕打ちであった。そして、その光秀の動揺に目をつけた黒幕がいた。
- 光秀の黒幕……光秀が本能寺の変の直後に書いた書状。「上意馳走申しつけられて示し給い快然に候」『上意』という言葉から、本能寺の変が光秀よりも身分の高い人物からの命令であることがわかる。即ち、「将軍」もしくは「天皇」である。更にまた、「ご入洛のこと即ち御請け申し上げ候」。天皇を始め朝廷関係者はもともと京都にいるので、ご入洛という言葉は使用されない。明智光秀に本能寺の変を命じた高貴な人物はただ一人、室町幕府 15 代将軍足利義昭ということになる。本能寺の変は、信長という改革者に追いつめられた室町幕府の最後の抵抗とも言える。
- **豊臣秀吉**……1536～98。安土桃山時代の武将。卑賤の出でありながら、織田信長に仕え、他の家臣のいやがることも命がけで行い、しばしば戦功をたてた。信長の死後、1582 年山崎の戦いで明智光秀を破り、更に翌年 1583 年賤ヶ岳の戦いで信長の筆頭家老柴田勝家(しばたかついえ)を破って主導権を確立。1590 年、小田原城を本拠に伊豆・関東諸国に勢威を振るった後北条氏(ごほうじょうし)を滅ぼし、伊達政宗をも屈服させ**天下統一**を達成した。
- 光秀と秀吉……光秀はかつての主君であった信長を世の中を混乱させた革命家としてとらえていた。信長を倒すことにより、秩序を回復しようとした。天皇や将軍を中心とした伝統的な権威を中心に社会を治めようとした。しかし、織田家の武将達は成り上がり者ばかりであった。光秀が信じていた親戚細川藤孝(細川忠興の父)は光秀を謀反人と公言し、光秀のはからいで大和郡山の城主に任じられた筒井順慶は光秀の要請に応じることなく城を出ず、その他、新興武将たちは光秀のもとに集まらなかった。一方秀吉は、信長を先駆的な改革者とみなし、自分が信長の意志を引き継ぐ者であり、そのために信長の仇を討つのだと、明確に新時代のスローガンを掲げた。自分の利益になり、かつ、大義名分も秀吉にある、ということで秀吉のもとに譜代の有力な家臣達がぞくぞくと集まって来た。また、類い稀なる気配りと人心掌握力で、中川清秀、池田恒興、高山右近といった摂津三武将を味方につけた。更に、信長の仇討ちを形のうえでも示すために丹羽長秀とともにやってきた織田信孝(信長の三男)を総大将に据えた。このように大義名分を成立させ、中国大返しをした時の家臣団は8,000 人であったが、**山崎の戦い**の際には秀吉の陣営は2万 8,000 人にふくれあがっていた。一方、明智光秀の側は直属の家臣団1万 3,000 人のままであった。
- **賤ヶ岳の戦い……山崎の戦い**で勝利した秀吉は、信長の後継者の有力候補となるが、最大のライバルはお市の方を妻とした織田家筆頭家老**柴田勝家**であった。そして、両者が信長の後継者をかけて戦ったのが、1583 年の賤ヶ岳の戦いである。この戦いで勝利した秀吉は信長の後継者の地位を確立し、石山本願寺跡に大坂城を築城した。
- **小牧・長久手の戦い**……1584 年、徳川家康が織田信長の次男である信雄を助ける形をとって、秀吉と尾張の小牧・長久手で戦った。勝負はつかず、互いにその実力を認め合うという形で講和した。

- 四国平定……1585 年、羽柴秀吉は四国の長宗我部元親を破り四国を平定し、朝廷から関白に任じられた。そして、翌年 1586 年には「豊臣」の姓をもらって太政大臣豊臣秀吉が誕生した。
- 1590 年……以後暮れてゆく北条氏
- **太閤検地**……「検地」とは、戦国～江戸時代、土地を実測し、収穫高・耕作人などを決定すること。1582～98 年にかけて豊臣秀吉が行った検地は検地を全国的規模で行っただけでなく、画期的な特徴をもっていたので特に「**太閤検地**」(「**天正の石直し**」とも)とよばれる。この太閤検地によって、荘園制は完全に崩壊し、大名知行制へと移行した。給与として土地を大名に与え、石高に応じて軍役を負担させた。
- **刀狩令**……1588 年豊臣秀吉が発令。諸国の農民から方広寺(京都市東山区)の大仏造営を口実に武器を没収した。兵農分離と一揆の防止が目的であった。
- 後北条氏……「小田原北条氏」とも。鎌倉幕府の執権北条氏と区別して後北条氏という。▼本姓は伊勢氏。初代長氏(**北条早雲**)は 15 世紀末に伊豆から相模に進出。子氏綱のとき関東南部を制圧して「北条氏」と称した。3 代氏康・4 代氏政のとき関東地方の戦国大名として威を振るったが、5 代氏直のとき豊臣秀吉に攻められ、1590 年滅亡した。
- 天下を統一した秀吉の経済的な基盤は 220 万石の直轄領(**蔵入地**)で、中央政府には**五大老・五奉行**を置いた。
- **五大老**……徳川家康(筆頭)、前田利家、宇喜多秀家、毛利輝元、上杉景勝
- **五奉行**……浅野長政(司法)、石田三成(行政)、増田長盛(土木)、長束正家(財政)、前田玄以(宗教)
- **文禄・慶長の役**……1592～96 年、1597～98 年の 2 度にわたって行われた豊臣秀吉の**朝鮮出兵**のこと。▼日本の侵略軍は殺害・暴行・略奪・放火など悪逆の限りを行った。秀吉の最大の汚点。
- 1592 年……異国に渡る侵略軍

【19】 室町時代の文化

(1) 南北朝文化

- **南北朝の五大史書**
- **神皇正統記**……「大日本は神国なり」の出だしで始まる南朝の**北畠親房**が書いた歴史書。「庶民は君に忠誠をつくすべき」という大義名分論に基づいて、南朝の正統性を主張している。
- **増鏡**……鎌倉時代の後鳥羽上皇から後醍醐天皇の隠岐からの帰還までを記している。南朝寄り。
- **太平記**……小島法師が書いたといわれる南朝寄りの軍記物。
- **梅松論**……足利尊氏の幕府創立を中心にした北朝の側に立つ戦記。著者は今川了俊とも高師直ともいわれている。
- **難太平記**……**今川了俊**の書いた北朝びいきの軍記物であり、『太平記』の誤りを指摘しつつ書かれている。

(2) 北山文化

- **金閣**……京都市**鹿苑寺**内にある 3 **層**の楼閣。室町前期、3 **代将軍足利義満**が京都**北山**に営んだ山荘の遺構。1950 年焼失、55 年再建。
- **夢窓疎石**……1275～1351。鎌倉末期・南北朝時代の禅僧。臨済宗の黄金期を築く。足利尊氏創建の京都五山（京都にある臨済宗の6つの寺院）第一位天竜寺の開山である。**西芳寺・天竜寺**などに残る卓抜な造園技術は有名。
- **能（能楽）**……もと社寺の祭礼に奉仕する猿楽に、民間に発達した田楽を取り入れ、宗教的芸能から庶民的な舞台芸術に発達。さらに**観阿弥・世阿弥**父子により芸術的な演劇に完成。
- **猿楽・田楽**……猿楽は古代・中世の芸能。滑稽を主とした雑芸・歌曲。▼田楽は平安中期以降流行した田植祭の祭礼神事芸能で、公家にも流行した。
- **風姿花伝**（花伝書とも）……**世阿弥**の能楽の芸術論。
- **世阿弥**……1363～1443。室町時代の**能**の大成者。**観阿弥**の子。能楽理論書として有名な『**風姿花伝**』（花伝書）を著わした。
- 五山・十刹……室町幕府は、北条氏以上に臨済宗に篤く帰依し、幕府の保護の下で大いに栄えた。義満の時代には、宋の官寺の制にならった「五山・十刹」の制度が設けられた。▼南禅寺を別格として五山の上におき、**京都五山**は天竜・相国・建仁・東福・万寿の五寺、**鎌倉五山**は建長・円覚・寿福・浄智・浄妙の五寺であった。十刹は五山に次ぐ寺格で、十の官寺が設けられた。
- **天竜寺**……京都市右京区嵯峨にある臨済宗天竜寺派の本山。京都五山第1位。**足利尊氏**が後醍醐天皇の冥福を祈るために建立。開山は**夢窓疎石**で、1345 年落成。その間尊氏は造営費を得るため、元に貿易船として天竜寺船を派遣した。夢窓疎石作の**庭園**は有名で、築山になっている。
- **西芳寺（苔寺）**……京都市右京区松尾にある臨済宗の寺。その庭園は**夢窓疎石**が造った築山式の代表的禅宗庭園で、現在一面に苔が繁茂して美しいため「苔寺」とも称されて広く鑑賞されている。
- 禅機画としての水墨画……墨の濃淡と描線の強弱による墨一色の東洋独特の絵が、禅僧により、宋・元から伝えられた。東福寺の画僧**明兆**、**「瓢鮎図」**を描いた相国寺の**如拙**、同じく相国寺の**「寒山拾得図」**を描いた**周文**は重要である。

(3) 東山文化

- **銀閣**……京都市**慈照寺**内にある**2層**の楼閣。室町中期、**8代将軍足利義政**が京都**東山**に造った山荘内の建物。

- **書院造**……室町時代に成立し、安土桃山時代に完成、江戸時代に普及する住宅建築様式。**禅院**の書斎の影響を受ける。現代和風建築の源。
- **銀閣寺東求堂**……京都市慈照寺にある建物の一つで、足利義政の持仏堂。1486 年建立。仏間と書院を持つ。名は「東方の人念仏して西方に生ぜんことを求む」の語による。▼書院は「**同仁斎**」と呼ばれ、四畳半で付書院と棚を持ち、四畳半茶室の初めとされる。▼また、「**東求堂同仁斎**」は室町中期に起こった住宅建築様式「**書院造**」の代表的遺構。（右写真）



- **樵談治要**……**一条兼良**が自らを樵夫にたとえて、**足利義尚**に政治論を説いたもの。
- **枯山水**……室町時代禅院の作庭様式。水を用いずに砂と石で山水自然の生命を表現。庭中で築いた小山や山形をした置き石を「盆山」という。
- **大徳寺大仙院庭園**……大徳寺は京都市北区にある臨済宗大徳寺派の大本山。反骨精神にあふれた**一休宗純**は大徳寺住持 48 世。▼大仙院は数多い大徳寺塔頭（大寺に所属する別坊）の一つで、その**庭園**は、多数の石組みと白砂で構成された**枯山水**の庭園である。
- **一休宗純**……1394～1481。**大徳寺**派の禅僧。当時の貴族的・出家的・禁欲的禅に対し、在家的・民衆的な禅を説く。文化人に参禅する者多く、影響大。**侘茶の祖村田珠光**も参禅している。
- **竜安寺**……京都市右京区にある臨済宗妙心寺派の寺。**枯山水**の代表的**石庭**。大小 15 個の岩石を配しており、虎が子を連れて川を渡ることを象徴しているとの解釈から、「**虎の子渡し**」といわれる。
- **水墨画**……墨の濃淡と強弱の描線による東洋独特の絵。禅僧により宋・元から伝えられ、初期の禅の精神を表現する宗教画から風景の山水画へ発達した。
- **四季山水図巻**……水墨画で有名な**雪舟**の 1468 年の作品。「**山水長巻**」ともよばれる。
- **雪舟**……1420～1506。相国寺の画僧。日本の水墨画を完成する。代表作『**四季山水図巻（山水長巻）**』、『秋冬山水図』、『天橋立図』。
- **狩野派**……狩野**正信・元信**父子により成立した画派。**水墨画**に伝統的な**大和絵**の手法を取り入れた。室町時代後半から江戸時代を通じて御用絵師として栄えた。京都大徳寺の大仙院にある「**大仙院花鳥図**」は**狩野元信**の代表作である。
- **連歌**……和歌の上の句と下の句とを唱和する文芸。**室町時代**に大成。
- **新撰菟玖波集**……**宗祇**が編集した連歌集。**正風連歌**のみ約 2,000 句を採択してある。1495 年成立。
- **宗祇**……1421～1502。**正風連歌**を完成。諸国を遊歴し、西行・芭蕉と並び遊歴歌人と称される。
- **侘茶**……豪華な書院の茶に対して草庵の茶をいう。簡素な小座敷・道具立てで、精神的深さを味わうもの。**村田珠光**に始まり、のちに安土桃山時代の**千利休**によって茶道として大成された。
- **足利学校**……下野国足利（現栃木県足利市）にある学校。鎌倉時代に足利氏が一族の学校として建てたが、**上杉憲実**が再興。フランシスコ・ザビエルによって「日本国中最も大にして最も有名な**坂東の大学**」として海外に紹介された。

【20】 安土桃山時代の文化

- **安土城**……1576年、**織田信長**が**近江**に築いた最初の近世的城郭。1582年本能寺の変で焼失。
- **姫路城**……姫路市にある平山城。池田輝政が慶長年間に築城したものであり、5層6階の大天守と3つの小天守があり、建物の高低、屋根の形態などが変化に富み、白鷺が羽を拡げたように見えることから「**白鷺城**」とも称される。城郭建築最盛期の貴重な遺構で、国宝に指定されるとともに、1993 年には世界文化遺産に登録された。(右写真)。



- 聚楽第……「じゅらくてい」とも。秀吉が大内裏跡に造営した城郭風邸宅。1587 年完成。翌年、**後陽成天皇**の行幸を仰ぎ、天下にその威を示した。1591 年豊臣秀次(秀吉の養子)が関白を継ぐとその居所となり、1595 年秀次滅亡のあと破壊された。▼**大徳寺唐門、西本願寺飛雲閣**はその遺構とも伝えられる。



- 伏見城……安土桃山時代、京都市伏見区にあった城。**豊臣秀吉**が晩年隠居所として築城。概観は城郭、中身は邸宅という邸宅城郭。1598 年、秀吉はここで亡くなった。▼秀吉の死後、秀吉の子秀頼は大坂城に移り、徳川家康が預かって政務を執った。▼1623年幕命により破壊。その廃址に桃の木を植えたので「**桃山**」という地名が残った。▼**都久夫須麻神社本殿**(滋賀県)(左上写真)は西本願寺の書院や唐門とともに伏見城の遺構といわれる。



- **千利休**……1521～91。**茶道(侘茶)**の大成者。堺の豪商出身。草庵茶室と侘茶を完成した。**信長・秀吉**に仕えたが、秀吉に自刃を命じられる。**妙喜庵待庵**(右写真)は千利休の設計。
- **障壁画**……壁画と障屏画との併称であるが、広義には障屏画と同義に用いる。▼障屏画とは、障子・襖・杉戸、あるいは屏風・衝立など移動のできる間仕切り用家具の面に描かれた絵画。▼障壁画には**水墨障壁画**と**金碧障壁画**があり、特に桃山時代から江戸初期にかけて装飾性に富む豪華な金碧障壁画の作品を生んだ。金碧障壁画は「**濃絵**」ともよばれ、**狩野派**の画人が健筆を振るい、安土桃山時代城郭建築の内部を飾った。

- **唐獅子図屏風**……**狩野永徳**の代表作。金碧（金色と青碧色）の六曲屏風に、連れだって歩く雌雄一対の唐獅子を描いた豪放な画風。
- **狩野永徳**……1543～90。御用絵師。**信長・秀吉**に仕え、安土城・聚楽第・大坂城の障壁画を描き、狩野派の地位を揺るぎないものにした。代表作『**唐獅子図屏風**』、『**洛中洛外図屏風**』。
- **長谷川等伯**……1539～1610。30 歳半ばで上京、長谷川派を率い、狩野派のライバルとして台頭した。金碧障壁画とともに水墨画にも優れた。後継者に恵まれず、やがて長谷川派は衰微したものの、近代に入ってその作品が再評価された。中でも「**松林図屏風**」（右写真）は、日本の水墨画を代表する名品として親しまれている。



- **フランシスコ・ザビエル**……1506～52。スペイン人のイエズス会宣教師。アジア布教の途次、1549 年鹿児島に渡来し、領主島津貴久の許可を得て布教。上京したが目的を達せず山口に戻り、領主大内義隆の保護を得て布教。
- **ガスパル・ヴィレラ**……1525～72。ポルトガルのイエズス会宣教師として 1556 年に来日。将軍義輝の許可で主に畿内で伝道。手紙で堺の様子を報告している。
- **ルイス・フロイス**……1532～97。ポルトガル人イエズス会宣教師。1563 年来日し、1565 年将軍足利義輝に謁見、ついで**信長**から布教の許可を得た。1592 年、秀吉の禁教政策によりマカオに赴き、のち再来して 26 聖人の殉教を目撃し、これをつぶさにローマに報告して長崎に没した。著書に『**日本史**』がある。
- **オルガンティーノ**……1533～1609。イタリア人イエズス会宣教師。1570 年に来日。信長の信任を受け、1576 年新たに南蛮寺を京都に建立。また安土にセミナリオを建設した。
- **アレッサンドロ・ヴァリニャーノ**……1539～1606。イタリア人。イエズス会の巡察師として 1579 年に来日。セミナリオ、コレジオを設立し、日本国内の布教区を3つに整理。**天正遣欧使節**を率いて 1582 年長崎を出航、インドのゴアで使節を見送り、使節の帰国と一緒に 1590 年、再び来日した。活字印刷機の輸入にも尽力した。
- **有馬晴信**……1567～1612。安土桃山時代のキリシタン大名。肥前有馬の城主。1579 年 13 歳で受洗。1582 年**天正遣欧使節**を派遣。1609 年長崎でポルトガル船マードレ・デ・デウス号を焼打ちし、12 年、讒言により切腹を命じられる（洗礼名ジョン・プロタジオ）
- **天正遣欧使節**……ヴァリニャーノの勧めで、九州の大村・大友・有馬3大名がローマ法王に送った少年使節。1582 年に出発し、90 年に帰国。
- **黒田如水**……黒田孝高、黒田官兵衛。1546～1604。竹中半兵衛亡き後、軍師として信長・秀吉に仕え豊前 12 万石を領する。中国大返しなど秀吉が重大な岐路に立った時、適切な助言を行い、秀吉に天下をとらせた。関ヶ原の戦いで徳川氏に属した。キリシタン大名（洗礼名シメオン）。豊臣子飼いの武将の一人黒田長政（ねねに育てられたようなもの）の父親。

- **小西行長**……1558?～1600。秀吉の部将。堺の豪商小西隆佐の子で南肥後の領主。朝鮮出兵に活躍。関ヶ原の戦いに敗れて刑死した。キリシタン大名としても有名。

【２１】 江戸時代

- **関ヶ原の戦い**……1590 年、北条氏が滅亡した後の関東に移され、約 255 万石の領地を支配する大名となった**徳川家康**は豊臣政権下での最高意思決定機関である五大老の筆頭の地位についた。ところが秀吉が死ぬと家康は大名間の縁組み禁止という掟をたちまち破り、それによって伊達政宗ら、のちに関ヶ原の合戦で東軍を構成することになる主要な大名との同盟関係を作った。それに異を唱えたのが五大老の決定したことを執行する五奉行のひとり石田三成であった。対立は深刻化し、三成はついに 1600 年五大老のひとり毛利輝元を盟主に兵をあげた。しかし毛利軍は内通していたため一兵も戦わなかった。また小早川秀秋の裏切りもあり、「天下分け目の戦い」もたった半日で決着がつき徳川家康の東軍が大勝した。これにより徳川の覇権が確立し、徳川家康は 1603 年江戸に幕府を開いた。
- **リーフデ号**……1600 年、豊後臼杵に漂着したオランダ船である。リーフデ号の水先案内人であった**ウィリアム・アダムズ**は、家康の外交顧問となり、三浦半島に領地を与えられ、日本橋に屋敷を与えられた。朱印船貿易に従事し、平戸のイギリス商館設立に尽力した。**三浦按針**ともいう。また、リーフデ号の航海士はオランダ人であり、**ヤン・ヨーステン**であった。ヤン・ヨーステンは家康に用いられ朱印船貿易に従事し、江戸に屋敷を与えられ（現、八重洲）、平戸オランダ商館設立に尽力した。
- 関ヶ原の戦いの家康勝利に貢献した原因。
  (1)1600 年オランダ船リーフデ号、黒島（大分県臼杵市）に漂着。**ウィリアム・アダムス（三浦按針）**に西洋甲冑の説明を受け、弾丸をはねかえす南蛮甲冑を製造。関ヶ原の戦い当日南蛮甲冑を着た家康は最前線へ出て、味方を鼓舞し、福島正則の奮闘を更に促し、小早川秀秋に裏切りの意志を固めさせた。
  (2)石田三成は細川忠興を寝返らせるために妻ガラシャを人質にしようとしたが、ガラシャは家臣に長刀で胸を突かせて死んだ。ガラシャを死に追いやったことで石田三成は怖じ気づき、東軍の武将達の妻を人質にすることを断念した。ガラシャの死の選択により、東軍の結束と団結力を削ごうとした三成の思惑は粉砕された。
  (3)1600 年 7 月 18 日、西軍は秀吉が祀られている豊国社で戦勝祈願を行ったが、ねね（北政所）は前年まで欠かさず参加していたにもかかわらず、その年は不参加であった。それはねねが西軍につかないことの意思表示でもあった。福島正則、浅野幸長、黒田長政といった秀吉子飼いの武将は西軍に属している大名に書状を送った。「われわれは西軍の戦勝祈願に参加しなかった政所様のために働いているのだから、分別を働かせて、我々と行動をともにしてもらいたい。」この書状を受け取った小早川秀秋は東軍への寝返りを考えた。

- 1600年……一路丸々天下を治めん関ヶ原 ▼まっしぐらに天下を全部治めようとする関ヶ原の戦い。
- **大坂の陣**……1614 年大坂冬の陣が始まるきっかけは家康の挑発だった。彼は方広寺の釣鐘の銘文に「国家安康」の文字があることを取り上げ、これは家康の名を切り裂いて家康を呪うものだと難癖をつけ、戦いに持ち込んだ（林羅山・金地院崇伝の入智恵）。しかし難攻不落の要塞である大坂城を攻め落とすことはできず、和平となった。和平の条件にはなかった内堀を埋めることを徳川方は強行した。大坂方の抗議に対して家康は「惣堀（外堀のこと）を総堀と勘違いしたのだろう」ととぼけて時間稼ぎをし、その間に2代将軍秀忠らが必死になって外堀の他に中堀・内堀を埋め尽くした。その結果、1615 年大坂夏の陣で大坂城はあっけなく落城し、頼みの真田幸村も戦死し、淀君と秀頼は自殺した。これで長い戦乱が終結し、名実ともに徳川氏の天下となった。
- **淀君**（秀吉の生前）……信長の妹お市の方と近江の浅井長政の娘。幼名は茶々。幼い頃に小谷城で父長政が義兄の信長に攻められ自害するのを経験し、戦国の世の無情さ・残酷さを目の当たりにした。本能寺の変後、お市の方は柴田勝家と再婚し、茶々ら3姉妹も越前北庄（きたのしょう）に身を寄せるが、1583 年賤ヶ岳の戦いで羽柴秀吉に敗れ、お市の方は勝家と共に自害した。茶々も自害を希望するが、「生きて菩提を弔ってほしい」というお市の方の希望により、自害をとどまり秀吉のところに身を寄せる。浅井家の長を自覚した茶々は二人の妹をめでたく嫁入りさせるのが自分の責任と感じ、秀吉の側室になることを決意した。茶々の乳母の大蔵卿の息子大野治長は「茶々さまが気の毒すぎる」と嘆いたが、茶々は「女には女の戦いがある」と秀吉の側室になり、秀吉の間に二人の男児ができる。兄は死亡したが、弟は後の秀頼になった。このころより、茶々は淀殿と呼ばれるようになる。
- **淀君**（秀吉の没後）……1600 年関ヶ原の戦いで勝利した家康は 1603 年征夷大将軍になった。大坂の豊臣家の財産を減らすために寺院復興を淀君らにもちかけた。淀君は神社仏閣への寄進によって徳川と豊臣が争いなく平和に共存することを願い、善光寺や出雲大社など全国で 90 余りもの神社仏閣を復興建立させた。そうしたなかで、朱子学者林羅山の策略に応じて家康は秀頼の上洛を命じた。淀君はこれにも応じて秀頼は二条城で家康に会うが、成長した秀頼を見て家康は豊臣を滅亡させる決意を固めた。その後、加藤清正、浅野長政と豊臣の遺臣たちが次々に亡くなり、方広寺鐘銘問題が起こり、さらに家康は、「大坂城明け渡し」、「秀頼君の江戸参勤」、「お袋様（淀君）の江戸への下向」のいずれかの条件を飲むようにせまり、大坂方がこれを拒絶したことにより、1614 年の大坂冬の陣が始まり、1615 年大坂夏の陣で淀君と秀頼は自害した。京都右京区三宝寺一角に淀君の侍女が淀君を慕って建てた供養塔がある。徳川家の厳しい監視の目をかいくぐって淀君・秀頼のために建てられた供養塔。周囲の者に優しかった、鎧をまとった母淀君の本質を静かに物語っている。
- **徳川家康**……1542～1616。江戸幕府初代将軍。最初は信長と結び、後に秀吉の天下統一に協力。秀吉の死後、1600 年、関ヶ原の戦いで石田三成を破って対抗勢力を一掃。1603 年、征夷大将軍に任ぜられ、江戸幕府を開いた。1614 年大坂冬の陣、1615 年大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼし、名実ともに天下を統一して徳川支配 265 年の基礎を固めた。

- **慶長遣欧使節**……新田開発により仙台藩 60 万石の土台を築いた**伊達政宗**(だてまさむね)が、1613 年、**支倉常長**(はせくらつねなが)を正使としてヨーロッパに派遣した使節。**支倉常長**はスペイン・イタリアへ行き、ローマ法王に謁見したが、通商開始の使命を果たすことかなわず、帰国した。
- **春日局**……1578～1643。明智光秀の重臣斎藤利三の娘。実名はお福。後の3代将軍家光となる竹千代の乳母となる。秀忠の世継ぎ問題に関わり、家康を動かし、争乱に至ることなく世継ぎ問題を解決し、竹千代は3代将軍家光になる。老中稲葉正勝の実母であり、老中堀田正盛はお福の養子である。大奥の総取締に任じられ、朝廷より春日局の称号を賜った。
- **徳川家光**……1604～51。江戸幕府 3 代将軍。その在職中に武家諸法度、**参勤交代**などの制度を整え、キリシタン弾圧、**鎖国**を断行して全国の専制的支配体制を固めた。
- **武家諸法度**(ぶけしょはっと)……江戸幕府の大名統制法。秀忠が 1615 年に出したのを最初として、以後、短期に終わった 7 代家継・15 代慶喜を除く代々の将軍は、就任後に武家諸法度を示した。

■主な武家諸法度の内容変遷

元和令(げんな)(1615 年)	秀忠	家康が南禅寺金地院(こんちいん)の崇伝(すうでん)に起草させ、秀忠の名で発布。「文武弓馬の道、専ら相嗜(あいたしな)むべき事」。
寛永(かんえい)令(1635 年)	家光	林羅山(はやしらざん)が起草し、家光の名で発布。「大名小名、在江戸交替相定むる所なり。毎歳夏四月中参勤致すべし」
天和(てんな)令(1683 年)	綱吉	「文武忠孝を励し、礼儀を正すべきの事」

- **五街道**……江戸**日本橋**を起点とする江戸時代の幹線道路。幕府の直轄で道中奉行が支配した。**東海道**(江戸～京都)・**中山道**(なかせんどう)(江戸～近江草津)・**日光道中**(江戸～日光)・**奥州道中**(江戸～白河)・**甲州道中**(江戸～信濃下諏訪)の 5 つ。▼白河は現在の福島県南部。
- **朱印船貿易**(しゅいんせん)……1592 年、秀吉が堺・京都・長崎の商人に**朱印状**(支配者の朱印を押した公文書)を与え、海外貿易を許可したのに始まるとされる。それを江戸幕府も継承、3 代将軍家光の時に奉書船貿易が 1635 年まで行われた。▼主な輸入品は中国産生糸・絹織物、南方産の香料・砂糖・皮革。▼輸出品は銀・銅・硫黄・刀剣など。
- **鎖国**……まず 1616 年、ヨーロッパ船の寄港地を平戸と長崎に制限。次に 1624 年にはスペイン船の来航を禁止。その前年にはイギリスはオランダとの競争に敗れて自主的に日本から退去している。▼さらに 1633 年、従来の朱印状に加え、老中の許可状である「老中奉書」を持たない船の海外渡航を禁止。35 年には日本人の海外渡航と海外に在住している日本人の帰国を禁止し、明船の寄港地を長崎に限定。▼37 年には島原の乱が起こってますますキリスト教への弾圧を強め、貿易への統制も強化された。39 年にはポルトガル船の来航を禁止、そして 41 年には、**平戸**のオランダ商館を長崎の**出島**に移し、日本人との自由な交流も禁じて、長崎奉行が厳しく監視する体制を敷いた。▼1641 年に鎖国が完成し、日本はその後 200 年余りの間、オランダ・中国・朝鮮・琉球以外の諸国との交渉は見られなくなってしまった。これを「鎖国」という。
- 公家への統制……1615 年に制定された「禁中並公家諸法度(きんちゅうならびにくげしょはっと)」の第1条では「天子諸芸能の事、第一御学問也」とあり、天皇を政治から遠ざけようとする幕府の考えが見られる。

- 農民統制……農民の年貢によって支えられる幕藩体制なので、当然農民政策を重視し、統制を強化した。田畑永代売買禁止令によって農民を土地に縛り付け、分地制限令によって、分割相続により田畑が細分化され零細農民が増加することがないようにした。また慶安の触書(ふれがき)では「みめかたちよき女房なりとも、夫の事をおろかにぞんじ、大茶をのみ(人を招いたり招かれたりして茶飲み話を好むこと)物まいり遊山すきする女房を離別すべし」とまで書かれている。
- **島原の乱**……1637～38 年のキリシタン農民の一揆。天草領主寺沢氏、島原領主松倉氏らの圧政に反抗。天草四郎時貞(あまくさしろうときさだ)を大将に3万8,000人の農民が原城址に立て籠る。江戸幕府は12万人を動員して半年の攻囲で落城。籠城した農民は全員が殺された。
- **参勤交代**……第3代将軍家光の時、1635 年に制度化され幕末まで続いた。大名は江戸と国元1年交代を原則とし、妻子は江戸住みを強制された。大名行列と江戸の藩邸にかかる経費故に大名の財政窮乏の原因となったが、その一方で五街道などの宿駅の繁栄をもたらした。
- **徳川家綱**……第4代将軍で、文治政治(儒教的な徳でもって治めようとする政治)を行った。1651 年に慶安の変(由井正雪の乱)が起こる。
- **慶安の変(由井正雪の乱)**……1651 年、家光が死去して家綱に将軍が代わった時に、将軍の代替わりを狙って由井正雪・丸橋忠弥を中心として浪人達が反乱を画策した。正雪は駿府の旅宿で自殺、忠弥は江戸で逮捕。乱後、幕政は牢人発生を防ぐ方向へ向かう。
- **河村瑞賢**……江戸の商人で明暦の大火(1657 年に起こり、江戸城の天守閣が焼け落ちた)で材木を扱って大儲けした。その財力を基に東廻り航路 (江戸と東北／松前船)、西廻り航路(江戸・大坂と東北日本海側／北前船)を整備した。その功績が認められて後に旗本に登用された。
- **徳川綱吉**……第5代将軍で、側用人柳沢吉保が権勢を誇った。綱吉は生母の桂昌院(けいしょういん)の勧めに従って、史上最悪の法律と言われる生類憐(しょうるいあわれ)みの令を出した。特に犬を必要以上に保護したので、犬公方とあだ名された。また、渋川春海(安井算哲)(しぶかわしゅんかい　やすいさんてつ)が貞享暦(じょうきょう)という暦を作成した。彼は後に初代・天文方になった。また、儒学の祖、孔子を祀った祠である湯島聖堂が造られ、林鳳岡(ほうこう)が初代大学頭(だいがくのかみ)になった。綱吉の時に幕府は財政難になった。赤穂浪士の事件の際には、浪士達に好意的であった林鳳岡や室鳩巣(むろきゅうそう)の賛美助命論を退け、私義切腹論を説く荻生徂徠(おぎゅうそらい)の意見を取り入れ、浪士達の切腹を命じた。
- 元禄金銀……荻原重秀(おぎはらしげひで)の建議により、幕府の財政難を打破しようと小判に含まれる金の量を減らして、それまでよりも安い金貨である元禄金銀をつくった。結果、商人達が価格を引き上げて物価高になった。
- **新井白石**……1657～1725。江戸中期の政治家・朱子学者。**木下順庵**(きのしたじゅんあん)に朱子学を学び、甲府藩主徳川綱豊(つなとよ)(のち 6 代将軍家宣(いえのぶ))の儒臣となり、6代将軍徳川家宣(いえのぶ)・7代将軍家継(いえつぐ)の下で「正徳(しょうとく)の治(ち)」を行う。著書に『読史余論(とくしよろん)』、『**西洋紀聞**』、『采覧異言(さいらんいげん)』などがある。
- **徳川家宣(いえのぶ)**……1662～1712。6代将軍。5代将軍綱吉の兄の子。甲府藩の藩主綱豊であったが、1704 年6代将軍家宣となる。柳沢吉保(よしやす)を退け、新井白石を登用し、「**正徳の治(しょうとくのち)**」と呼ばれる民を慈しむ善政を行った。家宣の時の側用人は間部詮房(まなべあきふさ)である。

- **正徳の治**……6代将軍家宣が侍講新井白石を登用して行った善政、並びに、7代将軍家継のもとで新井白石が行った政治。**正徳金銀**を発行し、経済を安定させた。また、悪名高き**生類憐みの令**を廃止したり、武家諸法度を改正したり、民の喜ぶ改革を行った。伏見宮家、京極宮家、有栖川宮家の他に閑院宮家を設立した。また、**雨森芳洲**の反対を押し切って、**朝鮮通信使の待遇を簡素化**した。更に、日本から沢山の金銀が流出していたので、1715 年には**海舶互市新例**(**長崎新例**)を出して、金銀が外国に出ないように、長崎貿易を制限した。
- **正徳金銀**……綱吉の時代につくった粗悪な元禄金銀は急激なインフレの原因になったので、小判の金の含有量を増やして、徳川家康がつくった慶長金銀並みの質に戻した。
- **天英院熙子**……6代将軍徳川家宣の正室御台所として大奥へ入る。7代将軍家継の時に月光院御年寄絵島と役者生島新五郎との密会が暴かれ、大奥不要論が出た時に大奥を改革し、まとめあげた。また、家継亡きあと、8代将軍選定の主導権を握り、8代将軍徳川吉宗を誕生させ、将軍空位の危機を救った。
- **徳川家継**……1709～1716。家宣と側室お喜世(後の月光院)の子。家宣が急死したため、4歳で7代将軍になる。新井白石、間部詮房が補佐していたが、風邪をおして夜桜見物をさせられ、体調を壊し、7歳で死ぬ。
- **月光院**……もと、6代将軍家宣の側室お喜世。家宣の死後、月光院となり、実子家継が7代将軍になってからは大奥での権限を握り、大奥の決りを破るなど大奥を堕落させてしまった。月光院側の御年寄絵島が役者生島との密会事件を起こしてから、急激に大奥での権限が消失した。
- **徳川吉宗**……1684～1751。8代将軍。紀伊藩主徳川光貞の4男。1705年紀伊藩主を継いだが、1716 年家継の死後、将軍となった。綱吉以来の側近政治を排し、大岡忠相、青木昆陽らを登用し、家康を手本に**享保の改革**を断行した。幕府の財政再建のために、倹約に徹し、極端な緊縮財政を行った。しかし、米価の下落に歯止めがかからず、それまでの政策を 180 度転換して、通貨量を増やすことを決断し、金銀の鋳造を行った。その結果、米価の下落に歯止めがかかって、米の値段は落ち着きを見せた。

  「誤りを知るを真の人という」
- **大岡忠相**……1677～1751。徳川吉宗の将軍就任とともに 1717 年江戸町奉行に登用され、越前守と称した。米価調節・株仲間公認・町火消編成など 20 年間江戸の行政に敏腕をふるい、享保の改革を推進した。もともと八千石の旗本であったが、足高の制により二千石を足して一万石となり、寺社奉行となった。

❑ 江戸三大改革の急所

改革名	年代	担当者	内容
1. **享保の改革**	1716～45	**徳川吉宗**	◎相対済し令・・・金銭貸借訴訟不受理。 ◎目安箱、小石川養成所、町火消し ◎上げ米・・・財政再建⇒諸大名から1万石につき100石の割合で上納させる ◎足高の制・・・人材登用と財政支出の抑制 ◎実学奨励・・・漢訳洋書の輸入制限緩和 ◎公事方御定書・・・刑法・刑事訴訟法 ◎定免法の採用・・・年貢率を一定にする ◎目安箱の設置・・・庶民の意見を広く求める ◎倹約令・・・支出の抑制
2. **寛政の改革**	1787～93	**松平定信**	◎倹約令・・・支出の抑制 ◎囲米・・・飢饉対策・米価調節のために各地に社倉・義倉をつくらせて米穀を備蓄 ◎旧里帰農令・・・都市に出てきて正業を持たない農民に資金を与えて帰村を奨励 ◎山東京伝(洒落本)・恋川春町(黄表紙)の処罰 ◎棄捐令・・・旗本・御家人の借金返済免除 ◎七分積金制度・・・蓄えた金を災害時などに支出 ◎人足寄場・・・無宿者を収容し、職業技術を施す ◎寛政異学の禁・・・湯島聖堂の学問所で朱子学以外の学派の講義や研究を禁止
3. **天保の改革**	1841～43	**水野忠邦**	◎人返しの法・・・百姓の出稼ぎ禁止／江戸に流入した農民の帰村を強制 ◎上知令・・・私領の収公⇒財政安定・対外防備の強化⇒強い反対⇒実施されず ◎為永春水(人情本)・柳亭種彦(合巻)の処罰 ◎株仲間の解散・・・物価騰貴の原因と思われた株仲間の解散であったが、効果上がらず。

❑ **御三家**・・・・・・江戸幕府の尾張・紀伊・水戸の 3 藩をいう。いずれも家康の子から出て、尾張家(61万9,500石)は第9子義直、紀伊家(55万5,000石)は第10子頼宣、水戸家(35万石)は第 11 子頼房を祖とし、宗家に猶子のない時は宗家を継承する資格を有した。▼8 代将軍**徳川吉宗**は紀伊徳川家の出身で、14 代将軍家茂も元紀伊藩主であった。▼15 代将軍**徳川慶喜**は、御三家のひとつ水戸徳川斉昭の第 7 子であったが、将軍に就任する前、御三卿の一つ一橋家の養子となって相続し、一橋慶喜と名乗った。

- 御三卿……吉宗の第2子宗武に始まる田安家、吉宗の第4子宗尹に始まる一橋家、9代将軍家重の第2子重好に始まる清水家の3つをいう。吉宗が御三家を抑えるため設立したもので、家格は御三家より下だが、将軍を継ぐ資格を有した。▼一橋慶喜以外に、11 **代将軍家斉**も一橋家出身。
- **田沼意次**……9代将軍家重の側近となった。1760 年、意次の改革が始まり、特定の商人に対し営業許可証(株札)を発行し、幕府のお墨付きをもらった商人は莫大な利益が保証され、利益の見返りとして幕府は商人から営業税を徴収した。10 代将軍家治の時に老中となり、鎖国政策のために重視されなかった俵物(なまこ、あわびなどの海産物)の輸出に重きを置き、長崎貿易は黒字に転換した。また、当時江戸では金、大坂では銀と使われる貨幣がばらばらであったが、意次は金と銀との交換比率を一定に定め、東西の貨幣制度を一元化し、この経済政策は功を奏し、幕府財政は好転した。1783 年4月、浅間山が大噴火して天明の大飢饉が生じた。豊作地帯から凶作地帯へと米の流通を促そうとして、米販売の自由化を発表したが、新参の商人達は米の囲い込みに走り、値上がりを待つという最悪の事態となった。その中で若年寄を務めていた意次の子田沼意知が旗本佐野善左衛門に斬りつけられて死亡した。意次は万民から資金を募り、集めた金で幕府直営の金融機関を作ろうとしたが、1786 年田沼意次は老中解任を申し渡されて翌年、松平定信は商業重視の意次の政策を全て白紙に戻した。
- 株仲間……江戸時代に幕府や諸藩によって営業の独占を許可された商工業者の同業組合。初め幕府はこれを禁止していたが、1721 年頃から公認し、さらに冥加金(雑税の一種)を納めさせた。▼株仲間の早いものとしては、海上輸送の荷受問屋たる江戸の十組問屋、大坂の二十四組問屋が名高い。▼しかし株仲間は独占的利益の擁護に走る弊害を生んだので、1841 年**天保の改革**で廃止され、1851 年に再興された。
- 北槎聞略……江戸後期、桂川甫周が大黒屋光太夫の遭難、ロシア漂泊の体験・見聞を編集したもの。1794 年刊。11 巻。
- **大黒屋光太夫**……漂流してアリューシャン列島アムチトカ島に上陸。4年後、1787 年にベーリング海を渡り、カムチャッカ半島に到着。帰国許可を得るために 4,000 キロメートル彼方、シベリアの州都イルクーツクに到着した。更に女帝エカテリーナに直接に帰国を依頼するためにラクスマンとともにロシアの首都ペテルブルクに行く。漂着した 17 人のなかで生き残っているのは5人であり、日本へ帰国する資格を有するのは3人だけであった。光太夫は、日本への帰国は3,000 年に一度しか花をつけないうどんげの花を見るように困難なことだ、と記した手紙を、日本と国交のあるオランダの公使に手渡し、日本へ届けるように依頼した。日本との国交を望んでいたロシアは、光太夫を女帝エカテリーナ2世と謁見させ、ついに光太夫の送還命令書が出された。その際、ロシアは光太夫にロシアの親書を持たせたが、そこには日本政府との交易開始の交渉を行いたい旨が書かれていた。1792 年、前述のラクスマンの息子のラクスマンに連れられて、光太夫らの3名は帰国を果たした。帰国から 10 年後、1802 年、光太夫は故郷の伊勢に帰った。その時に自分たちの名前が刻まれた碑を見て、感涙に耽った。「辛苦、いまもなお忘れ難くと思い出し候へば、涙流れて答えも苦しき」

- 赤蝦夷風説考……工藤平助の著。1781～83年、2巻。蝦夷地の現状を述べ、その開発と対露貿易を論じ、田沼意次に献上。赤蝦夷・赤人はロシア人の称。
- 海国兵談……林子平の著。1791 年刊、16 巻。ロシアの南下を警告し、海防論を展開。軍備・戦術を図説するが、咎められて版木を没収される。
- **異国船打払令**……1825 年、清・蘭船以外は二念なく（ためらうことなく）撃退することを命じたもの。「無二念打払令」ともいう。
- **シーボルト**……1796～1866。ドイツの医師・博物学者。1823 年オランダ商館付医員として来日。翌年長崎郊外に**鳴滝塾**を開き、**高野長英**・小関三英らの門下生に医学を教授。1828 年**シーボルト事件**により国外追放。
- **シーボルト事件**……1828 年シーボルトが帰国する際、所持品中に禁制品の日本地図などが発見され、贈り主の幕府天文方高橋景保ほか数十名の関係者が処分され、シーボルトは国外追放、再渡航禁止の処罰を受けた事件。シーボルトは、幕府の命令で蝦夷地を探検した間宮林蔵に「蝦夷地で採集した植物の押し花を送っていただけませんか」という手紙を書いたが、間宮はこの手紙を封も切らずに幕府に提出したために、高橋景保との関係が幕府に知られたことに端を発する。江戸後期、幕府の洋学者弾圧事件の一つ。
- シーボルト、ペリーに忠告する……オランダに帰国したシーボルトは、日本人の気質を熟知しているがゆえに、ペリーと幕府との衝突を避けるために、「日本はアメリカへの要求への返事を引き延ばすでしょう。そこで忍耐を切らして威嚇すれば、彼らは命がけで抵抗します。1年の猶予を彼らに与えれば事態は好転します」という忠告をペリーに伝えるようにハイネに書き送った。1853 年、浦賀に現れたペリーは圧倒的な武力で威嚇しながら、開国を求める大統領の国書を幕府に受け取らせ、「来春もう一度来る」と言って幕府に猶予を与えた。1854 年、遂に武力の行使なく日米和親条約が締結された。この知らせを聞いたシーボルトはこう記している。「日本の真の開国は、日本が世界と貿易をし、西洋の科学技術を導入して近代化が行われた時、はじめて成し遂げられるであろう。」
- シーボルト番外編……シーボルトの子孫の家にシーボルトが愛用した地球儀があるが、指で何度もなぞりすり切れて見えなくなっている国がある。それは日本である。国外追放されても日本へのシーボルトの愛慕が消えることがなかったことを示している。妻のタキ、娘のイネへの思いをこめて、消えてしまうほど指でなぞった日本。その思いはいかばかりのものかは推して知るべしである。
- **モリソン号事件**……1837 年、アメリカの商船モリソン号が、日本漂流民の送還と日本との貿易開始を交渉するために来航した際、「無二念打払令」にもとづき、これを撃退した事件。相模の浦賀と薩摩の山川の2ヶ所で大砲を撃たれた。
- **大塩平八郎の乱**……1837 年、陽明学者で大坂町奉行与力であった大塩平八郎が起こした乱。天保の飢饉による貧民の窮乏を訴えるが認められなかったため、同志とともに豪商を襲った。乱はわずか半日で鎮定されたが、社会的な衝撃は大きかった。
- 1837 年……人はみな大塩平八郎について行く

- **大塩平八郎**(おおしおへいはちろう)……14 歳で大坂町奉行の与力になる。大坂西町奉行所の与力が手下を使い強盗、恐喝、殺人を行う犯罪組織を作っていたのを嗅ぎ付け、十数人を次から次へと摘発した。また、大規模な金融犯罪を暴き、大坂破損奉行など合わせて3人が処分されたが、幕府高級官僚の犯罪は闇に葬られた。その後、与力職を息子に譲り、陽明学の塾を開いた。1833 年に天保の飢饉が起きたが、奉行所は大坂の米を大坂の外へ持ち出してはならないという命令を出したが、それは大坂に米を求めにくる人々を閉め出すだけで、豪商達の蓄えた米を庶民に還元しようとするものではなかった。飢えに苦しむ人々を無視し、祝典用の米を将軍に送り届ける奉行、その非情なやり方に大塩は絶望した。また、庶民救済のための大塩の意見をわざと無視する奉行に失望と怒りを感じた。そして、ついに世直しを決起した。救民と書かれたのぼりを掲げ、武装行進しながら奉行所へ向かったが、待ち受けていた奉行所の鉄砲隊に蹴散らされ、大塩の決起は失敗に終わった。しかし、大塩の乱は、明治維新の先駆けとなる第一歩という大きな事件とも考えられる。
- 洗心洞……大塩平八郎が陽明学を教えた塾の名前。『洗心洞箚記(せんしんどうさっき)』という本を書き、「知行合一」の教えを説いた。大塩は以下のように説いていた。「自分自身の本性を欺いて、勝手に自己満足していても、いずれ人さまに見抜かれてしまう。正義と私利、真と嘘偽りの境目をごまかして過ごしてはならない。口先だけで善を説くことなく、一善を実践しなければならないのだ」
- **蛮社(ばんしゃ)の獄**……1839 年の洋学者弾圧事件。知識人の集まりである尚歯会(しょうしかい)の蘭学者グループ(蛮学社中(ばんがくしゃちゅう))の**渡辺崋山(わたなべかざん)・高野長英(たかのちょうえい)**らが幕政を批判したとして逮捕され、処罰された。以後洋学研究は技術的実用面に限定されていった。
- **慎機論(しんきろん)**……江戸後期、**渡辺崋山(わたなべかざん)**の著。1838 年成立。モリソン号事件に際し、外国事情を紹介して攘夷の無謀を説いたもの。蛮社の獄の原因となったが、海防論・開国論の勃興を促す。
- 戊戌夢物語(ぼじゅつゆめものがたり)……高野長英(たかのちょうえい)の 1838 年の著。モリソン号打払いの無謀さを、夢の中での知識人の討議の形で批判。写本で広まり、長英投獄の原因となる。
- 1839 年……いや見苦しい弾圧 ▼幕府の洋学者弾圧は見苦しいぞ
- **ペリー来航**……東インド艦隊司令長官**ペリー**は 1853 年、4 隻の軍艦(「黒船」)を率いて浦賀に入港。大統領フィルモアの国書を提出して開国を要求した。幕府との約束により一旦退去して翌年再来し、**日米和親条約**を結んだ。軍楽隊が演奏する中、ペリーは 500 人の正装した兵を率いて、横浜に上陸した。日本側の全権林大学頭は、幕府内の強硬派の暴発を防ぐために、通商は拒否することを念頭に交渉した。そして、1854 年3月 31 日、横浜の応接所で林大学頭、ペリー提督によって「**日米和親条約**」が締結された。
- **日米和親条約**……1854年に結ばれた条約で「神奈川条約」ともよばれる。その内容は1)下田・箱館を開いて薪水・食料・石炭などを給与する。2)下田に領事を駐在させるなどで、貿易については触れていないが、鎖国政策に終止符を打った点で画期的であった。同種のものが英・露・蘭とも結ばれた。
- 1854 年……一夜越しの交渉で決まる条約(徹夜の交渉で決まった日米和親条約)
- **ハリス**……1804～78。アメリカの外交官。**日米和親条約**の結果、1856 年、初代駐日総領事として下田に着任。1858 年、幕府を説得して**日米修好通商条約**の締結に成功。翌年公使となり、1862 年辞任、帰国。

- 1858 年……いや、ご破算ならねばよいが　▼ハリスは日米修好通商条約を日本側に絶対締結させるという強い決意で交渉に臨んだ。
- **日米修好通商条約**……1858 年締結。その内容は 1）下田（神奈川開港 6 ヶ月後閉鎖）・箱館のほか、神奈川（のち横浜に変更）・長崎・新潟・兵庫 4 港の開港と江戸・大坂の開市（かいし）。2）通商は自由貿易とすること。3）開港場に外国人居留地を設け、一般外国人の国内旅行を禁止することなどであったが、治外法権を認め、関税自主権がない点で不平等条約であった。同種のものは蘭・露・英・仏とも結ばれ、合わせて「安政の五カ国条約」という。▼貿易は 1859 年から横浜・長崎・箱館で開始されたが、物価の高騰などにより下級武士や一般庶民を生活難に陥れた。
- 条約交渉にあたった日本全権……井上清直（きよなお）と岩瀬忠震（ただなり）が日本全権として交渉にあたった。ハリスは「京都開港」と「アメリカ商人の自由旅行」を強引に主張したが、この2つは粉砕した。イギリスとフランスが清国を征圧し、大連合艦隊を擁して日本に向かおうとした時に「まずアメリカと条約を結び、諸外国をもこれにならわせるのが賢明であろう。もし不当な要求をする国があれば、アメリカが必ず調停し、野望を阻止する」というハリスの言葉を引き出し、あくまでも天皇の勅許を得た後で、と主張する井伊直弼（なおすけ）を説得して通商条約を締結した。1871 年、岩倉使節団がニューヨークを訪れた時に、67 歳になったハリスは語った。「通商条約の交渉において、井上・岩瀬の両全権は、綿密に我々の要求を検証し、時には私を閉口させた。彼らとの激しい議論の結果私はしばしば草案を修正せざるをえなかった。そうした全権を持ったことは日本にとって幸いであったことこの上ない。」
- **安政の大獄**（たいごく）……1858～59 年に行われた政治弾圧。大老**井伊直弼**（いいなおすけ）が 1）将軍継嗣問題で前水戸藩主徳川斉昭（なりあき）の第 7 子で一橋家当主（ひとつばし）**一橋慶喜**（ひとつばしよしのぶ）（のちの 15 代将軍**徳川慶喜**）を推す「一橋派」を抑え、紀州藩主徳川慶福（よしとみ）（のち家茂（いえもち））を 14 代将軍として推し通したこと、2）勅許のないまま通商条約を締結したことの 2 点は一橋派を激昂させた。これに対して直弼は徳川斉昭、**一橋慶喜**、越前藩主松平慶永（まつだいらよしなが）らを処分した。▼さらに、通商条約に基づく通商の開始は**尊王攘夷**（そんのうじょうい）**運動**を激化させ、直弼は**橋本左内**（はしもとさない）、**吉田松陰**（よしだしょういん）を斬首にし、尊攘（そんじょう）派の志士多数の逮捕・処罰を断行した。▼それらに憤激した水戸浪士らにより、1860 年 3 月、井伊直弼は**桜田門外の変**で暗殺された。
- **尊王攘夷**（そんのうじょうい）**運動**……尊王論はもともと儒学の大義名分論から起こったもので、反幕思想ではなかったが、開国を機に攘夷論と結びつき、下級武士を主体とする尊王攘夷運動を生み出して、次第に反幕府的な性格を強めていった。
- **公武合体**……**安藤信正**が行った政策であり、公家と武士を協力させて難局を切り抜けようとするものであり、具体的には 14 代将軍**家茂**の妻に孝明天皇の妹の**和宮**を迎えようとするもの。安藤信正は 1862 年坂下門外で切りつけられた。命に別状はなかったが、「**坂下門外の変**」と呼ばれる。
- **和宮**……16 歳で徳川家茂に嫁いだが、21 歳で家茂病死。夫の亡骸とともに、和宮のもとには一反の西陣織が届けられた。「空蝉の唐織衣何かせむ。綾も錦も君ありてこそ。」1868 年、官軍が江戸を目指して進軍している時、中山道（なかせんどう）の官軍の指揮官に直接手紙を書いた。「徳川への義理と帝への孝の狭間にいる私の心中をお察しください。江戸へ進軍なさるのは何卒今暫くご猶予ください。」官軍

は板橋で進軍を停止した。3月 14 日の西郷隆盛と勝海舟の和平交渉の後、徹底抗戦を唱える徳川家臣団に通達を出した。「ただただ神君家康公以来の徳川家の家名が立つよう、謹慎を続けるように。抵抗さえしなければ徳川家は滅ぶことはないのです。」一触即発の危機が迫る中、家康の名を借りて家臣達を説得した。1868 年4月 11 日、江戸城は無事官軍に明け渡され江戸の町は戦火から救われた。日本は日本を二分するような深刻で大きな内乱を経ることもなく、欧米に介入される隙も与えず近代化をなしとげた。徳川 300 年に培われた底力があったともいえるが、和宮もその姑の天璋院も女性ながら激動期を力一杯、自分の運命と闘いながら燃えて生きていた、とも言える。

- **五品江戸廻送令**……この当時、開国の影響で、貿易の中心が長崎から横浜に移った。輸出入の 80%が横浜であった。主な貿易相手国はイギリスであった。重要輸出五品(雑穀・水油・ろう・呉服・生糸)に関しては、横浜直送を禁じ、江戸の問屋を経由せよとの命令が出された。これを**五品江戸廻送令**という。ちなみに輸入品は横浜から全国に送られるので圧倒的に人口の多い江戸では品不足が続き、5倍から 10 倍の物価高になった。
- **文久の改革**……薩摩藩主の父親で後見役の島津久光の行った改革。将軍後見職に一橋慶喜、大老にあたる政事総裁職に松平慶永、京都守護職に会津の松平容保をつけた。幕府を改革した島津久光が機嫌良く薩摩に帰るその途中で起きた事件が生麦事件である。
- 生麦事件……1862 年、武蔵国生麦村(現在の横浜市)を久光一行の行列が通り過ぎる時にイギリス人が馬で横切ったので、彼を無礼討ちにした。イギリスはその報復として翌年、薩摩に対して報復戦争をしかけた。これが薩英戦争である。
- **薩英戦争**……生麦事件の報復として 1863 年、世界に冠たるイギリスが薩摩に対してしかけた戦争。薩摩は圧倒的な力の差を見せつけられ、攘夷をあきらめた。イギリスも薩摩の力を認め、以後両者は手を組んでいくことになる。
- **八月十八日の政変**……薩摩は攘夷は無理とわかり、幕府と組んで攘夷派を排除する側に回ったが、1863 年、三条実美ら攘夷派の公家と長州藩を京都より追放した。これを八月十八日の政変という。
- **禁門の変(蛤御門の変)**……1864 年、池田屋事件で怒り狂った長州の藩士達が3人の家老に率いられて抗議のために禁門をめざして行進したが、禁門で待ち構えていた薩摩と会津の軍隊、特に、薩摩の鉄砲隊のために壊滅状態になった。この後、薩摩と長州は犬猿の仲になった。
- **第一次長州征伐**……1864 年、禁門の変の後、幕府軍が長州を征討した。長州藩は降伏し、3人の家老の首を幕府に差し出した。そして、一時期、萩城は 4,000 人の佐幕派によって占拠され、長州は幕府に従うかに見えたが、**高杉晋作**が功山寺で挙兵し、長州藩を今一度、討幕の藩に変えた。
- **四国艦隊下関砲撃事件**……1864 年、英・仏・米・蘭の四国連合艦隊が下関を砲撃し、陸戦隊を上陸させて、下関砲台などを占領させた事件。この結果、長州藩では、攘夷をあきらめて開国を主張する勢力が強くなった。
- **薩長同盟**……1866 年**坂本龍馬**の仲介で、犬猿の仲であった長州と薩摩が手を結んだ。龍馬の説得に応じて薩摩の西郷隆盛のほうから長州の桂小五郎(木戸孝允)に頭を下げ、薩長同盟が成った。「わしの頭を下げるだけで木戸はんが納得されるのなら、こんな頭いくらでも下げ申す」

- **大政奉還**……1867 年に行われた 15 代将軍慶喜の朝廷への政権返上。▼薩長の武力倒幕の動きを察知した前土佐藩主山内豊信が藩士後藤象二郎をして勧告させ、慶喜もこれを受け入れ、10 月 14 日、京都二条城において**大政奉還**の上表を朝廷に提出、翌日朝廷はこれを受理した。
- **王政復古の大号令**……ところが時を同じくして 10 月 14 日、武力倒幕を目指す薩長両藩は、朝廷内の急進派の公家岩倉具視らと連携して画策し、「倒幕の密勅」を引き出していた。▼大政奉還後の政局は、薩長両藩の武力倒幕論に対抗して土佐藩などの主張する「公議政体論」が台頭してきた。薩長両藩は、この公議政体論をおさえ政局の主導権を握るため、12 月 9 日両藩兵が御所の全ての門を固めるという戒厳下で「**王政復古の大号令**」を発し、政変を決行した。これは徳川氏を除く新しい政府をつくるというもので、すぐ近くの二条城にいる旧幕府兵との衝突も辞さない宮廷クーデターであった。▼新政府は、幕府はもちろん朝廷の摂政・関白も廃止し、天皇の下に総裁(有栖川宮熾仁親王)・議定(山内豊信[容堂]、松平春嶽[慶永]ら)・参与(大久保利通、木戸孝允ら)の三職を設置した。ここに 260 年余り続いた江戸幕府は否定され、天皇を中心とする新政府が樹立された。▼その日の夜、京都御所の小御所で行われた三職による小御所会議では徳川氏の処分をめぐり、武力倒幕派(岩倉具視、大久保利通ら)と公議政体派(山内豊信[容堂]、松平春嶽[慶永])との激論となった。そこで、大久保利通は慶喜が官位の降格、領地の返上を受け入れるならば、慶喜の新政府入りを認めるが、拒否したら朝敵として断罪するという妥協案を出し、結局、徳川慶喜には内大臣(左右大臣に次ぐ高官位)の辞退と領地の一部の返上(「辞官納地」)を命じる、ということで武力倒幕派が押切った形になった。武力の衝突が起これば、慶喜の新政府入りは到底不可能と考えた松平春嶽は慶喜に京都を離れるように提案し、3 日後、慶喜はいったん大坂城に退去した。
- 公議政体論……朝廷(天皇)の下に徳川氏を含む諸藩の合議による連合政権をつくろうとする考え。
- **松平春嶽[慶永]**……1867 年 12 月 9 日の王政復古の大号令の後、徳川慶喜を廃そうとする大久保利通、西郷隆盛に対して、新政権に慶喜を加える政治を構想し、1868 年1月2日までは慶喜の新政府入りが順当に進んでいた。ところが、西郷隆盛、大久保利通らの挑発に我慢しきれなくなった徳川家臣団が慶喜の意向に反して上京し、1月3日鳥羽・伏見の戦いが始まり、徳川勢は賊軍となり、徳川慶喜が参加する新政府の構想はつゆと消えてしまった。

【22】 江戸時代の文化

(1) 寛永期文化

- **日光東照宮**……栃木県日光市山内にある神社。**徳川家康**を祀る。**権現造**(安土桃山時代に成立した神社建築の一様式)の代表的遺構で、特に極彩色の彫刻で飾る**陽明門**が有名。
- **桂離宮**……京都市西京区桂御園にある旧桂宮家の別荘。**数寄屋造**・回遊式庭園の代表的傑作。▼後陽成天皇の弟の八条宮智仁親王の代に造営が始められ、当初は現在古書院とよばれる建物 1 棟に庭を配したものだったらしいが、智仁の子智忠の代に 2 度にわたって増築され、中書院、楽器の間、新御殿が加わって、美しい雁行をみせる現在の姿になった。▼中央の広い池の周りに書院群と 4 つの茶屋が配され、建物と庭園が見事に調和しており、ドイツの建築家**ブルーノ・タウト**が絶賛するなど、世界的にも有名。日本住宅建築の最高峰とされる。

- **数寄屋造**……書院造に草庵風の茶室を取り入れた建築様式。自然のままの材料を用い、簡素な中に高度に洗練された美を示す。桃山～江戸初期にかけて、茶道の流行とともに書院造の中に取り入れられた。▼日本建築の特色をよく示し、桂離宮はその代表とされる。
- **修学院離宮**……江戸初期、**後水尾上皇**が京都洛北（京都市左京区）に営んだ離宮。1659 年完成。▼後水尾天皇（在位 1611～1629）が紫衣事件の後で、幕府による公家圧迫に反発して娘の明正天皇に譲位後、幕府の援助で造営。▼上の御茶屋・中の御茶屋・下の御茶屋の 3 区に分かれ、山裾の広い傾斜地を生かして庭園がつくられている。比叡山の西の一角を占め、上の御茶屋**鄰雲亭**からの眺めは離宮随一。
- **俵屋宗達**……生没年未詳。17 世紀前半の画家。その画風は、新しい構図と技法により大和絵に新生面を開いた。琳派の先駆的存在。代表作に「**風神雷神図屏風**」。



- **本阿弥光悦**……1558～1637。安土桃山～江戸初期の工芸家。京都の上層町衆。家業の刀剣鑑定のほかに、書道、漆芸（蒔絵）、陶芸（楽焼）、絵画、作庭、茶道など幅広い芸術活動を行い、数々の秀作を残した。代表作に「**舟橋蒔絵硯箱**」（左写真）。▼晩年徳川家康から洛北鷹ヶ峰の地を与えられ、各種の工人を集めて芸術村を開いた。

（2） 元禄文化

- **奥の細道**……江戸中期、**松尾芭蕉**が著した俳諧紀行文。1702 年刊。1689 年に門人曾良を伴って 5 ヶ月間奥州・北陸を旅した行程約 2,400km の道中記。独特の文体で躍動感に満ち、格調が高い。芭蕉的なもののすべてが結集され、紀行文中の白眉とされる。
- **松尾芭蕉**……1644～94。江戸前期の俳人。伊賀上野の生まれ。武士身分を捨てて町人の世界に入った。談林風を学び、のち「さび」、「しおり」、「かるみ」などを根本理念とした、格調高い芸術味にあふれた**蕉風**を確立し、俳句に絶大な影響を与えた。代表作に紀行文『**奥の細道**』。
- **歌舞伎**……江戸時代に成立した日本独特の演劇。▼17 世紀初めに**出雲阿国**が京都で「かぶき踊り」を始めて人気を博し（阿国歌舞伎）、「女歌舞伎」が流行したが、風俗紊乱を理由に禁止された。▼その後「野郎歌舞伎」が起こり、それまでの容色中心から伎芸と脚本を中心とする演劇として発達し、元禄期（17 世紀後半～18 世紀初）には、**江戸**に勇壮な演技（「**荒事**」）で好評を得た初代**市川団十郎**（1660～1704）、**上方**に恋愛劇（「**和事**」）を得意とする**坂田藤十郎**（1647～1709）らの名優が出た。
- **国性爺合戦**……江戸中期、**近松門左衛門**の時代物浄瑠璃。明の遺臣鄭芝竜が日本人妻との子和藤内（唐名鄭成功）を伴い、明を再興する筋。好評で 17 ヶ月間興行した。
- **仮名手本忠臣蔵**……浄瑠璃・歌舞伎の代表的戯曲。**竹田出雲**・三好松洛・並木千柳の合作。赤穂浪士を室町期に充てた物語。サブストーリーはすべて色（恋愛）とカネである。見物にとってとても身近で、かつ卑俗な恋愛とカネというストーリー、そして多くの主役たちの劇的な死。それらすべてが討ち入りという一点に繋がっているのが作劇の妙である。全11段。1748年竹本座で初演。

- 菅原伝授手習鑑……**竹田出雲**・三好松洛・並木千柳の合作による浄瑠璃。藤原時平の中傷により左遷された菅原道真がテーマ。全５段。1746 年竹本座で初演。
- **義経千本桜**……**竹田出雲**・三好松洛・並木千柳の合作による浄瑠璃。義経伝説と滅亡後の平家武将の後日談がテーマ。鼓にされた狐の子の化身である佐藤忠信が主役であり、全５段であるが義経と静にあだなす者を倒して５段は終わる。1747 年竹本座で初演。
- **浮世絵**……江戸時代に発達した、遊里・役者・庶民生活などを題材とした風俗画。源流は安土桃山時代の大和絵風の風俗画にあり、元禄（1688～1704）の頃、**菱川師宣**が大成し**版画**として普及した。**菱川師宣**の『**見返り美人図**』は肉筆画であることに注意。
- **尾形光琳**……1658～1716。江戸中期の画家・工芸家。初め狩野派を学び、のち**俵屋宗達**に私淑して豪快な装飾画風を大成し、「**琳派**」の祖となった。工芸では**本阿弥光悦**に傾倒し名作を残した。代表作『**紅白梅図屏風**』、『**燕子花図屏風**』、『**八ツ橋蒔絵螺鈿硯箱**』など。
- **野々村仁清**……生没年不詳。江戸前期の陶工。作風は典雅優美で蒔絵の趣を応用して**色絵陶器**を創作した。国宝「**色絵月梅文茶壺**」「**色絵藤花文茶壺**」が代表作で、「**京焼**」の祖といわれる。
- 楽焼……安土桃山時代、京都の楽家が創始した陶器。轆轤を用いず手づくねによって成形され、低温度で焼かれた施釉陶器。茶碗を主に製する。▼初代長次郎に始まり、2 代目常慶が豊臣秀吉から「天下一」の称号と「楽」の金・銀印を与えられて楽姓を称し、千利休の指導ですぐれた茶陶を生んだ。▼**本阿弥光悦**の「不二山」・「乙御前」は豪快で、傑出した楽茶碗として有名。
- 京焼……江戸時代、京都で作られた粟田焼・御室焼・清水焼などの総称（楽焼は除く）。17 世紀中頃、**野々村仁清**が有田焼・瀬戸焼の手法を導入して色絵陶器を完成。ついで出た**尾形乾山**（光琳の弟で陶工・画家）とともに元禄時代の京焼盛況の基礎をつくった。その後**清水焼**が磁器を取り入れて京焼の主流となった。
- **朱子学派（京学、薩南学、南学）**……儒学者のうち朱子（朱熹）の学説を継承するものの総称。中国南宋の朱熹（1130～1200）が「**理気二元論**」を大成、わが国には鎌倉時代に伝来した。▼節義と分限を重んじる「**大義名分論**」は後醍醐天皇や後の水戸藩 2 代藩主**徳川光圀**、幕末の尊王運動に大きな影響を与えた。▼応仁の乱後、禅僧の地方下向により各地に普及し、薩南学派（薩摩）・海南学派（土佐）・京学（京都）など諸派を形成し、江戸時代の初め、京学の**藤原惺窩**の推薦で**林羅山**が徳川家康に登用されるに至り急速に発展、幕府文教政策の基礎となり、官学の地位を確立した。林家以外で重要な京学の朱子学者としては、加賀藩主前田綱紀に招かれ、のち綱吉の侍講となった**木下順庵**、その弟子で、6代将軍家宣の侍講で**正徳の治**を行った**新井白石**、**室鳩巣**、対馬藩に仕え、朝鮮との外交を担当した**雨森芳洲**などがいる。薩南学派としては、その基礎を作った戦国時代の**桂庵玄樹**が有名である。南学派の朱子学者としては、土佐藩の家老で藩政改革を推進した**野中兼山**が重要である。
- **湯島聖堂**……江戸中期、幕府が江戸湯島（現・文京区湯島）に建てた孔子廟。▼1632年林羅山が上野忍岡に建てた孔子廟を、1690年**5代将軍徳川綱吉**が湯島に移し、大成殿と称した。これに林家の私塾が付属していたが、**寛政**の改革における**異学の禁**（朱子学以外は禁ずる）で官立の**昌平坂学問所**となり（1797 年）、聖堂・学問所ともに林家が世襲経営した。初代大学頭は**林信篤[鳳岡]**▼現在の建物は 1935 年の再建。

- **読史余論**……江戸中期、**新井白石**の著した史論書。1712 年成立。3 巻。公家政治を 9 変、武家の代を 5 変の時代区分を行いながら、摂関政治の開始から江戸幕府成立までの歴史的必然性を明らかにしている。儒教的精神を底流としているが、事件・人物の論評に白石独自の歴史観が現れており、近代以前の代表的史書の一つに数えられる。
- **朱子学(南学)**……土佐の**南村梅軒**が南学の祖である。その後、土佐藩の家老**谷時中**が出、その弟子で新田開発・殖産興業などの藩政改革を推進したのが**野中兼山**である。同じく谷時中の弟子であった**山崎闇斎**は**垂加神道**を唱え、江戸で**保科正之**に献策した。
- **朱子学(薩南学)**……**桂庵玄樹**が薩摩で薩南学派の基を作った。明に留学の後、京都五山の禅僧であった桂庵玄樹は、応仁の乱を避けて西国で儒書を講じて、肥後菊池氏の館に孔子廟を建てた。
- 陽明学派……江戸時代の儒学の一派。明の**王陽明**(1472～1528)によって創唱された学説を継承する。王陽明の学説は朱子学の「理気二元論」や主知主義を批判し、「**知行合一**」を主張した。▼江戸初期、**中江藤樹**が初めて信奉し、わが国陽明学の祖となった。ついで**熊沢蕃山**らが出たが幕府の弾圧を受けて衰えた。▼江戸後期～幕末には、**大塩平八郎**・**佐久間象山**・**吉田松陰**らが出、実践活動としての政治批判が行われた。
- 藤樹書院……江戸前期、**中江藤樹**が近江に開いた私塾。1634 年郷里の**近江国小川村**に創立。▼『孝経』を重んじ、「わが心の孝徳明かなれば神明に通ず」とする全孝説を主張し、その徳化の及んだ農民はのちに中江藤樹のことを「**近江聖人**」とよんだ。
- 古学派……江戸時代に起こった儒学の一学派。朱子学・陽明学などの解釈を排し、直接孔子・孟子の原典から聖人の真意を汲もうとするもので、**山鹿素行**の「聖学」、**伊藤仁斎**の「古義学派」、**荻生徂徠**の「古文辞学派」などがこの派に属する。▼荻生徂徠は柳沢吉保(5 代将軍綱吉の側用人)・8 代将軍吉宗に用いられるなど、古学派の学者たちは藩儒や藩校教授として招かれ、藩政に参画した。
- 古義堂……江戸前期、**伊藤仁斎**が**京都堀川**に開いた私塾。その子**東涯**のとき全盛で、古義堂の名はいっそう広まった。明治初年まで存続。
- **荻生徂徠**……1666～1728。江戸中期の儒学者。古文辞学派の祖。江戸茅場町に蘐園塾を開く。▼伊藤仁斎の古学に啓発されて古文辞学を唱え、孔子・孟子など直接原典に当たり、字句の忠実な解釈から研究すべきことを説いた。主著に『政談』。

(3) 化政文化

- **東海道四谷怪談**……**鶴屋南北**[四世]の生世話物の脚本。1825 年初演。牢人民谷伊右衛門に毒殺された妻お岩の亡霊の復讐怪談劇。
- **東海道中膝栗毛**……江戸後期、**十返舎一九**の代表的滑稽本。江戸神田の八丁堀の住人弥次郎兵衛と喜多八の東海道を上り、伊勢参宮を経て京・大坂に至る道中の失敗・奇行などを軽妙に描く。
- **雨月物語**……江戸中期、**上田秋成**の読本。1776 年刊。5 巻。日本と中国の古典に材を求め、幻想の世界を迫真的に描いた雅文怪異小説で、9 話からなる。江戸中期の文芸復興の一端を担う名作として名高い。
- **南総里見八犬伝**……江戸後期の読本の代表作。**曲亭(滝沢)馬琴**著。犬塚信乃・犬飼現八・

犬山道節ら八犬士が力を合わせて安房(現・千葉県)の名家里見家を再興するという話。中国の『水滸伝』・『三国志』その他の典拠を自在に駆使した勧善懲悪の一大伝奇ロマン。▼28 年の歳月を費やし、馬琴は途中で失明し、口述によって完成させた。

- ❑ **読本**……江戸中・後期、18 世紀後半から現れた小説の一種。絵を主とした草双紙・絵草紙に対する呼称。初期は上方を中心で、**上田秋成**の『**雨月物語**』など。化政期(1804～30)には江戸読本の全盛を迎え、**曲亭(滝沢)馬琴**の『**南総里見八犬伝**』など勧善懲悪を主張したものが多い。
- ❑ **浮世絵**……最初は墨摺だったが、18 世紀後期に**鈴木春信**が「**錦絵**」とよばれる極彩色の浮世絵版画を創作し、浮世絵の黄金時代の幕を開いた。▼18 世紀末の全盛期には**喜多川歌麿**『**ポッピンを吹く女**』・**東洲斎写楽**『**市川鰕蔵**』らが活躍、19 世紀前期には**葛飾北斎**『**富嶽三十六景**』・**歌川(安藤)広重**『**東海道五十三次**』が風景画に新境地を開き、ヨーロッパの印象派に大きな影響を与えた。
- ❑ **文人画**……文人・学者が余技として描いた絵。「南画」ともよばれ、18 世紀後半盛んとなる。▼代表的作品に**池大雅・与謝蕪村**の「**十便十宜図**」、**渡辺崋山**の「**鷹見泉石像**」がある。
- ❑ **造士館**……〔鹿児島〕薩摩藩の藩校。1773 年島津重豪の設立。のち洋学を採用。
- ❑ **日新館**……〔会津〕会津藩の藩校。藩祖保科正之が 1664 年私塾を藩の学問所に取り立て稽古堂と称したのに始まる。5 代松平容頌は広大な学問所を新設して 1799 年、日新館と命名した。
- ❑ **時習館**……〔熊本〕肥後藩(熊本藩)の藩校。1755 年、細川重賢の創立。その人材育成を基本とする姿勢は他藩の模範となる。
- ❑ **興譲館**……〔米沢〕米沢藩の藩校。1697 年上杉綱憲の創立。1776 年、上杉治憲が細井平洲を用いて復興。
- ❑ **花畠教場**……〔岡山〕岡山藩の藩校。1641 年池田光政設立の最古の藩校。

cf. 有名な閑谷学校は「郷学」であるので注意。

【23】 明治時代

- ❑ **戊辰戦争**……1868(戊辰の年)～69 年にかけて行われた明治新政府と旧幕府との内戦の総称。「**鳥羽・伏見の戦い**」に始まり、官軍の東征、江戸開城、越後の長岡城攻防戦(「北越戦争」)、奥羽越列藩同盟の中心である会津若松攻撃(「会津戦争」)などを経て、1869 年「**五稜郭の戦い**」で終結。
- ❑ **版籍奉還**……1869(明治 2)年、諸藩主が土地(版)・人民(籍)を天皇に返上するという形式で、封建的割拠体制を打破した政策。▼維新政府は中央集権体制を確立するため、大久保利通・木戸孝允・板垣退助・大隈重信らの間で計画を進め、**薩摩・長州・土佐・肥前**の 4 藩主が朝廷に版籍奉還を出願させると、多くの藩がこれにならった。▼新政府は 6 月に、残りの全藩主に版籍奉還を命じる一方、旧大名には石高に代わる家禄を与え、旧領地の「**知藩事**」(地方長官)に任命して、藩政に当たらせた。▼旧大名は実質的に温存され、徴税と軍事の両権はこれまで通り各藩に属していた。
- ❑ **廃藩置県**……1871(明治 4)年 7 月、全国の藩を廃止して、県を設けた政治的変革。「**第 2 の王政復古**」ともいう。▼版籍奉還後も存続していた封建的藩体制を一気に廃絶し中央集権国家を樹立するため、西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允・板垣退助らが政府の中枢を固め、**薩摩・長州・土佐**の 3 藩の藩兵(「御親兵」)を上京させ、その軍事力を背景に廃藩置県を断行した。▼こ

れにより、1使(開拓使)・3府(東京・大阪・京都)・302県(のち72県)が成立した。(1888年には1道3府43県)。▼旧大名である「知藩事」は罷免されて東京在住を命じられ、代わって中央から「**府知事**」・「**県令**」が派遣されて地方行政にあたった。

- 身分制の解体……廃藩置県前後から、近代的国家をめざした諸改革が一斉に行われ、そのなかで、江戸時代以来の**身分制の廃止**が取り組まれた。▼版籍奉還直後に、藩主や公卿を**華族**、藩士や旧幕臣を**士族**、百姓・町人を**平民**とし、1871年には、華族・士族・平民相互の結婚の自由、散髪・廃刀の自由、穢多(えた)・非人(ひにん)の称の廃止など、いわゆる**四民平等**が打ち出された。▼さらに、身分を問わず国民を同一の戸籍に編制する**戸籍法**を定め、翌1872年、「壬申戸籍」を作成した。▼同年8月には、国民皆学の精神を掲げた**学制**、11月には国民皆兵をめざした徴兵の詔勅・告諭が出され、翌1873年**徴兵令**が公布された。
- **鉄道開通**……1872年、新橋・横浜間を1号機関車が走る。大隈重信、伊藤博文は数々の反対と困難を乗り切って鉄道を開通させる。反対派の大久保利通。「まさに百聞は一見にしかず。愉快に耐えず。鉄道の発展なくして、国家の発展はありえない。」
- **地租改正**……明治初め、新政府の行った土地・租税制度改革。▼安定した財源を確保するため、新政府は1871年田畑勝手作(でんばたかってづくり)を解禁し、翌年には田畑永代売買(でんばたえいたいばいばい)の禁を解くとともに、それまでの年貢負担者(地主・自作農)に「**地券**(ちけん)」を交付して、農民保有地の私的所有権を認めた。▼その上で、1873年7月、地租改正条例を公布して地租改正に着手し、1881年までにほぼ完了した。地租改正の要点は課税の基準を不安定な収穫高から一定した**地価**に変更、物納を**金納**に改め、**地価の**3%(1877年には2.5%に引き下げ)とする、納税者は**地券所有者**(土地耕作人ではなく土地所有者)とすることであった。
- 武士の特権廃止……華族と士族には家禄(主君が家臣に与える俸禄)が依然として与えられ、国家財政支出の30%を占め、政府には重い負担となっていた。そこで、廃藩置県と徴兵令により、政治と軍事という士族の独占的な職分がなくなり、家禄支給の根拠がなくなったとして、1876年8月、華士族31万人に家禄5～14年分にあたる**金禄公債証書**(きんろくこうさい)を与え、家禄支給のうち切りに踏み切った(実施は1877年)。これを**秩禄処分**という。同年3月に施行された**廃刀令**とともに、士族はその特権をすべて失った。▼旧大名は華族という特権的身分を保証され、高額所得者として生き残ったが、中下層士族の多くは慣れない商売に手を出し、**士族の商法**と皮肉られたように失敗して没落した。しかし、その一方で急速に進む近代化を成功させたのは、庶民のいろいろな生活の場で西洋的近代化を日本の伝統文化と融合させたリストラ武士とも呼べるような一部の士族の力があった。「木村安兵衛のアンパン」
- 佐賀の乱……1874年2月、征韓を主張する征韓党など約1万2千人が江藤新平らを擁して蜂起。大久保利通指揮下の政府軍に鎮圧された。
- 熊本士族の蜂起……1876年(明治9年)熊本で起こった攘夷主義士族の反乱である神風連(じんぷうれん)の乱(敬神党の乱)をいう。太田黒伴雄を中心に挙兵し、熊本鎮台を襲うが鎮圧された。熊本鎮台司令官種田は死亡した。種田のめかけが江戸に居る父親に送った電文は当時流行語になった。「オットハイケナイ。ワタシハテキズ」

- 福岡秋月の反乱……1876年(明治9)年、福岡県秋月に起こった保守的士族の反乱。宮崎車之助(みやざきしゃのすけ)ら旧秋月藩士は、新政府の開明的政策に反対して国権の拡張を訴えたが、小倉鎮台兵に鎮圧された。
- 山口萩の反乱……1876年(明治9年)山口県の不平士族が前参議・前原一誠(まえばらいっせい)を推して萩で起こした反乱。陸海からの政府軍の攻撃により約一週間で鎮圧された。
- **西南戦争**……1877年2月～9月、**鹿児島**の士族が**西郷隆盛**を擁して起こした明治政府への**最大・最後の士族反乱**。▼鹿児島の私学校生徒を中心とした士族が西郷隆盛を擁して挙兵し、政府軍に鎮圧された。徴兵軍の実力が認められ、士族の武力反抗に終止符が打たれ、言論による反抗の世となる。
- **西郷隆盛**……1827～77。木戸孝允・大久保利通とともに「**維新三傑**」。薩摩藩の下級武士として尊皇攘夷運動・討幕運動を指導し、薩長同盟・王政復古を実現させた。戊辰(ぼしん)戦争では参謀を務め、**江戸無血開城**に尽力。▼明治新政府で参議となり、**廃藩置県**を実現したが、1873年**征韓論**を唱え、敗れて下野(げや)。▼帰郷後は**鹿児島**に私学校を開設したが、士族に擁立され1877年**西南戦争**を起こして敗れ、城山(しろやま)(鹿児島市北部にある丘。標高108m)で自刃(じじん)した。
- **大久保利通**……1830～78。木戸孝允・西郷隆盛とともに「**維新三傑**」。**岩倉使節団**の1人として欧米を視察した際に、表面的な技術を導入してもだめで、根本的な改革の必要性を痛感し、その障害となる士族、特に自分と同じ薩摩の士族に対して、自分の身を切り刻むような思いで改革を断行した。西南戦争の前に、「西郷に会見する」ことを強く訴えたが、評定(会議)の参加者に反対され薩摩行きを断念するほど、私情を捨て評定の決定に従う人であった。**西南戦争**のさなか、物資の運搬などの後方支援を充実させて明治政府軍を勝利に導いた。西南戦争の翌年暗殺されるが、1889年の「**大日本帝国憲法発布**」、1890年の「**第一回帝国議会**」の実施、1894年の「**領事裁判権の撤廃**」は大久保利通のまいた種が結実した結果といわれる。「為政清明」という大久保の自筆の書が鹿児島市立美術館に所蔵されている。その力強い大久保の肉筆に対峙すると、使命感と決断力に溢れ、澄み切った覚悟を持った1人の凛然とした政治家の姿が心に浮かんでくる。
- **自由民権運動**……明治前期、政府に対し立憲政治の確立を要求して起こした民主主義的政治運動。▼1874 年板垣退助・後藤象二郎らの「**民撰議院設立建白書**(みんせんぎいんせつりつけんぱくしょ)」を契機に民権論がおこり、土佐の立志社など各地で政治結社が結成された。基本的要求は**国会開設・地租軽減・条約改正**であった。▼1878 年全国的規模の自由民権結社「**愛国社**」が再興、80 年には「**国会期成同盟**」と改称、24 万余の請願署名を獲得した。政府はそれに対して「**讒謗律**(ざんぼうりつ)」「**集会条例**」(1880年)などで弾圧を加えた。▼1881(**明治 14**)年には**伊藤博文**らは、英国流の議院内閣制の早期導入を主張して伊藤博文らと激しく対立した**大隈重信**(おおくましげのぶ)を政府から追放(「**明治十四年の政変**」)するとともに、「**国会開設の勅諭**」を出して1890年までに国会を開設すると公約し、運動の収束を図った。国会即時開設派の大隈重信の敗北ともいえる。▼明確な目標を失った民権派は、81年**板垣退助**が**自由党**を結成、82 年には**大隈重信**が**立憲改進党**(りっけんかいしんとう)を結成したものの、運動は分裂・抗争して混迷の度を深めた。▼1885 年に**伊藤博文**を首相とする**最初の内閣**が成立し、86年には条約改正正式会議が始まると、大同団結の気運が盛り上がり、「**三大事件建白運動**(けんぱくうんどう)」(地租軽減・言論集会の自由・外交失策(井上馨の欧化政策)の挽回)がわき起こったが、政府は87年、「**保安条例**」(＝民権派570名を皇居外3里に追放)で応じ、運動は衰退した。

- **伊藤博文**……1841～1909。長州藩出身の政治家。**吉田松陰**の主宰する**松下村塾**で学び、尊王攘夷運動に参加。1871 年**岩倉遣外使節**の副使として欧米を視察した。▼帰国後「征韓論」に反対し、大久保利通の死後、政府の最高指導者(「内務卿」)となる。▼1882 年憲法調査のため渡欧し、帰国後、華族制度・内閣制度を創設し 1885 年**初代内閣総理大臣**に就任した。また、大日本帝国憲法草案審議のために**枢密院**を設置し、その議長として**「明治憲法」制定**の中心人物となる。▼以後、内閣総理大臣を歴任し、第2次内閣のときは**日清戦争・下関講和会議**を主導した。第2次内閣の時に、予算案を通すために自由党党首板垣退助を内務大臣として入閣させた。また、自由党に次ぐ民党である立憲改進党とも組んだ。更に明治天皇に『建艦詔勅』を出させて予算を通させた。1900 年には、**立憲政友会**という政党を作った。日露戦争後の 1905 年に「第 2 次日韓協約」にもとづく「**韓国統監府**」に**初代統監**として赴任したが、09(明治 42)年ハルビンで暗殺された。
- **森有礼**……1847～89。政治家、外交官。旧薩摩藩士。明六社創立を発議した啓蒙思想家。1885 年第1次伊藤博文内閣の時に日本で最初の文相になる。翌年学校令を制定して国家主義的教育体制を確立。義務教育を導入し正しい教育によって才能ある人物を作り出そうとした。歴史の教科書も科学的に表記し神代の記述を改めさせた。師範学校の兵式体操を取り入れた運動会、行軍の要素を取り入れた修学旅行を始めさせた。このような近代教育に対して元田永孚は次のように主張して猛反対した。「文部大臣の教育改革は徳育を忘れた教育に陥る。忠君愛国の誠あれば、願わくは実をもって我らに示すべき」この元田の意見に真っ向から反対した森有礼であったが伊勢神宮の不敬事件が起き 1889 年の帝国憲法発布の日に暗殺された。森有礼の教育改革は急進過ぎて国民に受け入れられず、森の死は同情されなかった。まさに冬嶺孤松の文部大臣であった。森有礼の死により、元田永孚の主張する修身教育・道徳教育が勢いを得て、1890 年発布の**教育勅語**につながっていった。
- **井上 馨**……1835～1915。第1次伊藤博文内閣の外務大臣。山口出身。日本で最初の外務大臣。欧化政策をとり、領事裁判権の撤廃に尽力したが、外国人判事任用を改正案に盛り込んで政府内外の非難を浴び、1887 年に辞任した。
- **欧化政策**……欧米の制度、生活様式などを取り入れて、日本における文明開化の様子を示し、欧米に認めてもらって領事裁判権の撤廃を目指したが、国家主義者や民権論者、**三宅雪嶺**などの国粋主義者に「欧米にこびへつらう政策」として激しく批判された。
- **三宅雪嶺**……1860～1945。国粋主義の思想的結社政教社を創立し、政府の**欧化政策**を批判した。
- **大隈重信**……1838～1922。明治・大正時代の政治家。肥前藩出身。明治政府の参議・大蔵卿を歴任。1881 年、国会の早期開設を主張して伊藤博文らと激しく対立、罷免されると(「**明治十四年の政変**」)、翌1882 年**立憲改進党**を結成し、党首に就任した。▼1889 年、**黒田清隆**内閣の外務大臣として**領事裁判権**の撤廃に努力したが、**外国人判事大審院任用事件**を引き起こして、右翼玄洋社員に爆弾を投げつけられて右足を負傷し、失脚し、条約改正は失敗した。▼1898 年、初の政党内閣(「**隈板内閣**」)を結成するが、短命に終わった。1914(大正 3)年再び首相となり、**第一次世界大戦に参戦**した。▼在野時代の 1882 年**東京専門学校(現・早稲田大学)**を創立した。

- **渋沢栄一**……一橋家の当主慶喜が第15代将軍となった時に、渋沢も幕臣として陸軍奉行支配調役に取り立てられた。渋沢は 27 歳の時に渡仏。西洋文明の豊かさの源泉がバンクであると悟った。帰国後、国立銀行条例を作り、1873 年第一国立銀行を開業させた。以後、銀行条例の改正を経て、銀行設立ブームに火をつけた。「銀行は人々のためにあるべきもの」という信念を持ち続けた。
- **福沢諭吉**……1834～1901。啓蒙思想家。豊前中津藩士。適塾で橋本左内らとともに緒方洪庵に学ぶ。欧米巡歴３回。 1868 年、慶応義塾を創設。明六社創立に参加。1879 年『国会論』を著し、民権運動に影響を与える。他に『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著す。
- **中村正直**……中村敬宇。1832～91。教育者、幕臣。東京出身。1866 年イギリス留学。帰国後、東京女子師範学校、ついで東京大学教授。明六社に参加。個人主義道徳を説き、啓蒙思想の普及に努めた。イギリス人スマイルズの『自助論』を翻訳し『西国立志編』として刊行。
- **中江兆民**……1847～1901。 高知出身の思想家。岩倉使節団に同行してフランスに留学。1874 年に帰国して東京に仏学塾をもうけた。『東洋自由新聞』で自由民権論を説く。1890 年、衆議院議員となったが、翌年自由党土佐派の妥協に憤慨して議員を辞職。ルソーの『社会契約論』を漢文調で抄訳した『民約訳解』は有名。
- **西周**……西周助。 1829～97。啓蒙思想家。津和野藩医の子。1862 年オランダ留学。政治・法律を研究し、開成所教授。明治政府の兵部省出仕。初期の軍制確立に努力。明六社に参加。西洋哲学を最初に紹介。軍人勅諭を起草。オランダ留学で学んだ国際法を幕命で翻訳し、『万国公法』として刊行。
- 日比翁助……福沢諭吉の教えに感化され、「士魂商才」を唱え、「利益追求はとても大事だが、その利益を得る正当性である義がなければならない。社会的責任を果たしてこそ企業の持続性を高めて行く」という観点から、「社会に貢献できるデパート」を目指し、日本橋に日本初の本格的デパート（現在の三越）を開店させた。
- **前島密**……1835～1919。旧越後高田藩士。飛脚制度に代わる信書・荷物逓送の近代的官営事業である郵便制度を創始した。郵便箱・郵便切手・郵便配達夫を採用して全国に郵便網を張りめぐらし、全国均一料金制による確実な通信を可能にした。
- **大日本帝国憲法（黒田清隆内閣）**……明治半ば～昭和戦前の日本国家の骨格となった憲法。いわゆる「明治憲法」。1889 年発布、1890～1947 年施行。▼プロシャ（ドイツ）憲法に範をとり、ロエスレル、モッセの助言を得ながら、**伊藤博文**、井上毅、伊東巳代治、金子堅太郎が草案を起草し、欽定憲法として発布。▼「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」、「天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ」と、天皇が唯一の統治者であると定めている。国民は天皇に統治される「臣民」とされた。▼1947 年５月３日、日本国憲法の施行によって廃止された。
- **帝国議会（山県有朋内閣）**……大日本帝国憲法に基づく立法機関。天皇を協賛して法律・予算を審議する機関として 1890（明治 23）年 11 月開設。**衆議院・貴族院**の２院で構成。
- **日清戦争**……1894～95 年。**朝鮮**の支配権をめぐる日清両国の衝突。**甲午農民戦争**を契機に、日本の朝鮮政府改革要求が清に拒否されて８月１日に宣戦布告。日本が勝利。**下関**で講和条約。
- 甲午農民戦争……1894～95 年、朝鮮半島南部に起こった農民の反乱。日清戦争のきっかけとなる。▼「**東学党の乱**」ともいう。東学党とはキリスト教（西学）に対抗して朝鮮民衆の間に広が

っていった民衆宗教団体。▼「東学」の信徒を中心に「減税」と「排日」を要求して農民が武装蜂起、李朝政府はこれを鎮圧することができず、清国に援助を要請すると、日本も出兵し、両軍は衝突した。

- ❑ **下関条約**……1895 年 4 月 17 日に調印された**日清戦争**の講和条約。日本全権**伊藤博文・陸奥宗光**と清国全権李鴻章が下関で調印。▼主な内容は、

  ①清は朝鮮の独立を認める
  ②遼東半島・台湾・澎湖諸島を日本に割譲
  ③賠償金 2 億両（当時の日本貨で 3 億円余）の支払い

  ところが、講和直後の 4 月 23 日、露仏独 3 カ国の公使が清国への遼東半島返還を勧告（「**三国干渉**」）した。日本は結局勧告を受け入れたが、日本国民は「臥薪嘗胆」の言葉の下に反露感情を高めた。
- ❑ **日英同盟**……日本とイギリスが 1902（明治 35）年以降 3 回にわたって結んだ同盟協約。正式には「日英同盟協約」。**ロシア**の南下政策に対して、イギリスの中国における、日本の中国・韓国における利益擁護のための相互援助と、締約国の一方が交戦の際には中立を守ることなどを約した。**北清事変**が直接の契機となった。1921 年、**ワシントン会議の四カ国条約**で廃棄された。
- ❑ **北清事変**……日清戦争の敗北で清は列強に半植民地化された（「**中国分割**」）。▼1900 年に入ると、清国では「扶清滅洋」を唱える排外主義団体「義和団」が勢力を増して各地で外国人を襲い、同年 6 月には北京の列国公使館を包囲した（「**義和団の乱**」）。その翌日、清国政府も義和団に同調して列国に宣戦を布告したため、暴動はいっそう激しくなった。▼日本軍を主力とする各国連合軍は 8 月、北京城内に入り、各国公使館員および居留民を救出すると、義和団を北京から追って清国を降伏させ、翌年には清国と「北京議定書」を結んだ。▼「義和団の乱」から連合軍の鎮圧にいたる事変を「**北清事変**」という。日本は「極東の憲兵」とあだ名された。▼ところが、北清事変を機にロシアは「満州」（中国東北部）を事実上占領し、同地域における独占的権益を清国に認めさせた。日本政府内には伊藤博文・井上馨の日露協商論（「満韓交換論」）もあったが、1902 年、**桂太郎首相**は日英同盟協約を結んで（「**日英同盟**」）、ロシアとの対決姿勢を強めた。日英同盟の締結をしたのは外相**小村寿太郎**である。
- ❑ 非戦論……対露開戦を主張する東大七博士に対して、日露戦争に反対する主張。内村鑑三らの人道主義的非戦論、与謝野晶子らのロマン主義的厭戦詩、幸徳秋水らの平民社が主張した社会主義的反戦論がある。
- ❑ **内村鑑三**……1861～1930。宗教家。第一高等中学校嘱託教員の時、キリスト教徒の良心から天皇署名のある教育勅語に敬礼をせず、不敬事件として退職になった。日露戦争に対してキリスト教的思想から非戦論を唱えた。
- ❑ **与謝野晶子**……1878～1942。歌人。1904 年、『明星』に発表の晶子の反戦長詩の副題は「旅順口包囲軍の中にある弟を歎きて」。表題は「君死にたまふこと勿れ」が有名。
- ❑ **幸徳秋水**……1871～1911。高知県出身。自由民権運動に参加し、中江兆民の弟子になった。のち社会主義に関心を持ち、社会民主党結成に参加した。平民社を設立し、『平民新聞』で日露戦争反対を唱える。渡米後帰国し無政府主義を唱えたが、1910 年の**大逆事件**で刑死した。

- **日露戦争**……1904～05 年。**朝鮮・満州支配**をめぐる日露両国の戦争。1904 年 2 月 10 日宣戦布告、日本軍は有利に戦いをすすめ、陸軍は満州軍総司令部総参謀長児玉源太郎らの活躍で 05 年 3 月「奉天(ほうてん)会戦」を制し、乃木希典将軍の指揮権代行児玉源太郎の活躍で 203 高地を奪取し、海軍は旅順港にいたロシア東洋艦隊を撃破した。更に、**東郷平八郎**連合艦隊司令長官のもと、秋山真之らの活躍で同年 5 月「**日本海海戦**」でバルチック艦隊を殲滅した。▼しかし日本は軍事・財政的に戦争遂行能力が限界に達し、ロシアでは 05 年 1 月「血の日曜日事件」が起こり国内の危機が急迫していた。▼日本を援助したアメリカ・イギリスもどちらか一方の決定的勝利による満州独占をおそれたため、大統領**セオドア・ローズヴェルト**の仲介により、1905 年 8～9 月、**アメリカ**の**ポーツマス**において講和会議が開かれた。
- **ポーツマス条約**……1905 年 9 月 5 日、アメリカ北部の軍港ポーツマスで調印された日露戦争の講和条約。米大統領セオドア・ローズヴェルトの斡旋により日本全権**小村寿太郎**、ロシア全権**ウィッテ**との間で調印。▼主な内容は、
  ①韓国に対する日本の指導・監督権を全面的に認める
  ②清国からの旅順(りょじゅん)・大連(だいれん)の租借権(そしゃくけん)、長春(ちょうしゅん)以南の鉄道とその付属の利権を日本に譲渡
  ③北緯 50 度以南のサハリン(樺太)と付属の諸島の譲渡
  ④沿海州とカムチャッカの漁業権を日本に認める
  というものであったが、賠償金を全く取れない講和条約に国民は不満を爆発させ、講和条約調印の日に開かれた講和反対国民大会は暴動化した(「**日比谷焼打ち事件**」)。
- **小村寿太郎**……1855～1911。第 1 次桂内閣外相として**日英同盟・日露戦争の外交交渉**に当たる。第2次桂内閣外相時代に**韓国併合・第2次条約改正**(改正日米通商航海条約を締結⇒**関税自主権を完全回復**)を実現する。
- **不平等条約の改正**……旧幕府が欧米諸国と結んだ不平等条約(「**安政の五カ国条約**」1858 年)の改正、特に**領事裁判権(治外法権)の撤廃**と**関税自主権の回復**は、国家の独立と富国強兵を目指す政府にとって悲願にも近い重要な課題だった。例えば、第1次**伊藤博文内閣**時の外相**井上馨**は**鹿鳴館**に代表される**欧化政策**でもって領事裁判権を撤廃しようとしたが、失敗した。また、第 1 次**黒田清隆**内閣時の外相**大隈重信**も**外国人判事大審院任用問題**で失敗した。更に、第1次松方正義内閣の時に、外務大臣青木周蔵はもう少しのところで領事裁判権の撤廃に成功するかに見えたが、大津事件が起きて青木周蔵は辞任を余儀なくされ、条約改正はならなかった。この事件にからんで**大審院長児島惟謙**は、司法府の独立を死守した男として有名である。そして 1894 年に**陸奥宗光**外相が日清戦争直前に日英通商航海条約を結んで**領事裁判権の撤廃**と関税自主権の一部回復に成功、1911 年には**小村寿太郎**外相が日米新通商航海条約に調印し、**関税自主権**が初めて確立された。

■不平等条約改正のまとめ

年代	担当者	改正案の内容
1894	**陸奥宗光**	**領事裁判権（治外法権）の撤廃**／関税自主権の一部回復
1911	**小村寿太郎**	**関税自主権の完全回復**

- **韓国併合**……1910（明治 43）年 8 月 22 日調印の「韓国併合に関する日韓条約」により、韓国を日本の領土としたこと。国号を「韓国」から「朝鮮」に、首都漢城を「京城」に改称し、「**朝鮮総督府**」を置いて 1945 年まで植民地支配を行った。▼1905 年 11 月に調印された「第 2 次日韓協約」は韓国の外交権を奪うもので、調印のあと韓国各地で暴動が起こった。▼また 1907 年 7 月調印の「第3次日韓協約」は韓国軍隊の解散を命ずるもので、調印直後の 8 月 1 日漢城で韓国軍解散式が行われた際、日韓両軍の衝突事件が発生。以後反乱は全土に拡大し、反日武装運動である義兵運動が激化した。▼そんな中で1909年、**伊藤博文**がハルビン駅頭で民族運動家の安重根に暗殺されたのを契機に、日本は憲兵隊を常駐させて警察権を掌握し、1910 年には韓国を植民化した。
- **八幡製鉄所**……1901 年操業開始の日本最初の本格的官営製鉄所。福岡県八幡（現・北九州市）に設置された。▼明治政府の富国強兵政策、特に日清戦争後の軍部の重工業に対する強い関心により、日清戦争による賠償金をもとに 1897 年に着工した。
- **西園寺公望**……1849～1940。明治～昭和期の政治家。公卿出身。枢密院議長、文・外相などを歴任。1903 年伊藤博文の後を受けて**政友会総裁**となり、明治末期に 2 度組閣。大正・昭和時代には非公式に天皇を補佐する**元老**として首相奏推に当たった。▼1901（明治 34）年～1913（大正 2）年まで桂太郎と西園寺公望が交代で政権を担当し、「**桂園時代**」といわれた。▼第一次世界大戦終結後の 1919 年**パリ講和会議**では**首席全権**を務めた。
- **桂太郎**……山県有朋の直系である。第1次の時に、1902 年**日英同盟**締結、1904 年**日露戦争**、1905 年**ポーツマス条約**を締結したが、**日比谷焼打ち事件**で辞職。第2次の時、1910 年**大逆事件**で幸徳秋水、菅野スガらを処刑し社会主義運動を弾圧した。また、伊藤博文暗殺の報復として1910年**韓国併合**。また、当時流行っていた共産主義、自殺に対する戒めとして、戊辰詔書を発表。第3次の時に**第一次護憲運動（大正政変）**が起こる。
- **田中正造**……1841～1913。栃木県県会議員から衆議院議員へと選出されたが、足尾鉱毒事件発生とともにその解決に向けて奔走した。1901 年、議員を辞任して天皇に直訴した。1904 年以降は谷中村に住み、農民と共に闘い生涯を終えた。「真の文明は山を荒らさず　川を荒らさず　村を破らず　人を殺さざるべし」

【24】 大正時代

- **第一次護憲運動**……1912（大正 1）年 12 月～1913 年 2 月にかけて、長州・陸軍の出身で、藩閥・軍閥の代表だった桂太郎の第 3 次内閣（1912.12.21 成立）に対して、立憲国民党の犬養毅と立憲政友会の尾崎行雄を中心に、「閥族打破・憲政擁護」を主張し、桂内閣をわずか 53 日で退陣させた憲政擁護運動。

- **対華 21 カ条の要求**……第一次世界大戦（1914～1918）中の 1915 年、欧州勢力の後退に乗じて日本政府（第2次**大隈重信**内閣）が中国袁世凱（えんせいがい）政府に突きつけた権益拡大の要求。その内容は、ドイツの山東省権益の継承や南満州権益の 99 カ年延長など計21カ条から成った。▼中国では反日排日の運動が起こったが、日本政府は最後通牒を発して、5 月 9 日ほとんどそのまま中国に承認させた。中国人民はその日を「国恥記念日（こくちきねんび）」として排日運動を激化させた。
- **米騒動**……1918（大正 7）年 8 月、**富山県**での米価高騰に対する一漁村の主婦たちの蜂起を機に、全国的に広がりをみせた、米価引き下げ・廉売を要求した民衆暴動。▼第一次世界大戦に参戦以来物価は高騰を続け、特に米価は**シベリア出兵**を見越した米商人・地主らの買い占めと売り惜しみにより暴騰した。▼富山県に始まった暴動（「越中女一揆」）を契機に、3 ヶ月にわたり1道3府38県、70万人に及んだ。政府は軍隊を出動させこれを鎮圧。これにより時の**寺内正毅内閣**は倒れ、代わって**原敬内閣**が成立する。
- **シベリア出兵**……ロシア革命への干渉戦争。1918 年に出兵。しかしソビエト政権と人民の抵抗は強く、日本国内での反対世論も高まり 1922 年に撤兵。この出兵は、内外から激しい非難を受け何ら得るところなく失敗した。
- **原敬（はらたかし）**……1856～1921。明治・大正時代の政党政治家。**最初の本格的政党内閣**を組織した。▼1914 年立憲政友会総裁。1918 年**米騒動**のため寺内正毅内閣が倒れると、そのあとを受けて政友会を中心に組閣。爵位を持たない初の首相として「**平民宰相（へいみんさいしょう）**」とよばれ人気があったが、党利党略をはかったと批判され、1921 年 11 月東京駅で刺殺された。
- **パリ講和会議**……1919（大正 8）年 1～6 月、パリで開かれた第一次世界大戦の講和会議。1914 年にセルビア人がオーストリア皇太子を暗殺したのを引き金に起こった第一次世界大戦は、1918 年 11 月に休戦が成立、1919 年 1 月 18 日にはアメリカの**ウィルソン**大統領の提唱によりパリで第 1 回講和会議が開かれ、日本からも**原敬（はらたかし）**内閣が**西園寺公望（さいおんじきんもち）**を首席全権として派遣した（6 月 28 日調印）。そこでは敗戦国ドイツの処理とともにヨーロッパの新しい国際秩序が定められた（「**ヴェルサイユ体制**」）。ウィルソン 14 か条のキーワードは「民族自決」。日本側全権西園寺公望、人種差別禁止案を説く。
- **ワシントン会議**……**ヴェルサイユ条約**によってヨーロッパにおける新しい国際秩序「ヴェルサイユ体制」が成立したが、極東では、日本の日清戦争以来の領土拡大、社会主義国家ソビエトの連邦制国家への動き、中国における民族運動の高まりなど、新情勢に対応する必要が生まれた。▼そこで 1921 年から翌年にかけて、アメリカ大統領のハーディングの呼びかけで**ワシントン会議**が開かれた（11.13）。日本からは原敬暗殺（11.4）直後の**高橋是清（これきよ）内閣**が、日露戦争時連合艦隊参謀長であった**加藤友三郎（ともさぶろう）**海軍大臣を首席全権として派遣した。また、駐米大使**幣原喜重郎（しでばらきじゅうろう）**も日本全権であった。▼軍縮と太平洋・極東問題が討議され、「**四カ国条約**」（1921.12 月）、「**九カ国条約**」（1922.2 月）、「**海軍軍縮条約**」（1922.2 月）の 3 つの条約が結ばれ、アジア・太平洋地域における新しい国際秩序である「**ワシントン体制**」が成立した。

◆**四カ国条約**(1921.12.13)……英・米・日・仏
太平洋諸島の領土や権益・平和に関する条約。これにより、**日英同盟廃棄**。
◆**九カ国条約**(1922.2.6)……英・米・日・仏・伊・中・オランダ・ベルギー・ポルトガル
中国の主権、門戸開放、機会均等に関する条約 ⇒日本は「対華二十一カ条要求」の一部廃棄(山東省における旧ドイツ権益を返還)
◆**海軍軍縮条約**(1922.2.6)……英・米・日・仏・伊
主力艦(戦艦・航空母艦)保有率を英:米:日・仏・伊＝5:5:3:1.67:1.67 以後 10 年間、主力艦の建造を禁止

- **第二次護憲運動**……1921 年、原敬(たかし)が東京駅で暗殺され、後を継いだ高橋是清(これきよ)内閣が短命に終わると、そのあと加藤友三郎(ともさぶろう)(海軍・貴族院出身)、山本権兵衛(ごんべい)(海軍・薩摩出身)を首相とする非政党内閣が続いた。この間、1923 年9月1日、関東大震災で帝都は壊滅した。さらに、1924(大正 13)年、**清浦奎吾**(きようらけいご)(貴族院出身)が貴族院議員を中心に超然内閣を作ると、**加藤高明**(たかあき)(憲政会)、**高橋是清**(これきよ)(政友会)、**犬養毅**(革新倶楽部)ら護憲三派は**第二次護憲運動**を起こし、総選挙で勝利して**護憲三派内閣**(第 1 次**加藤高明**(たかあき)**内閣**)を組閣した。こうした護憲運動の背後には**吉野作造**の**民本主義**の思想があるといわれる。
- 山本権兵衛……1898 年から海軍大臣を三度つとめ、薩摩派を代表して海軍軍政の中枢に位置した。1904 年大将に昇進。1913 年～14 年、1923 年の2度にわたり内閣を組閣し首相に就任したが、第1次でシーメンス事件、第2次では虎ノ門事件が発生して引責辞任をした。「帝国海軍の棟梁」と呼ばれた。
- シーメンス事件……外国製の軍艦や兵器の輸入をめぐる海軍高官の汚職事件。ドイツのシーメンスとイギリスのヴィッカーズ両社より収賄したことが発覚。これにより山本内閣は総辞職した。
- 虎ノ門事件……1923 年、無政府主義者の一青年難波大助が、摂政宮裕仁親王(のちの昭和天皇)を虎ノ門付近で狙撃した事件のこと。山本権兵衛内閣はその責任を負って総辞職し、難波は翌年大逆罪で死刑に処せられた。
- **普通選挙法**……第 1 次加藤内閣は、1925 年に「**普通選挙法**」を制定し、満 25 歳以上の男子すべてに選挙権を与えた。この男子普通選挙の実現により有権者は 4 倍増となった。

■選挙法改正の歩み

内閣	黒田清隆	山県有朋	原　敬	加藤高明	幣原喜重郎（しではらきじゅうろう）
公布年	1889	1900	1919	1925	1945
実施年	1890	1902	1920	1928	1946
直接国税	15 円以上	10 円以上	3 円以上	制限なし	制限なし
性別 年齢	男 25 歳以上	男 25 歳以上	男 25 歳以上	男 25 歳以上	男・女 20 歳以上
選挙人口 (全人口の割合)	1.1%	2.2%	5.5%	20.8%	50.4%

- **治安維持法**……1925（大正 14）年に成立した代表的弾圧法規。第 1 次**加藤高明**内閣が立案し、1925 年 3 月、普通選挙法と抱き合わせで成立させた。国体の変革や私有財産制度を否認する結社を取り締まるのが目的。▼同年、**日ソ基本条約**に調印してソビエトとの間に国交を樹立したことで、社会主義運動が活発化することを見越しての立法でもあった。

【25】 昭和時代

- **山東出兵**（さんとう）……中国では 1926（大正 15）年 7 月 9 日、**蒋介石**（しょうかいせき）率いる国民革命軍が中国全土を統一するため**「北伐（ほくばつ）」**を開始、1927 年 3 月には南京に入城、翌月、南京国民政府を樹立した。▼これに対して協調外交に批判的な**田中義一**（ぎいち）内閣は、満州軍閥の**張作霖**（ちょうさくりん）を擁護するため、山東省の居留民の保護を名目に 1927（昭和 2）年 4 月、28 年 4 月、同年 5 月と 3 次に及ぶ「山東出兵」を行った。▼第 2 次山東出兵では、蒋介石の国民革命軍との間に武力衝突を起こした（「済南（さいなん）事件」）。
- **張作霖爆殺事件**（ちょうさくりん）……1928（昭和 3）年国民革命軍がに北京に迫ると、満州の大軍閥である張作霖は本拠地である奉天（ほうてん）へ向けて退却したが、その途中の奉天郊外で、関東軍参謀河本（こうもと）大佐らの陰謀により列車ごと爆殺された事件。▼蒋介石率いる中国国民党の仕業と見せかけて満州を直接支配することを企図したものであったが、すぐに関東軍の謀略であることが露見し、満州占領は失敗した。▼この事件の処理をめぐって**田中義一**（ぎいち）**首相**は天皇の不興を買い、翌年総辞職した。
- **関東軍**……満州に駐留した日本の陸軍部隊。日露戦争で獲得した南満州鉄道・遼東半島租借地（「関東州」）の守備隊だったが、1919 年関東都督府が関東庁に改編された際、関東軍として独立した。1945 年 8 月、ソ連の参戦により壊滅した。
- 第1次**若槻礼次郎**内閣……1927 年、片岡直温蔵相の失言から取り付け騒ぎが起こり、**金融恐慌**が生じた。田中義一内閣の蔵相高橋是清は**モラトリアム（支払猶予令）**で収拾。
- **浜口雄幸**内閣……「**ライオン宰相**」として人気が高かった。**金（輸出）解禁→昭和恐慌**
  ロンドン海軍軍縮条約→統帥権干犯問題

- **柳条湖事件**……爆殺された張作霖の子で後継者の張学良は1928年、勢力下にあった満州全域を国民政府に帰属させた。ここに国民党の北伐は完了し、中国全土の統一はほぼ達成された。▼中国では不平等条約撤廃・国権回収を要求する民族運動が高まり、1931年には国民政府も不平等条約の無効を一方的に宣言する外交方針をとるようになった。▼危機感を深めた関東軍は、中国の国権回収運動が満州に及ぶのを武力によって阻止し、満州を長城以南の中国主権から切り離して日本の勢力下におこうと計画した。▼関東軍は1931(昭和6)年9月18日、奉天郊外の**柳条湖**で南満州鉄道の線路を爆破し、これを中国人の仕業として軍事行動を開始した。「**満州事変**」はこうして始まった。中心人物は、『世界最終戦論』で知られる関東軍参謀石原莞爾。第2次**若槻内閣**のときのことである。その頃、日本では橋本欣五郎を首謀者とするクーデター、十月事件が起きている。
- **満州事変**……1931～33年、柳条湖での南満州鉄道爆破事件を機に、奉天省・吉林省・黒竜江省の「東3省」を武力占領し、「満州国」として独立させた。以後日中戦争から太平洋戦争を通算して「十五年戦争」ともいう。
- 中国の提訴……1931年9月満州事変が起こると中国は国際連盟に提訴、これに対し理事会は紛争の不拡大と領土保全を決議し、日本に対し軍事行動停止を勧告した。
- **リットン調査団**……連盟は英米仏独伊の各国委員からなる調査団(委員長＝イギリス人リットン卿)を32年3月現地に派遣、調査団は同年10月に報告書を公表した。内容は日本の軍事行動を侵略とする一方、満州における日本の経済的権益を認め、日中間の新条約締結を勧告するというものであった。
- **五・一五事件**……1932(昭和7)年5月15日、海軍青年将校らが中心となって引き起こしたクーデター。首相官邸を襲い**犬養毅首相**を暗殺した。▼参加した将校や民間右翼はおよそ30人。首相官邸だけでなく内大臣官邸、警視庁、立憲政友会本部、日本銀行、それから都内近郊の発電所もターゲットにし、襲撃したり爆弾を投げ込んだりした。▼(事件の結果)犬養が倒れた後、海軍大将の斉藤実内閣が成立。ここに8年間続いた政党政治は終わりを迎え、再び政党政治が復活するのは、太平洋戦争後のことである。
- **国際連盟脱退**……1933年2月の国際連盟総会で、リットン報告書をふまえて、「満州国不承認・日本軍撤退」を内容とする対日勧告案が賛成42反対1(日本)棄権1で採択され、日本代表松岡洋右は即座に抗議して退場、3月27日には連盟を脱退した。これは**斉藤実内閣**の時であった。
- **二・二六事件**……1936年2月26日未明、**陸軍皇道派**の青年将校らに率いられた約1,400人の部隊が、首相官邸や各大臣邸、警視庁などに乱入して、次々と政府要人を襲った事件。このクーデターで国家の重臣が数名、すなわち元首相で内大臣の**斉藤実**、元立憲政友会総裁で首相経験者でもあった**大蔵大臣高橋是清**、陸軍教育総監渡辺錠太郎が殺害された。のちに前内大臣牧野伸顕(大久保利通の次男)も襲われ、太平洋戦争終結時の総理大臣となる**鈴木貫太郎侍従長**も重傷を負った。**岡田啓介首相**もターゲットになったが、義弟の松尾伝蔵を岡田と思いこんだ青年将校らが松尾を射殺して引き上げたため無事であった。また、陸軍統制派の石原莞爾、橋本欣五郎も暗殺候補であった。

皇道派＝天皇を中心とする新しい政治を行おうとする
統制派＝財閥や官僚と組んで陸軍の勢力を伸ばそうとする
陸軍大臣告示「決起の趣旨に就いては天聴に達せられあり。諸子の行動は国体顕現の至情に基づくものと認む」
天皇「朕が股肱の老臣を殺戮す。かくの如き凶暴の将校など、その精神においても何の怨(ゆる)すべきものありや」
『日本改造法案大綱』の北一輝が首謀者にまつりあげられ、北一輝とともに青年将校らは銃殺刑に処せられた。黒幕である扇動者真崎甚三郎は軍法会議で無罪。

- ❑ 事件の結果……この事件をきっかけに東条英機、林銑十郎などの統制派が主導して陸軍は結束を固めることに成功し、これ以来陸軍は、内閣に対し再度のクーデターをほのめかすなどして逆に政治的発言力を高めた。岡田内閣にかわって、元外務大臣の**広田弘毅**(こうき)が内閣を組織したが、その際、軍部は内閣の人選にさんざん注文をつけ、自分たちに都合の良い人物をたくさん閣内に送り込んだ。
- ❑ **盧溝橋(ろこうきょう)事件**……1937(昭和12)年7月7日、**日中戦争**の発端となった日中両軍の衝突事件。
▼この事件の報を受けた第 1 次**近衛文麿(このえふみまろ)内閣**は初め事件不拡大の方針をとりながら、陸軍部内や政府部内の強硬派の意見に押されて強行方針を打ち出した。現地では 11 日に停戦協定がまとまったにもかかわらず、同日、「今次事件はまったく支那側の計画的武力抗日たること、もはや疑いの余地なし」との声明を発表し、朝鮮と満州から二個師団、内地から三個師団を送ることを決定、日本と中国との全面戦争「**日中戦争**」はこうして始まった。
- ❑ **日独伊三国同盟**……ドイツに魅せられた第2次**近衛内閣**が陸軍の指示のもと、**松岡洋右**外相に交渉させて締結。日本はヨーロッパにおけるドイツ・イタリアの指導的地位を、ドイツ・イタリアは東アジア・東南アジアにおける日本の指導的地位を相互に認め合い、3 国のいずれかが現在戦っていない他国から攻撃された場合、互いに政治的・軍事的に援助し合うことを取り決めたものであった。ソ連に対しては例外規定があり、アメリカを仮想敵国とする軍事同盟で、結果的にはアメリカの強い反発を招き、アメリカはくず鉄・鉄鋼の対日輸出禁止の措置を取った。この頃、北進論を考えていた石原莞爾をおさえて、南進論の東条英機が陸軍の実権を握った。ここにおいて、日本の運命が決まってしまった。
- ❑ **東条英機内閣**……ハル・ノート、真珠湾攻撃、**ミッドウェー**海戦、ガダルカナル島撤退、大東亜会議、サイパン島陥落
- ❑ **小磯国昭内閣**……**東京大空襲**、カイロ宣言[米・ルーズベルト／英・チャーチル／中・蒋介石]
ヤルタ協定[米・ルーズベルト／英・チャーチル／ソビエト・スターリン]
レイテ島海戦(神風特別攻撃隊)
- ❑ **鈴木貫太郎内閣**……**東京大空襲、沖縄守備軍全滅、原爆投下、ポツダム宣言受諾**
- ❑ **ポツダム会談**……第二次世界大戦末期の 1945 年 7 月、米大統領**トルーマン**・英首相**アトリー**・ソ連首相**スターリン**の 3 巨頭が、ベルリン郊外ポツダムで開いた会談。欧州の戦後処理と対日戦争終結策を討議し、中国の蒋介石総統の同意を得てポツダム宣言を発表した。

- **ポツダム宣言**……1945 年 7 月、アメリカ・イギリス・中国 3 国の名で日本に降伏を勧告したもの。正式には「**米・英・中三国宣言**」という。ソ連は対日参戦と同時に参加した。終戦の条件として、軍国主義の絶滅、領土制限、民主化促進などを列挙。日本政府（**鈴木貫太郎内閣**）は1945年8月 14 日これを受諾して無条件降伏。戦後、占領政策の基点となった。
- 下山事件……1949年7月6日、国鉄総裁下山定則が常磐線綾瀬駅付近で死体で発見された事件。真相は不明だが国鉄職員の人員整理発表の直後だけに、国鉄労組員に嫌疑が向けられた。三鷹・松川事件とともに共産党と労働運動を抑えるための米進駐軍と政府との謀略説がある。
- 三鷹事件……1949年7月15日、東京の三鷹駅構内で無人電車が暴走した事件。国鉄労組員の犯行とされた。労働運動を抑えるための米進駐軍と政府との謀略説がある。
- 横浜事件……1942年9月、細川嘉六の論文「世界史の動向と日本」（『改造』所載）が共産党とソ連を賛美し、日本政府のアジア運営を批判するものと発禁、筆者検挙。さらに共産党再建謀議として拡大した。翌年、出版社関係者を検挙・投獄、治安維持法で起訴し、『中央公論』『改造』を廃刊させた。約60人が治安維持法違反で次々と逮捕され、激しい拷問が行われ、4人が獄死した。神奈川県警の管轄事件であったために横浜事件と呼ばれる。
- 松川事件……1949年8月17日、福島県の東北線松川駅付近で起こった列車転覆事件。国鉄労組員・共産党員20名が逮捕・起訴された。広津和郎（ひろつかずお）の緻密な批判が反響を呼び、公正判決要求運動が拡大した。5度にわたる長期の裁判のすえ、共産党と労働運動を抑圧するために当局が証拠をでっちあげたことが明白になり、裁判長でさえ検察側に怒りを覚える中、1963年被告は全員無罪と決定。これを記念し、翌年松川の塔が建立された。
- **農地改革**……1945 年、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の命令で着手された寄生地主制度を否定する農地の民主的改革。第 1 次農地改革（1946）と第 2 次農地改革（1947～50）の 2 次にわたる。
- 経済の民主化……GHQ 最高司令官で熱心な日本研究家でもあったマッカーサーは、日本の軍国主義を支えてきた温床は財閥と寄生地主制であると考えた。そこで GHQ は日本から軍国主義を永久に排除するために、その 2 つを解体し根絶することを経済民主化の中心課題とした。
- 戦前の小作地の割合とその意味……1938 年時点で、土地の約半分が小作地、農家の約 7 割が小作地の使用料として収穫高の 3 割～4 割の小作料を納めなければならない小作あるいは自小作農という貧しい農民層は、国内市場を狭め輸出依存性を高めるとともに、いわば低賃金の沈め石となって安価な労働力を大量に生み出し、不当な国際競争力を持った製品を産み出す原因となってきた。
- **第 1 次農地改革**（1946）……**幣原喜重郎（しではらきじゅうろう）内閣**による。1945 年 12 月 29 日、農地調整法を改正して第1次農地改革案をつくり、これを進めようとした。しかし、在村地主の土地保有を5町歩までは認めたり、「農地委員会」（地主から小作地を買い取り、小作人に売り渡す機関で市町村と都道府県におかれた）における地主の占める割合が多かったりと、地主寄りで不徹底なものだった。

- **第２次農地改革**(1947～50)……第１次**吉田茂内閣**による。1946 年６月、第１次吉田内閣に対してGHQから徹底的な農地改革計画を作成し直すよう政府に勧告が出された。そこで翌1947 年から第２次農地改革が開始され(３月 31 日、第１回農地買収実施)、1950 年までにほぼ完了した。
- 第2次農地改革の内容……不在地主の全貸付地、在村地主の貸付地のうち一定面積(**都府県１町歩／北海道４町歩**)を超える分は国が強制的に買い上げ、小作人に優先的に安く売り渡すというもの。
- 農地改革の結果……自作農が多数誕生し、今まで半分近く占めていた小作地は一気に 1 割程度にまで減少。寄生地主たちは、経済力だけでなく社会的な威信も失ったが、半面、5 段以下の零細農が改革前よりもかえって増加し(1941 年 32.9%→1950 年 40.8%)、日本の農業に構造的な問題を残すことにもなった。
- **日本国憲法**……1946 年 2 月、GHQ が幣原内閣に原案を提示。**吉田内閣**の下で議会審議。1946 年 11 月 3 日公布、1947 年 5 月 3 日施行。第 1 条で象徴天皇制と「**主権在民**」、第 9 条で戦争の放棄を明記した「**平和主義**」、第 11 条で侵すことのできない永久の権利としての「**基本的人権の尊重**」、第 25 条では「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という**社会権としての生存権**がうたわれており、「主権在民」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」は日本国憲法の三大原則である。
- **サンフランシスコ平和条約**……1951 年 9 月、サンフランシスコで講和会議が開かれ、わが国と 48 カ国との間で対日平和条約が調印された。翌 1952 年 4 月 28 日、条約が**発効**して約 7 年間に及んだ占領は終結し、日本は独立国としての**主権**を**回復**した。
- 単独講和の背景……朝鮮戦争(1950～1953)で日本の戦略的価値を再認識したアメリカは、占領を早く終わらせて日本を西側陣営に組み込もうとする動きを加速させた。アメリカのダレス外交顧問らは対日講和からソ連などを除外し(「単独講和」)、講和後も日本に駐留することなどを条件に準備を進めた。日本国内にはソ連・中国を含む全交戦国との全面講和を主張する声もあったが、第 3 次**吉田内閣**は、再軍備の負担を避けて経済復興に全力を注ぐためにも西側諸国のみとの講和によって独立を回復し、アメリカ軍に基地を提供する見返りに独立後の安全保障をアメリカに依存する道を選択した。
- **国際連合加盟**……第３次**鳩山内閣**の 1956 年 12 月に加盟。58 年以後、しばしば安全保障理事会の非常任理事国に選ばれ、村山内閣の 94 年、常任理事国入りの意志を表明。
- **ソ連との国交回復**(1956 年**日ソ共同宣言**)……ソ連は 1951 年のサンフランシスコ講和会議には出席したが、平和条約には調印しなかった。**鳩山一郎内閣**は、1950 年代半ばからの東西の緊張緩和の動き(「雪どけ」)に乗じて日ソ交渉を展開し、1956 年 10 月には自らモスクワを訪問して国交正常化交渉にあたり、平和条約は締結できなかったものの、ブルガーニン首相との間に「**日ソ共同宣言**」を調印することに成功した。
- 平和条約が締結できない原因……北方領土問題。日本は国後(くなしり)・択捉(えとろふ)・歯舞(はぼまい)・色丹(しこたん)の 4 島を日本固有の領土だとしてソ連に返還を求めたが、ソ連は国後・択捉島の自国への帰属はすでに解決済みとの立場をとり、平和条約は継続交渉とされた。歯舞諸島・色丹島の日本への引渡しも平和条約締結後のこととされた。

- 日ソ共同宣言の意義……これによって日ソ間の戦争終結が宣言され、1956 年 12 月、日本の国際連合への加盟が実現した。1933 年 3 月に国際連盟を脱退して以来 23 年ぶりの国際社会への正式復帰となったのである。
- **韓国との国交回復**（1965 年**日韓基本条約**）……日本は 1952 年、大韓民国との間に第 1 次日韓会談を開いたのち断続的に交渉を重ね、**佐藤栄作内閣**の時、朴正熙（ぼくせいき）との間で「**日韓基本条約**」に調印（1965.6.22）、韓国政府を朝鮮にある唯一の合法的な政府と認めた。
- それまでの経緯……朝鮮では 1948 年、北緯 38 度線以南に李承晩（りしょうばん）を大統領とする大韓民国、以北に金日成（きんにっせい）を首相とする朝鮮民主主義人民共和国が成立した。サンフランシスコ講和会議（1951.年 9 月）のときには朝鮮戦争中だったため、両国とも会議に招かれなかった。
- **中国との国交回復**（1972 年**日中共同声明**／1978 年**日中平和友好条約**）
- 「日華平和条約」……中国では、1945 年 11 月に毛沢東（もうたくとう）の共産党と蒋介石（しょうかいせき）の国民党との間で中国内戦が起き、1949 年に共産党が勝利して中華人民共和国を建国。蒋介石は台湾に移って中華民国の存続を主張した。サンフランシスコ講和会議に際しては、どちらを代表政権とするかについてアメリカとイギリスの意見が一致せず、同会議への招請は見送られた。日中間の講和については独立後の日本自身の選択に委ねられ、日本は 1952 年、アメリカからの働きかけで、台湾にある中華民国との間に「**日華平和条約**」を調印した。
- 「LT 貿易」……日華平和条約と日中共同声明の間、中華人民共和国との国交はなかったが、**池田勇人内閣**（いけだはやと）の「政経分離」の方針の下、1962 年に、元通産相であった高碕達之助（たかさきたつのすけ）が華僑事務委員会主任の廖承志（りょうしょうし）との間で、日中総合貿易に関する覚書に調印し、経済交流を押し進めた。この準政府間貿易は、交渉にあたった**廖承志**（L）、**高碕達之助**（T）両名の頭文字から「**LT 貿易**」と命名された。
- 「**日中共同声明**」……ところが、1972 年 2 月、ニクソン米大統領が電撃的に中国を訪問すると、続いて**田中角栄首相**（たなかかくえい）も 9 月に訪中、北京で**周恩来**（しゅうおんらい）首相・**毛沢東**首席と会談、周恩来首相と「**日中共同声明**」を発表した。これは、日本側が戦争における加害責任を認め、反省する態度を表明するとともに、中華人民共和国を「中国で唯一の合法政府」と認めた上で、両国間の「不正常な状態」の終結を共同で宣言したものである。これによって中華人民共和国との国交は正常化する一方、台湾の国民政府との外交関係は断絶し、1952 年に結ばれた日華平和条約は無効となった。ただし、貿易など民間レベルでは密接な関係が続いている。
- 「**日中平和友好条約**」……その後、**福田赳夫内閣**（ふくだたけお）の時、1978 年 8 月、北京で園田直（すなお）外相と黄華（こうか）外交部長との間で**日中平和友好条約**」が調印された。

【26】 明治時代の文化

- 学問のすゝめ……明治初期、**福沢諭吉**（ふくざわゆきち）の啓蒙書。1872～76 年に発行。実学（じつがく）を勧め、人間の平等、個人の自由、国家の独立などを論じた。大ベストセラーとなった。
- **福沢諭吉**……1835～1901。啓蒙思想家。豊前（ぶぜん）（現・大分県）中津藩士。**緒方洪庵**の「**適塾**」に学ぶ。初め蘭学を学び、のち英学を修める。1860～67 年に 3 度にわたり欧米を視察し、1868

年、**慶應義塾(現・慶應義塾大学)**を創設した。森有礼が発議した啓蒙思想家の団体「**明六社**」創立に参加。代表作に『**西洋事情**』、『**学問のすゝめ**』、『**文明論之概略**』。

- **津田梅子**……1864～1929。岩倉遣外使節に随行した最初の女子留学生。8歳で渡米し、10 年後ハイスクールを卒業し帰国。華族女学校の英語教師という名誉ある職に就くも、女性のための学校を日本に創りたいという夢を捨てきれず、再び渡米。女性であるがゆえの様々な困難に直面していたが、ハーバード大学でヘレン・ケラー、イギリスでナイチンゲールに出会い、「不撓不屈の精神」の偉大さを知り、帰国後、華族女学校を退職し、1900 年9月 14 日、女子英学塾(津田英学塾、のち津田塾大学)を設立した。1913 年の梅子の卒業式でのスピーチは有名である。
- **小説神髄**……明治前期、**坪内逍遙**の文学論。1885～86年刊。上下2巻。戯作文学にみられる勧善懲悪主義を排し、**写実主義**を提唱した。日本近代文学の出発点を画した先駆的著作。
- **二葉亭四迷**……**言文一致体**を主張して、坪内逍遥を批判。恋愛小説『**浮き雲**』。ツルゲーネフの『あいびき』を翻訳。
- 尾崎紅葉……坪内逍遥や二葉亭四迷の写実主義に反抗するかのように、井原西鶴風の作品「**金色夜叉**」を著す。
- **与謝野晶子**……1878～1942。歌人。**与謝野鉄幹**を慕って「新詩社」に入り、結婚。歌風は情熱的で華麗。日露戦争批判の詩を発表し物議をかもす。代表的歌集に『**みだれ髪**』。文芸雑誌『**明星**』も有名。貧しい中で11 人の子育てをした。子供にお金をかけることができない代わりに、手作りでおもちゃやおとぎ話を作ってあげた。自らは親の目を盗んで勉強したことを鑑み、女学校ができて堂々と勉強ができるのに勉強をしない女学生を情けないと嘆いた。社会における女性の役割、女性の尊厳、男女の対等を主張した。**平塚雷鳥**に依頼されて、**青踏**の創刊号の巻頭を飾ったのが晶子が寄せた詩である「山の動く日」である。「山の動く日来る(中略)人よ、ああ、唯これを信ぜよ。すべて眠りし女 今ぞ目覚めて動くなる。」情熱の歌人与謝野晶子の切望した女性の自立がうたわれている。
- **平塚雷鳥**……1886～1971。**青踏社**を興し女性解放運動・女性参政権運動を推進、ついで新婦人協会を設立した。昭和初期に無政府主義系の消費組合「**我らの家**」を東京世田谷に設立。戦後、世界連邦建設同盟に活動。
- **青踏**……**青踏社**の発行した女性のみの手による雑誌。創刊号の平塚雷鳥の論文で「**元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。**今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である」と創刊の辞を書きあげた。
- **北原白秋**……1909 年に第一詩集『**邪宗門**』を刊行し、異国情緒と象徴詩風を創始した。
- **高村光太郎**……1941 年刊行の『**智恵子抄**』は、他界した夫人智恵子をしのんで編んだものである。詩 29 編、短歌6首、「智恵子の半生」ほか2編の回想記を収める。光太郎の精神的危機を救った智恵子との結婚生活、その狂気の時期、死後の追慕をうたった愛の詩集。
- **石川啄木**……第1歌集は『一握の砂』。1910 年刊行。病と貧困のなかでも 551 首を収め、過去・現在の生活感情を自由にうたう。
- **斎藤茂吉**……第1歌集は『赤光』。1913 年刊。近代的な抒情を緊密な調べに盛って、画期的な歌集と言われる。

- **森鷗外**……『**舞姫**』はロマン主義の代表作。『**阿部一族**』は高踏派の代表作。アンデルセン原作の翻訳『**即興詩人**』は名訳である。
- **樋口一葉**……『**たけくらべ**』『**にごりえ**』。24 歳で死去したロマン派の女流作家樋口一葉であるが、偉大な作品を残している。彼女は明治 27 年春から 14 ヶ月で前述の『**たけくらべ**』『**にごりえ**』を含めて 10 作品以上を創作している。「樋口一葉の奇跡の 14 ヶ月」と言われる。
- **島崎藤村**……1872～1943。明治～昭和期の小説家・詩人。長野県の生まれ。1893 年雑誌『**文学界**』創刊に参加。初め**ロマン主義詩人**として『**若菜集**』などを出す。1912 年『千曲川のスケッチ』を経て小説に転じ、1906 年、被差別部落の問題を正面から取り上げた作品である『**破戒**』を発表。**自然主義文学**の先駆となった。1929 年～35 年にかけて『**夜明け前**』を発表。明治維新前後の時代の変転を背景に木曽馬籠の本陣・庄屋・問屋を兼ねる国学者青山半蔵（作者の父正樹がモデル）の生涯を描く。
- **正岡子規**……俳句に写生の手法を取り入れた。また、散文においても写生文を主張した。正岡子規の俳句革新の場として刊行した俳句雑誌『**ホトトギス**』は後に幅広い文芸誌となった。俳句では高浜虚子、小説家では夏目漱石らが『**ホトトギス**』から出ている。1898 年、『**歌よみに与ふる書**』で短歌革新の狼煙をあげ、根岸短歌会を設立した。
- **吾輩は猫である**……明治後期、**夏目漱石**の長編小説。1905～06 年『ホトトギス』に発表。猫の目を借りて人間社会を風刺している。漱石の出世作となった。
- **坊っちゃん**……**夏目漱石**の代表作の1つ。1906 年『ホトトギス』に発表。作者の旧制松山中学校での経験を元に、正義派で江戸っ子教師の痛快な活躍ぶりをユーモラスに描いたもの。漱石初期の代表作。
- **夏目漱石**の朝日新聞連載もの……知識人長井代助の無為に生きる心理と愛に悩む姿が主題の『**それから**』、人間のエゴイズムと倫理との葛藤を追求する『**こころ**』、津田と妻お延の、エゴイズムと虚栄心による葛藤・苦悩を描く未完の大作『**明暗**』はいずれも朝日新聞に連載されたが、秀逸である。
- 明治期の西洋画……西洋画は**高橋由一**（代表作「**鮭**」）らによって開拓されたのち一時衰退したが、**浅井忠**（代表作「**収穫**」＝右写真）らによる日本初の西洋美術団体である「明治美術会」の結成や、フランス印象派の画風を学んだ**黒田清輝**（代表作「**湖畔**」）の帰国によって、しだいに盛んになった。▼1896 年には、東京美術学校に洋画科が新設される一方、黒田らは「白馬会」を創立して、画壇の主流を形成した。**青木繁**（代表作「**海の幸**」）は、東京美術学校で黒田の指導を受け、白馬会賞を受けた。



- 明治期の彫刻……伝統的な木彫の**高村光雲**が「**老猿**」など、ロダンら西洋の彫刻を学んだ荻原守衛が「女」などの作品を発表した。
- **フェノロサ**……1853～1908。アメリカの哲学者・日本美術研究家。御雇外人教師。**日本の伝統美術**に関心を持ち、流行の西洋美術を排して狩野派・土佐派を推し、日本画復興のきっかけをつくった。1887 年には**岡倉天心**とともに西洋美術を除外した**東京美術学校**を創立した。この

ような中で**狩野芳崖・橋本雅邦**らがすぐれた日本画を創作した。フェノロサは 1890 年帰国後、ボストン美術館東洋部長となり、日本美術を欧米に紹介した。

- **岡倉天心**……1862～1913。明治時代の美術評論家。フェノロサに学び、日本美術の伝統への理解を深めた。1887 年東京美術学校を創立し、校長として多くの画家を育て、のち**日本美術院を**創立、日本画の改革を提唱した。また英文で『**茶の本**』、『**東洋の理想**』などを出版、日本文化を海外に紹介した。
- **狩野芳崖**……1828～88。日本画家。フェノロサに見いだされ、橋本雅邦とともに日本画の復興に努力。狩野派の厳格な筆法に洋画の色彩美を取り入れた。東京美術学校創立（1887 年）に加わる。絶筆「**悲母観音**」は傑作として知られる。
- **橋本雅邦**……1835～1908。日本画家。フェノロサ・岡倉天心らと東京美術学校創立に参加、教授となり、**横山大観**（代表作「**生々流転**」）・**下村観山**（代表作「**大原御幸**」）・**菱田春草**（代表作「**黒き猫**」・「**落葉**」）らを指導した。▼穏健で保守的な作風ながら充実した気迫を示す。代表作に「**竜虎図**」など。

■無我（横山大観）



■天平の面影（藤島武二）



■墓守（朝倉文夫）



■南風（和田三造）



■日本婦人（ラグーザ）



- **大森貝塚**……東京都大田区・品川区にある縄文時代後期を中心とする貝塚。▼貝塚とは、主に縄文時代の人々が食べた貝の殻などを捨てたものが堆積してできた遺跡。貝殻だけでなく、土器・石器・骨角器・食物の滓や、埋葬された人骨なども発見されるため、当時の人々の生活や自然環境を知るのに役立つ。**モース**による発見。
- **ラフカディオ・ハーン**……1850～1904。現アイルランド（当時は英国）出身の作家・随筆家・日本研究家。1890 年特派記者として来日。同年英語教師として島根県松江中学校に勤め、小泉節子（「セツ」）と結婚。96 年帰化し、「**小泉八雲**」と改名。のち東京帝国大学・早稲田大学の講師となり英文学を講じた。日本文化に関心をもち、『**怪談**』、『日本雑録』、『心』、『日本の面影』など著書多数。
- **クラーク**……1826～86。アメリカの科学者・教育家。マサチューセッツ州立農科大学学長時代に開拓使の招きで来日（1876 年）。**札幌農学校**（現・北海道大学農学部）でのキリスト教精神に基づく訓育は**内村鑑三・新渡戸稲造**らの学生に深い感化を及ぼした。別離に際して残した“Boys, be ambitious!”の言葉は有名。
- **ヘボン**……1815～1911。アメリカ人宣教師・医者。1859 年来日し、横浜で伝道と医療活動に従事。**ローマ字**による日本語の表記法を工夫し、「**ヘボン式**」といわれる。1867 年日本最初の和英辞典を完成（『和英語林集成』）させた。私塾「英和学院」を開き、現在の明治学院大学の基礎を築いた。

【27】 大正時代の文化

- **横山大観**……1868～1958。日本画家。東京美術学校で岡倉天心に師事し、日本美術院の創立及び再興に尽力した。日本画の近代化を目指し、水墨画を研究し、最高傑作『**生々流転**』を生む。
- **生々流転**……横山大観の大作であり、約 40 メートルの長巻で山間の渓流が大河となり海に流れ込んでいる。移り行く水の姿で人の世の変転を表現した。
- **下村観山**……1873～1930。日本画家。狩野芳崖・橋本雅邦に師事し、東京美術学校で活躍。後に岡倉天心らと日本美術院を創立。『**大原御幸**』は有名。
- **大原御幸**……下村観山の代表作である。落髪して大原に住む建礼門院徳子を後白河法皇が訪ねる話を絵巻にしたものである。
- **岸田劉生**……1891～1929。西洋画家。初期の外光派画風から、後期印象派のフェーザン会に参加。更に北欧的写実主義に変化し、1918 からは「麗子五歳の像」に始まる一連の『**麗子像**』に見られる独自の芸域を完成させた。
- **安井曾太郎**……1885～1955。西洋画家。浅井忠に師事し、1915 年に二科会員になった。肖像画に独自の画風を示し、チャイナ服を着て椅子に腰掛けている『**金蓉**』は安井曾太郎の代表作である。
- **梅原竜三郎**……1888～1986。西洋画家。フランスでルノワールに師事したが、次第に強い色彩を用い、自由奔放で東洋風、絢爛豪華な画風を作りあげ、個性豊かな作風を完成した。帰国後は二科会に参加し、代表作は『**紫禁城**』などである。
- **紫禁城**……**梅原竜三郎**が中国の北京に行って描いた作品。強い色彩、自由奔放で東洋風、絢爛豪華な画風で描かれている。

- **手……高村光太郎**が自分の手を見ながら制作した。中指を中心にわずかに屈折する指の形態を巧みに表現している
- **民本主義**(みんぽんしゅぎ)……大正時代の民主主義論。1916(大正 5)年、第一次世界大戦後の自由主義・民主主義の台頭を背景に、**吉野作造**(よしのさくぞう)が『中央公論』誌上で提唱。▼主権在民の「民主主義」とは一線を画し、主権在君の憲法体制下での民衆の政治参加を主張した。政治の目的は「民衆の福利」にあり、政策決定は民衆の意向に従うべきだとして、「**政党内閣制**」と「**普通選挙**」の実現を具体的目標とし、**大正デモクラシー**運動の中心理論となった。
- **吉野作造**……1878～1933。大正・昭和の政治学者・思想家。東大教授。1916 年『中央公論』にて「**民本主義**」を主唱。**大正デモクラシー**の先駆となる。

【28】 予想問題

[1] 次の設問を読んで、正解をそれぞれ下の語群①～⑤から1つ選び、解答欄に数字を記入しなさい。

(1) 織豊時代のキリシタン大名。文禄・慶長の役には先鋒として出陣。関ヶ原の戦いでは西軍に属し、敗れて処刑された。

①宇喜多秀家　②加藤清正　③小西行長　④石田三成　⑤大谷吉継

1	

(2) 江戸前期の儒者。幕府の諸法度の起草にあたった。上野忍岡に家塾を開いた。これが後の昌平坂学問所である。

①藤原惺窩　②林羅山　③金地院崇伝　④木下順庵　⑤室鳩巣

2	

(3) 宇治市にある黄檗宗本山。歴代住持の多くは中国僧で、建築は明の禅刹様式を採用。黄檗様といわれる。

①瑞巌寺　②大覚寺　③寿福寺　④万福寺　⑤輪王寺

3	

(4) 奈良前期の公卿。聖武天皇の即位とともに左大臣になったが、729 年国家を傾けようとしているとの密告をうけ自害した。

①有馬皇子　②額田王　③大友皇子　④大津皇子　⑤長屋王

4	

(4) 明治政府の弾圧法規。目的は民権運動家を東京から追放することにあり、これによって中江兆民らが追放された。

①保安条例　②新聞紙条例　③集会条例　④治安警察法　⑤治安維持法

5	

(6) 日本初代の文部大臣。「帝国大学令」などの諸学校令を制定し、近代日本の教育制度の基礎を築いた。

①板垣退助　②海老名弾正　③植木枝盛　④森有礼　⑤大隈重信

6	

(7) 出現期の古墳の中で最大の規模を持つのが箸墓古墳であり、卑弥呼の墓ではないかといわれたりするが、その所在地は、現在の都道府県ではどこか。

①福岡県　②大阪府　③熊本県　④奈良県　⑤島根県

7	

(8) 鎌倉時代の文教興隆に貢献した、北条実時のつくった金沢文庫の所在地は、現在の都道府県ではどこか。

①東京都　②石川県　③京都府　④神奈川県　⑤埼玉県

8	

(9) 一の谷に集結した平氏軍に対して源義経軍は奇襲し、平氏軍を破った。この結果、平氏の京都奪回の夢は消えた。この一の谷の所在地は現在の都道府県ではどこか。

①兵庫県　②富山県　③福井県　④京都府　⑤大阪府

9	

(10) 一向宗門徒が守護の富樫政親を倒し、以後織田信長に制圧されるまで1世紀にわたってそこは本願寺の領国となった。この国は現在の都道府県ではどこか。

①京都府　②大阪府　③岐阜県　④石川県　⑤愛知県

10	

(11) 戦国時代、浄土真宗の勢力の強い地域では、その寺院や道場を中心に寺内町が建設された。今井もそのひとつである。この町は現在の都道府県ではどこか。

①岡山県　②三重県　③奈良県　④滋賀県　⑤和歌山県

11	

(12) 1808年樺太に派遣され、西岸を探検し、当時大陸の一部であると信じられていた樺太が島であることを確認した。

①伊能忠敬　②近藤重蔵　③間宮林蔵　④最上徳内　⑤高田屋嘉兵衛

12	

(13) 江戸時代の私塾と設立者の組み合わせで誤っているものはどれか。

①古義堂・伊藤仁斎　②芝蘭堂・大槻玄沢　③洗心洞・大塩平八郎
④咸宜園・広瀬淡窓　⑤適塾・福沢諭吉

13	

(14) 犬猿の仲だった薩摩藩と長州藩を仲介し、両者に薩長連合という軍事同盟の密約を結ばせた。この結果、倒幕の動きは加速してゆくことになる。

①勝海舟　②大村益次郎　③吉村寅太郎　④坂本龍馬　⑤宮部鼎蔵

14	

(15) 首相とその在任中に起こった戦争の組み合わせで誤っているものはどれか。

①東条英機・太平洋戦争　②桂太郎・日露戦争　③伊藤博文・日清戦争
④大隈重信・第一次世界大戦　⑤犬養毅・日中戦争

15	

(16) 法然が開祖の浄土宗の総本山で、京都にある。本堂や三門は見る者を圧倒する大建築である。

①知恩院　②清水寺　③平等院　④大徳寺　⑤東寺

16	

(17) 宗祇が中心になって編集した連歌撰集で、正統的連歌最盛期の優れた作品が多い。

①梁塵秘抄　②閑吟集　③犬菟玖集　④新撰菟玖集　⑤菟玖集

17	

(18) 人物と法令の組み合わせで誤っているものはどれか。

①藤原不比等・大宝律令　②足利尊氏・建武式目　③渋沢栄一・国立銀行条例

④持統天皇・飛鳥浄御原令　⑤刀狩令・徳川家康

18	

(19) 江戸初期の大名。家臣支倉常長をメキシコ、イスパニア、ローマに派遣し、自国船によるメキシコ貿易を試みた。

①伊達政宗　②上杉景勝　③前田利長　④鍋島直茂　⑤佐竹義宣

19	

(20) 豊臣秀吉の軍師で、中国・九州攻めに参加。熱心なキリスト教信者で、遺言により博多の教会に葬られた。

①明智光秀　②黒田如水　③竹中半兵衛　④豊臣秀長　⑤福島正則

20	

(21) 江戸初期の儒者。己の研究した朱子学に拘泥せず、仏教や神道との調和を図ろうとした。弟子に林羅山や松永尺五らがいる。

①荻生徂徠　②山鹿素行　③太宰春台　④伊藤仁斎　⑤藤原惺窩

21	

(22) 江戸前期の儒者。加賀前田家に仕え、5 代将軍徳川綱吉の侍講となる。教育者としてもすぐれ、門下に俊秀が多かった。

①中井竹山　②柴野栗山　③木下順庵　④熊沢蕃山　⑤三宅石庵

22	

(23) 江戸中期の政治家。元禄時代の悪政を改め、貨幣の品位を旧に復し、長崎貿易の制限、武家諸法度の改訂など、いわゆる正徳の治を行った。

①尾藤二洲　②浅見絅斎　③新井白石　④古賀精里　⑤佐藤一斎

23	

(24) 1180年の源頼政の挙兵以後1226年までの日記体に記した鎌倉幕府の記録。中世の武家社会研究の基礎資料である。

①増鏡　②吾妻鏡　③大鏡　④梅松論　⑤太平記

24	

(25) 751年成立したわが国現存最古の漢詩集。おおむね類型的で個性に乏しく、あらゆる点で中国詩の模倣の域を出ない。

①千載集　②和漢朗詠集　③経国集　④懐風藻　⑤菅家文草

25	

(26) 鴨長明の随筆。文章は格調高く、全編を無常厭世の仏教観が貫いている。日本の代表的随筆のひとつ。

①禁秘抄　②玉葉　③明月記　④方丈記　⑤徒然草

26	

(27) 1774 年、前野良沢や杉田玄白らが西洋医学の解剖書を訳述したもの。1774 年は日本における西洋医学の原点といってよい。

①解体新書　②蔵志　③蘭学事始　④西説内科撰要　⑤舎密開宗

27	

(28) 日本で最初の近代的な学会・啓蒙的結社である明六社に加わらなかった人物は誰か。

①江藤新平　②西周　③福沢諭吉　④中村正直　⑤加藤弘之

28	

(29) 文章主体の小説で歴史や伝説を題材にした読本はどれか。

①浮世風呂　②金々先生栄花夢　③椿説弓張月　④春色梅児誉美
⑤仕懸文庫

29	

(30) 18 世紀半ばに山県大弐が江戸で尊王論を説き、幕政の腐敗を攻撃し死刑に処せられた事件を何と言うか。

①宝暦事件　②慶安事件　③大津事件　④明和事件　⑤紫衣事件

30	

(31) 新井白石の著作。摂関政治の始まりから豊臣秀吉の天下統一に至るまでを 14 の段階にわけ、徳川政権の歴史的必然性を説いた。

①読史余論　②古史通　③大日本史　④武家事紀　⑤中朝事実

31	

(32) 天保の改革に含まれないのはどれか。

①定免法　②人返しの法　③上知令　④倹約令　⑤株仲間の解散

32	

(33) 坪内逍遥の勧めで、日本で最初の言文一致体の小説『浮雲』を発表、『あひびき』等を翻訳して近代文学の先駆者となった。

①幸田露伴　②二葉亭四迷　③国木田独歩　④泉鏡花　⑤北村透谷

33	

(34) 源頼朝は伊豆での挙兵後、平氏方との最初の合戦である石橋山の戦いで敗れ、安房に逃れた。石橋山は現在の都道府県ではどこにあるか。

①静岡県　②東京都　③山梨県　④神奈川県　⑤埼玉県

34	

(35) 嵯峨天皇は平安京内の警察にあたる職を設けた。この職はのちには裁判を行うようになり、京の統治を担う重要な職となっていった。

①検田使　②検非違使　③勘解由使　④押領使　⑤追捕使

35	

(36) 6 世紀初めに磐井は新羅と組んで大規模な戦乱を起こした。大王軍はこの反乱を2年がかりで鎮圧した。この磐井が反乱を起こした場所は現在の都道府県でどこか。

①長崎県　②福岡県　③大分県　④佐賀県　⑤熊本県

36	

(37) 遣唐使船で中国に渡らなかった人物は誰か。

①空海　②阿倍仲麻呂　③最澄　④吉備真備　⑤小野篁

37	

(38) 永享の乱で足利持氏を討ったほか、有力守護大名の弾圧を積極的に行った。これが災いして暗殺された。

①足利直義　②足利義視　③足利義尚　④足利義教　⑤足利義輝

38	

(39) 1221 年の承久の乱後、京都に新たに置かれた職で、朝廷の監視や京都内外の警備を行った。

①京都大番役　②京都所司代　③鎮西奉行　④六波羅探題　⑤鎮西探題

39	

(40) 幼少の清和天皇が即位すると、天皇の外祖父として臣下で初めて摂政の任についた。

①藤原基経　②藤原冬嗣　③藤原良房　④藤原時平　⑤藤原忠平

40	

(41) 老中水野忠邦を中心に天保の改革を断行。しかし内憂外患は深まり、1853 年ペリーが来航し、幕閣が対応に苦慮している最中に死亡した。

①徳川家慶　②徳川家定　③徳川家茂　④徳川家斉　⑤徳川家達

41	

(42) 江戸幕府が欧米列強と締結した不平等条約の改正に明治政府は難渋したが、この外務大臣の時、日本は関税自主権を完全に回復し、条約上列強と対等な地位を得ることができた。

①陸奥宗光　②寺島宗則　③小村寿太郎　④大隈重信　⑤井上馨

42	

(43) 江戸幕府の職制。老中に次ぐ重職で、老中支配以外の諸役人を統轄する。

①若年寄　②目付　③大目付　④側衆　⑤高家

43	

(44) 中世の高利貸し業者で、室町幕府はこれらの業者を保護・統制するとともに、営業税を課した。

①札差　②馬借　③問丸　④土倉　⑤掛屋

44	

(45) 南朝最後の天皇。この天皇が 1392 年に皇位を放棄して入京し、天皇は北朝の後小松天皇ひとりとなったことで南北朝の合一が実現した。

①後醍醐天皇　②光厳天皇　③長慶天皇　④後円融天皇　⑤後亀山天皇

45	

(46) 日蓮の著作で、前執権北条時頼に献じられた。日蓮はこれによって国家の迷妄をひらこうとしたが受け入れられず、これが原因となって伊豆に流罪となった。

①立正安国論　②日本霊異記　③教行信証　④興禅護国論　⑤正法眼蔵

46	

(47) 井原西鶴の著作で、町人の金銭に対する執着と盛衰を描いた。

①日本永代蔵　②破戒　③政談　④夢の代　⑤経世秘策

47	

(48) 小林多喜二の著作で、過酷な労働現場における弾圧と抗争、未組織労働者の覚醒を描いた。

①海に生くる人々　②恩讐の彼方に　③夜明け前　④太陽のない街　⑤蟹工船

48	

(49) 樋口一葉の著作で、社会の底辺に生きる女性の暗い宿命と死にいたる悲劇を描いた。

①土　②不如帰　③にごりえ　④何処へ　⑤蒲団

49	

(50) 吉田光由の著作で、日本で最初の算術書。中国の数学を日本に適応するように改めた平易な入門書。

①清良記　②小右記　③発微算法　④塵却記　⑤中右記

50	

(51) 浄土真宗中興の祖で、宗祖親鸞の教えを民衆に平易に説き広めることに努め、御文伝道や講を各地に組織した人物は誰か。

①貞慶　②明恵　③忍性　④叡尊　⑤蓮如

51	

(52) 室町時代の禅僧。明に留学後、西国各地を遍歴。肥後の菊地氏や薩摩の島津氏に招かれ、薩南学派の礎を築いた人物は誰か。

①万里集九　②桂庵玄樹　③日親　④源信　⑤空也

52	

(53) 戦国時代の武将で、三好長慶に仕え、三好氏の実権を奪取した。織田信長が入京すると降伏、のち背いて自殺した人物は誰か。

①陶晴賢　②毛利元就　③松永久秀　④長宗我部元親　⑤朝倉義景

53	

(54) 豊臣政権における五大老のひとりで、関ヶ原の戦いでは西軍の盟主となった。戦後領地を3分の1くらいまで減らされた。

①福島正則　②毛利輝元　③宇喜多秀家　④上杉景勝　⑤浅野長政

54	

(55) 江戸初期の京都の豪商で朱印船貿易に従事した。また嵯峨の大堰川の水路を開いたりするなどの土木家でもあったのは誰か。

①末吉孫左衛門　②末次平蔵　③茶屋四郎次郎　④山田長政　⑤角倉了以

55	

(56) 令外官ではないのはどれか。

①関白　②蔵人　③左大臣　④摂政　⑤参議

56	

(57) 凡夫こそが阿弥陀の救いの対象であるという悪人正機説が述べられている書物を何というか。

①百錬抄　②古事談　③尊卑分脈　④明徳記　⑤歎異抄

57	

(58) 世界最古の現存印刷物といわれているものは何というか。

①過去現在絵因果経　②百万塔陀羅尼　③扇面古写経　④三経義疏　⑤風信帖

58	

(59) 任国に赴任する国司の最上席者で、政府に対する徴税請負人の性格を強めた者を何というか。

①目代　②受領　③領家　④本家　⑤田堵

59	

(60) 建武政府の職制で、国政の重要事項の議決をした役所は何というか。

①問注所　②雑訴決断所　③政所　④評定衆　⑤記録所

60	

(61) 1978年に日中平和友好条約が締結された時の総理大臣は誰か。

①田中角栄　②福田赳夫　③鈴木善幸　④大平正芳　⑤三木武夫

61	

(62) 1956年に日ソ共同宣言が調印された時の総理大臣は誰か。

①鳩山一郎　②吉田茂　③岸信介　④池田勇人　⑤佐藤栄作

62	

(63) 1946年に日本国憲法が公布された時の総理大臣は誰か。

①芦田均　②片山哲　③幣原喜重郎　④吉田茂　⑤鳩山一郎

63	

(64) 保元の乱の結果、崇徳上皇が流されたのはどこか。

①讃岐　②土佐　③佐渡　④伊予　⑤隠岐

64	

(65) 本居宣長の影響を受けた平田篤胤は、日本古来の純粋な信仰を尊ぶ神道をひらき、儒教や仏教を強く排斥した。

①唯一神道　②伊勢神道　③復古神道　④垂加神道　⑤教派神道

65	

(66) オランダ船リーフデ号が漂着したのはどこか。

①豊後　②周防　③肥前　④伊勢　⑤土佐

66	

(67) この島にポルトガル人が乗った船が漂着したが、彼らが日本にきた最初のヨーロッパ人である。

①屋久島　②種子島　③奄美大島　④福江島　⑤天草上島

67	

(68) 1419年、朝鮮軍は倭寇の本拠地と考えていたこの島を襲撃した。これを応永の外寇という。

①志賀島　②能古島　③対馬　④壱岐　⑤隠岐

68	

(69) 江戸時代、村役人の不正を追及し、村の民主的な運営を求める小百姓らの運動を何というか。

①打ちこわし　②村方騒動　③逃散　④ええじゃないか　⑤越訴

69	

(70) 室町時代初期、軍費調達のために守護に一国内の荘園や公領の年貢の半分を徴発する権限を認めたものを何というか。

①令義解　②正徳新令　③撰銭令　④半済令　⑤令集解

70	

[2] 次の(1)～(10)を読んで、それぞれの正解を最初の語群から1つ選び、それらが所在する、あるいは最も関係する都道府県名を別の語群から1つ選んで、それぞれ解答欄に数字を記入しなさい。なお、都道府県は同じものを複数回選んでも構わない。

(1) 藤原宮に匹敵する巨大な遺跡で、都市計画のなされていた痕跡と考えられる遺構が随所で確認されている。近くには卑弥呼の墓ではないかといわれる古墳もあり、邪馬台国の有力候補地である。

①板付遺跡　②唐古・鍵遺跡　③纒向遺跡　④紫雲出山遺跡　⑤吉野ヶ里遺跡

用語	71		所在地	72	

(2) 647年設置の最古の城柵。日本海側の蝦夷統治のための拠点であった。

①出羽柵　②磐舟柵　③牡鹿柵　④淳足柵　⑤雄勝柵

用語	73		所在地	74	

(3) 石上宅嗣は自分の邸宅を寺とし、仏典以外の書物をも所蔵する施設をおき、学問をする人に開放したという。

①芸亭　②開成所　③綜芸種智院　④勧学院　⑤弘文院

用語	75		所在地	76	

(4) 北条高時の遺子時行が幕府復活を図って乱を起こしたが、まもなく足利尊氏に敗れた。

①応永の乱　②治承・寿永の乱　③明徳の乱　④中先代の乱　⑤嘉吉の乱

用語	77		所在地	78	

(5) 織田・徳川連合軍が武田軍を破った合戦。この合戦は鉄砲が組織的に活用され、鉄砲主体の戦法へと転換する画期となった。

①長篠の戦い　②川中島の戦い　③山崎の戦い　④桶狭間の戦い　⑤賤ヶ岳の戦い

用語	79		所在地	80	

(6) 1570 年、織田信長は近江の浅井氏と越前の朝倉氏を破った。

①小牧・長久手の戦い　②関ヶ原の戦い　③応仁の乱　④姉川の戦い　⑤後三年の役

用語	81		所在地	82	

(7) 坂上田村麻呂は 802 年に城を築き、鎮守府を多賀城から移した。

①胆沢城　②徳丹城　③志波城　④伊治城　⑤桃生城

用語	83		所在地	84	

(8) ロシア皇太子が巡査に切りつけられ負傷した事件。政府は巡査を死刑にするよう裁判所に圧力をかけたが、大審院院長児島惟謙は司法の独立を守った。

①福島事件　②秩父事件　③大阪事件　④大津事件　⑤大逆事件

用語	85		所在地	86	

(9) 新政府の開明政策に反対する大田黒伴雄らは廃刀令を機に鎮台を襲ったが鎮圧された。

①萩の乱　②佐賀の乱　③神風連の乱　④秋月の乱　⑤西南戦争

用語	87		所在地	88	

(10) 尊王攘夷派の吉村寅太郎らが代官所を襲って代官を殺害したが、諸藩の追討軍に攻撃され壊滅した。

①天狗党の乱　②生野の変　③禁門の変　④生麦事件　⑤天誅組の変

用語	89		所在地	90	

【語群･･･都道府県】

①愛知県　②新潟県　③奈良県　④滋賀県　⑤岩手県

⑥熊本県　⑦神奈川県

[3] 次の(1)～(10)には2つずつ関係事項を列挙してある。それぞれに該当する、あるいは最も関係する人物を語群から選び、数字を解答欄に記入しなさい。

(1) 「橘諸兄」「聖武天皇」

①吉備真備　②鑑真　③藤原広嗣　④栗田真人　⑤橘逸勢

91 [ ]

(2) 「東京音楽学校」「荒城の月」

①伊沢修二　②滝廉太郎　③三浦環　④山田耕筰　⑤藤原義江

92 [ ]

(3) 「西洋紀聞」「屋久島潜入」

①パプチスタ　②ロドリゴ　③シドッチ　④フロイス　⑤ワーグマン

93 [ ]

(4) 「熊本洋学校」「徳富蘇峰」

①ワグネル　②ウィリス　③ビッドル　④ヒュースケン　⑤ジェーンズ

94 [ ]

(5) 「近江大津京」「大野城」

①斉明天皇　②舒明天皇　③天武天皇　④天智天皇　⑤孝徳天皇

95 [ ]

(6) 「末期養子の禁止の緩和」「殉死の禁止」

①徳川家光　②徳川家綱　③徳川秀忠　④徳川綱吉　⑤徳川家宣

96 [ ]

(7) 「関税自主権の欠如」「治外法権」

①ハリス　②ペリー　③オールコック　④パークス　⑤サトウ

97 [ ]

(8) 「政教社」「日本人」

①三宅雪嶺　②陸羯南　③高山樗牛　④志賀重昂　⑤徳富蘇峰

98 [ ]

(9) 「株仲間の公認」「印旛沼・手賀沼の干拓」

①松平定信　②徳川吉宗　③村田清風　④調所広郷　⑤田沼意次

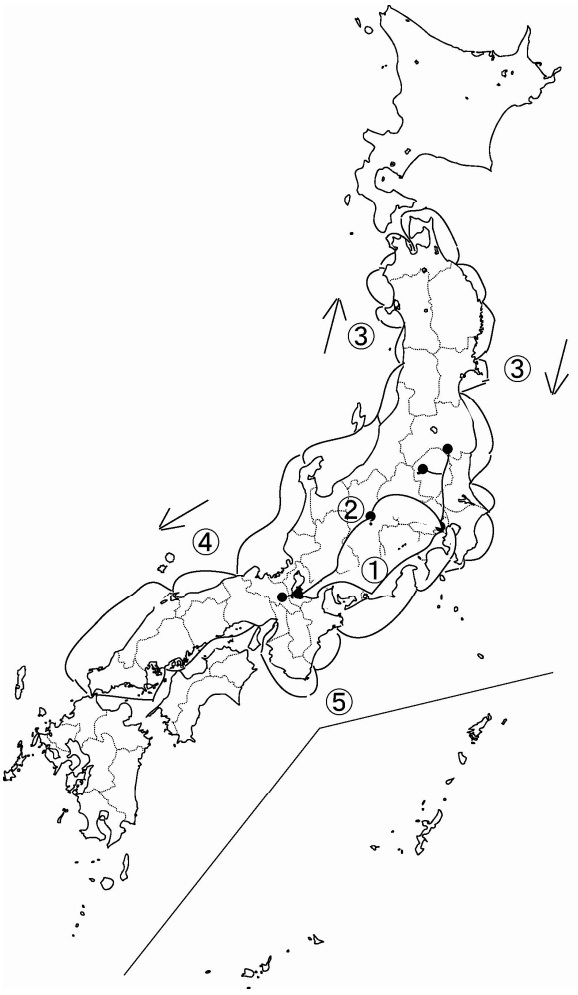
99 [ ]

(10) 「天正遣欧使節」「中浦ジュリアン」

①上杉景勝　②足利成氏　③北条氏康　④大内義隆　⑤大友宗麟

100 [ ]

[4] 次の略地図を見ながらあとの問いに答えなさい。



(1) 地図中の①・②の街道名を下記のア～オからそれぞれ選びなさい。

ア. 日光道中　　イ. 中山道　　ウ. 奥州道中　　エ. 東海道　　オ. 甲州道中

①	101		②	102	

(2) 地図中の⑤は江戸・大坂間の定期航路であるが、その航路を往復していた 2 種類の船を何というか。

ア. 御朱印船(ごしゅいんせん)　　イ. 菱垣廻船(ひがきかいせん)　　ウ. 北前船(きたまえぶね)　　エ. 奉書船(ほうしょせん)　　オ. 樽廻船(たるかいせん)

103		104	

(3) 上の(2)で選んだ 2 つの船のうち、1 つはもともと灘・伊丹・池田などでつくられる或る産物の運送専用であった。その産物とは何か。

ア. 塩　　イ. 醤油　　ウ. 藍玉(あいだま)　　エ. 酒　　オ. 味噌

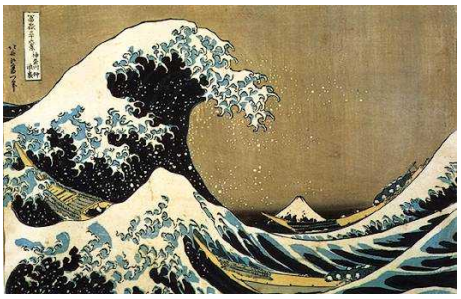
105	

［5］ 次のそれぞれの写真の名称をそれぞれ下の語群①～⑤から1つ選び、それに最も関係の深い人物・文化・所在地等を⑥～⑩から１つ選び、それぞれ数字を解答欄に記入しなさい。

(1)



(2)



(3)



(1)

①蓮華王院本堂　②慈照寺銀閣　③円覚寺舎利殿　④法隆寺金堂　⑤三井寺本堂
⑥北条時宗　⑦北条時頼　⑧足利義政　⑨足利義満　⑩厩戸王

建物名	106		人物名	107	

(2)

①山水長巻　②不忍池図　③東海道五十三次　④富嶽三十六景　⑤保津川図屏風
⑥葛飾北斎　⑦歌川広重　⑧円山応挙　⑨歌川国貞　⑩池大雅

絵画名	108		人物名	109	

(3)

①竜安寺庭園　②大徳寺大仙院庭園　③鹿苑寺庭園　④西芳寺庭園
⑤天竜寺庭園
⑥夢窓疎石　⑦足利義政　⑧細川勝元　⑨山名持豊　⑩足利義満

庭園名	110		人物名	111	

(4)



(5)



(6)



(4)

①法界寺阿弥陀堂　②中尊寺金色堂　③平等院鳳凰堂　④醍醐寺三宝院書院
⑤西本願寺書院
⑥藤原清衡　⑦豊臣秀吉　⑧藤原頼通　⑨日野資業　⑩顕如

建物名	112		人物名	113	

(5)

①東大寺日光菩薩像　②法隆寺百済観音像　③薬師寺東院堂聖観音像
④法界寺阿弥陀像　⑤法隆寺夢殿救世観音像
⑥天平文化　⑦飛鳥文化　⑧白鳳文化　⑨国風文化　⑩弘仁・貞観文化

仏像名	114		文化名	115	

(6)

①三代目沢村宗十郎　②三代目大谷鬼次　③六代目市川団十郎
④三代目瀬川菊之丞　⑤四代目松本幸四郎
⑥中山富三郎　⑦英一蝶　⑧谷文晁　⑨東洲斎写楽　⑩住吉具慶

絵画名	116		人物名	117	

(7)　　(8)　　(9)







(7)

①大徳寺唐門　　②南禅寺三門　　③日光東照宮陽明門　　④知恩院三門
⑤西本願寺唐門
⑥寛永期文化　　⑦東山文化　　⑧元禄文化　　⑨桃山文化　　⑩化政文化

建物名	118		文化名	119	

(8)

①天竜寺方丈　　②大徳寺高桐院　　③大徳寺孤篷庵
④妙喜庵待庵　　⑤銀閣寺東求堂同仁斎
⑥寛永期文化　　⑦東山文化　　⑧北山文化　　⑨近代文化　　⑩国風文化

建物名	120		文化名	121	

(9)

①園城寺黄不動　　②東大寺戒壇院四天王像　　③新薬師寺十二神将像
④興福寺阿修羅像　　⑤東大寺法華堂執金剛神像
⑥白鳳文化　　⑦天平文化　　⑧弘仁・貞観文化　　⑨鎌倉文化　　⑩北山文化

仏像名	122		文化名	123	

(10)　　(11)　　(12)







(10)

①桂離宮　②修学院離宮　③兼六園　④栗林公園　⑤岡山後楽園
⑥徳川斉昭　⑦松平定信　⑧後水尾上皇　⑨池田綱政　⑩八条宮智仁親王

庭園名	124		人物名	125	

(11)

①法隆寺金堂壁画　②高松塚古墳壁画　③薬師寺吉祥天女像
④悲母観音　⑤正倉院鳥毛立女屏風
⑥天平文化　⑦弘仁・貞観文化　⑧飛鳥文化　⑨近代文化　⑩白鳳文化

絵画名	126		文化名	127	

(12)

①元興寺薬師如来像　②高野山明王院赤不動　③広隆寺弥勒菩薩像
④法華寺十一面観音像　⑤東大寺法華堂不空羂索観音像
⑥白鳳文化　⑦天平文化　⑧弘仁・貞観文化　⑨鎌倉文化　⑩飛鳥文化

仏像名	128		文化名	129	

(13)　　(14)　　(15)







(13)

①白水阿弥陀堂　②法隆寺夢殿　③栄山寺八角堂　④富貴寺大堂
⑤室生寺金堂
⑥山口県　⑦大分県　⑧岡山県　⑨広島県　⑩奈良県

建物名	130		県名	131	

(14)

①醍醐寺三宝院庭園　②南禅寺方丈庭園　③銀閣寺庭園
④六義園　⑤西芳寺庭園
⑥鎌倉文化　⑦桃山文化　⑧東山文化　⑨北山文化　⑩元禄文化

庭園名	132		文化名	133	

(15)

①月光菩薩像　②中宮寺弥勒菩薩像　③蓮華王院千手観音像
④神護寺薬師如来像　⑤広隆寺弥勒菩薩像
⑥白鳳文化　⑦天平文化　⑧飛鳥文化　⑨鎌倉文化　⑩弘仁・貞観文化

仏像名	134		文化名	135	

(16)　　(17)　　(18)







(16)

①熱田神宮　　②伊勢神宮　　③三輪明神　　④住吉大社

⑤伏見稲荷

⑥京都府　　⑦奈良県　　⑧三重県　　⑨大阪府　　⑩愛知県

建物名	136		府県名	137	

(17)

①薬師寺薬師三尊像　　②法隆寺夢違観音像　　③観心寺如意輪観音像

④東大寺僧形八幡像　　⑤興福寺天灯鬼像

⑥鎌倉文化　　⑦弘仁・貞観文化　　⑧天平文化　　⑨白鳳文化　　⑩飛鳥文化

仏像名	138		文化名	139	

(18)

①金蓉　　②西洋婦人図　　③黒扇　　④T 嬢の像　　⑤花帽子の女

⑥安井曾太郎　　⑦藤島武二　　⑧藤田嗣治　　⑨平賀源内　　⑩小磯良平

絵画名	140		作者名	141	

(19)　　(20)　　(21)







(19)

①花鳥図　　②桜花游鯉図　　③墨堤観桜図　　④観瀑図

⑤洛中洛外図

⑥司馬江漢　　⑦狩野正信　　⑧与謝蕪村　　⑨呉春　　⑩亜欧堂田善

絵画名	142		人物名	143	

(20)

①高徳院阿弥陀如来像　　②法隆寺百済観音像　　③円成寺大日如来像

④興福寺弥勒仏像　　⑤浄瑠璃寺阿弥陀如来像

⑥鎌倉文化　　⑦弘仁・貞観文化　　⑧天平文化　　⑨白鳳文化　　⑩飛鳥文化

仏像名	144		文化名	145	

(21)

①京都御所　　②桂離宮　　③鳥羽離宮　　④二条離宮　　⑤浜離宮

⑥寛永期文化　　⑦近代文化　　⑧化政文化　　⑨国風文化　　⑩元禄文化

建物名	146		文化名	147	

(22)



(23)



(24)



(22)

①松山城　②高知城　③千代田城　④彦根城　⑤丸岡城

⑥山内一豊　⑦井伊直弼　⑧池田輝政　⑨徳川家康　⑩加藤嘉明

城郭名	148		人物名	149	

(23)

①平等院鳳凰堂　②石清水八幡宮　③春日大社

④平安神宮　⑤金峰山寺蔵王堂

⑥藤原不比等　⑦藤原基経　⑧藤原良房　⑨藤原道長　⑩藤原頼通

建物名	150		人物名	151	

(24)

①頼久寺　②鹿苑寺　③慈照寺　④根来寺大塔　⑤青蓮院

⑥寛永期文化　⑦鎌倉文化　⑧北山文化　⑨国風文化　⑩南北朝文化

建物名	152		文化名	153	

(25)



(26)



(27)



(25)

①松前城　②備中松山城　③松本城　④広島城　⑤小倉城

⑥岡山県　⑦青森県　⑧香川県　⑨大阪府　⑩長野県

城郭名	154		府県名	155	

(26)

①大坂城西の丸庭園　②天竜寺庭園　③等持院庭園

④三千院庭園　⑤西芳寺庭園

⑥豊臣秀吉　⑦夢窓疎石　⑧蘭渓道隆　⑨足利尊氏　⑩最澄

庭園名	156		人物名	157	

(27)

①東本願寺御影堂　②興福寺北円堂　③輪王寺三仏堂　④法隆寺金堂

⑤東大寺三月堂

⑥和歌山県　⑦大阪府　⑧奈良県　⑨京都府　⑩栃木県

建物名	158		府県名	159	

(28)　　(29)　　(30)







(28)

①安土城跡　②宇和島城　③犬山城　④津山城跡　⑤会津若松城

⑥岡山県　⑦滋賀県　⑧香川県　⑨大阪府　⑩長野県

城郭名	160		府県名	161	

(29)

①薬師寺東院堂　②東寺講堂　③石山寺多宝塔

④東大寺二月堂　⑤延暦寺根本中堂

⑥滋賀県　⑦京都府　⑧奈良県　⑨福井県　⑩岐阜県

建物名	162		府県名	163	

(30)

①法起寺三重塔　②薬師寺三重塔　③興福寺三重塔　④一乗寺三重塔

⑤清水寺三重塔

⑥福岡県　⑦大阪府　⑧兵庫県　⑨京都府　⑩奈良県

建物名	164		府県名	165	

【29】 予想問題解答

1	③	2	②	3	④	4	⑤	5	①
6	④	7	④	8	④	9	①	10	④
11	③	12	③	13	⑤	14	④	15	⑤
16	①	17	④	18	⑤	19	①	20	②
21	⑤	22	③	23	③	24	②	25	④
26	④	27	①	28	①	29	③	30	④
31	①	32	①	33	②	34	④	35	②
36	②	37	⑤	38	④	39	④	40	③
41	①	42	③	43	①	44	④	45	⑤
46	①	47	①	48	⑤	49	③	50	④
51	⑤	52	②	53	③	54	②	55	⑤
56	③	57	⑤	58	②	59	②	60	⑤
61	②	62	①	63	④	64	①	65	③
66	①	67	②	68	③	69	②	70	④
71	③	72	③	73	④	74	②	75	①
76	③	77	④	78	⑦	79	①	80	①
81	④	82	④	83	①	84	⑤	85	④
86	④	87	③	88	⑥	89	⑤	90	③
91	①	92	②	93	③	94	⑤	95	④
96	②	97	①	98	①	99	⑤	100	⑤
101	エ	102	イ	103	イ	104	オ	105	エ
106	③	107	⑥	108	④	109	⑥	110	①
111	⑧	112	②	113	⑥	114	③	115	⑧
116	②	117	⑨	118	③	119	⑥	120	⑤
121	⑦	122	⑤	123	⑦	124	②	125	⑧
126	③	127	⑥	128	⑤	129	⑦	130	④
131	⑦	132	①	133	⑦	134	②	135	⑧
136	②	137	⑧	138	③	139	⑦	140	②
141	⑨	142	③	143	⑩	144	②	145	⑩
146	②	147	⑥	148	④	149	⑦	150	①
151	⑩	152	②	153	⑧	154	③	155	⑩
156	⑤	157	⑦	158	②	159	⑧	160	①
161	⑦	162	③	163	⑥	164	①	165	⑩

【30】 日本史年表

[1]弥生・古墳時代

57	倭の奴国王、後漢に入貢⇒「漢委奴国王」の金印を授かる
239	邪馬台国の卑弥呼、魏に遣使
391	倭軍、百済、新羅を破る
538	仏教伝来

[2]飛鳥時代

推古	593	厩戸王(聖徳太子)、摂政となる
	603	冠位十二階制定⇒人材登用・門閥打破
	604	憲法十七条制定⇒天皇中心の国家体制
	607	小野妹子を隋に派遣(遣隋使)／法隆寺創建
舒明	630	犬上御田鍬を唐に派遣(遣唐使の初め)
皇極	645	中大兄皇子・中臣鎌足、蘇我氏を滅ぼす⇒大化改新始まる
天智	663	白村江の戦い(日本軍、唐・新羅軍に敗れる)
(弘文)	672	壬申の乱⇒大海人皇子、大友皇子を破る
天武	673	天武天皇、飛鳥浄御原宮で即位
文武	701	大宝律令完成
元明	708	和同開珎の鋳造(皇朝十二銭の最初)

[3]奈良時代

元明	710	平城京遷都
元正	723	三世一身法
聖武	741	国分寺建立の詔
	743	墾田永世私財法／大仏造立の詔
孝謙	752	東大寺大仏開眼供養
淳仁	764	恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱
称徳	766	道鏡、法王になる

[4]平安時代

桓武	794	平安京に遷都
嵯峨	810	藤原冬嗣、蔵人頭となる／藤原薬子の乱(嵯峨天皇、平城上皇を討つ)⇒藤原北家の台頭
清和	858	藤原良房、摂政となる
光孝	884	藤原基経、関白となる

宇多	894	遣唐使の廃止(菅原道真の建白)
醍醐	901	菅原道真、大宰権帥に左遷される
	902	延喜の荘園整理令
円融	969	安和の変(源高明左遷)⇒藤原氏の他氏排斥の最後
後一条	1017	藤原道長、太政大臣となる
	1019	刀伊の賊の来寇
後冷泉	1051	前九年の役起こる(源義家らが陸奥の安倍氏を倒す)
後三条	1069	延久の荘園整理令
白河	1083	後三年の役起こる(源義家と藤原清衡が陸奥の清原氏を倒す)
白河院	1086	白河上皇、院政を始める
後白河	1156	保元の乱(後白河天皇、崇徳上皇を破る)⇒源義朝・平清盛台頭
後白河院政	1159	平治の乱⇒平清盛、源義朝を破る
	1167	平清盛、太政大臣となる
	1180	以仁王の令旨⇒源頼政の挙兵⇒宇治に敗死／源頼朝、挙兵⇒石橋山の戦い／源義仲挙兵
	1185	屋島の戦い／壇ノ浦の戦い⇒安徳天皇入水、平氏滅亡／頼朝、守護・地頭任命権獲得

[5]鎌倉時代

頼朝	1192	頼朝、征夷大将軍となる⇒鎌倉に幕府を開く
義時	1221	承久の乱(後鳥羽上皇の挙兵)
泰時	1232	貞永式目(御成敗式目)制定
時宗	1274	蒙古襲来(文永の役)
	1281	蒙古襲来(弘安の役)
貞時	1297	永仁の徳政令
高時	1324	正中の変(後醍醐天皇の討幕計画)
	1331	元弘の変(後醍醐天皇の討幕計画)
	1333	鎌倉幕府滅亡

[6]室町時代(南北朝時代・戦国時代を含む)

後醍醐	1334	建武の新政(後醍醐天皇の親政)
	1336	尊氏、「建武式目」制定⇒後醍醐天皇、吉野に移る⇒南北朝動乱の始まり
尊氏	1338	足利尊氏、征夷大将軍となる

義満	1391	明徳の乱⇒義満、山名氏清(「六分一殿」)を討つ
	1392	南北朝合一
義持	1399	応永の乱⇒義満、大内義弘を討つ
義教	1428	正長の土一揆(徳政一揆)
	1438	永享の乱(義教、鎌倉公方足利持氏を討つ)
	1441	嘉吉の乱(有力守護赤松満祐、義教を殺害)
義政	1467	応仁の乱起こる(～77)
戦国時代	1485	山城の国一揆(～1493)(南山城の国人・土民たちによる一揆)
	1488	加賀の一向一揆(～1580)蓮如により組織化された一向宗信者による一揆
	1543	ポルトガル人、種子島に漂着⇒鉄砲伝来
	1549	フランシスコ・ザビエル鹿児島に上陸⇒キリスト教を伝える

[7]安土桃山時代

信長	1573	室町幕府滅亡＝織田信長、足利義昭を追放
	1575	長篠合戦＝信長・徳川家康連合軍、武田勝頼の軍に大勝
秀吉	1582	天正遣欧使節(ヴァリニャーニ)／本能寺の変＝明智光秀、織田信長を殺害／山崎の戦い(秀吉、光秀を討つ)
	1583	賤ヶ岳の戦い＝秀吉、柴田勝家を滅ぼす
	1585	秀吉、関白となる
	1586	秀吉、太政大臣となる／秀吉、後陽成天皇より豊臣の姓を賜る
	1590	秀吉、小田原平定(北条氏滅亡)⇒全国統一なる
	1592	秀吉、朝鮮に派兵(文禄の役)
	1597	秀吉、再び、朝鮮に出兵(慶長の役)

[8]江戸時代

家康	1600	関ヶ原の戦い＝徳川家康大勝
	1603	家康、征夷大将軍となる⇒江戸幕府を開く
秀忠	1613	慶長遣欧使節(支倉常長)
	1614	大坂冬の陣
	1615	大坂夏の陣⇒豊臣氏滅亡
家光	1633	奉書船以外の日本船の海外渡航禁止
	1635	参勤交代制の確立／日本船の海外渡航禁止
	1637	島原の乱(～38)(天草四郎時貞)
	1639	ポルトガル船の来航禁止

	1641	平戸のオランダ商館を長崎出島に移す⇒鎖国体制完成
綱吉	1687	生類憐みの令発布
家宣	1709	正徳の治(新井白石による文治政治)(～16)
吉宗	1716	享保の改革始まる
	1722	上げ米の制
	1723	足高の制
	1742	公事方御定書なる
家重	1758	宝暦事件(竹内式部、追放刑となる)
家斉	1787	松平定信(白河藩主・田安家出身)、老中に就任⇒寛政の改革始まる
	1790	石川島人足寄場を設置／寛政異学の禁＝朱子学以外の講義・研究禁止
	1792	林子平、『海国兵談』の筆禍／ロシア使節ラックスマン、根室に来て通商を請う
	1804	ロシア使節レザレフ、長崎に来航
	1808	フェートン号事件(英の軍艦フェートン号がオランダ船を追って長崎港に乱入)
	1825	異国船打払令(無二念打払令)
	1837	大塩平八郎の乱／モリソン号事件(アメリカ船モリソン号、漂流民を伴い浦賀入港、浦賀、薩摩の山川で打払令によって撃退される)
家慶	1839	蛮社の獄⇒渡辺崋山は蟄居、高野長英は投獄される
	1841	水野忠邦、天保の改革を開始⇒倹約令／株仲間解散令(物価引き下げ策)
	1843	人返しの法／上知令(「あげちれい」とも)
	1853	アメリカ東インド艦隊司令官ペリー、浦賀に来航
家定	1854	日米和親条約(「神奈川条約」)締結
	1858	大老井伊直弼、日米修好通商条約締結
家茂	1859	安政の大獄
	1860	桜田門外の変(井伊直弼暗殺)
	1862	和宮、徳川家茂と結婚(和宮降嫁)／坂下門外の変(和宮降嫁に憤激した尊王攘夷の志士が安藤信正を襲撃)／生麦事件(イギリス人斬殺される)
	1863	8月18日の政変(長州藩主体の攘夷論者失脚)／薩英戦争
	1864	蛤御門の変(長州藩士、薩摩藩と会津藩に敗れる)／長州征伐／四国(米・英・仏・蘭)艦隊、下関砲撃
慶喜	1867	大政奉還／王政復古の大号令

[9]明治時代

藩閥	1868	鳥羽・伏見の戦い⇒戊辰戦争始まる
	1869	薩長土肥、版籍奉還 五稜郭の戦い⇒戊辰戦争終結

政府	1871	廃藩置県⇒中央集権体制の確立
	1872	学制公布／新橋・横浜間鉄道開通
	1873	徴兵令公布 西郷隆盛・板垣退助・江藤新平ら征韓派下野（明治六年の政変）
	1874	民撰議院設立の建白書（板垣退助）
	1877	西南戦争
	1881	国会開設の詔
①伊藤	1885	日本最初の内閣（伊藤博文内閣）成立
黒田	1889	大日本帝国憲法発布
①山県	1890	第１回総選挙⇒第１回帝国議会
②伊藤	1894	朝鮮東学党の乱（甲午農民戦争）／日清戦争勃発
	1895	下関条約調印／露・仏・独の三国干渉⇒遼東半島の返還
①大隈	1898	第１次大隈重信内閣（「隈板内閣」）成立⇒初の政党内閣
②山県	1900	義和団の乱⇒日本を含む列国、北京に連合軍を派遣（北清事変）
①桂	1902	日英同盟成立
	1904	日露戦争勃発
	1905	ポーツマス条約調印（日本全権＝小村寿太郎）
②桂	1910	韓国併合条約
	1911	関税自主権の確立（外相＝小村寿太郎）

［１０］大正時代

③桂	1912	第３次桂太郎内閣成立⇒第１次護憲運動
②大隈	1914	第一次世界大戦開戦⇒日本、ドイツに宣戦布告
	1915	対華二十一カ条の要求
寺内	1918	シベリア出兵／米騒動
原	1918	原敬内閣成立（わが国初の本格的政党内閣）
高橋	1921	ワシントン会議⇒四ヵ国条約（米・英・日・仏）⇒日英同盟破棄へ
清浦	1924	第二次護憲運動⇒護憲三派内閣成立
加藤	1925	普通選挙法制定／治安維持法の制定

［１１］昭和時代（戦前）

①若槻	1927	金融恐慌起こり、休業銀行続出
田中	1927	蔵相高橋是清モラトリアムで金融恐慌を収拾／第１次山東出兵
	1928	張作霖(ちょうさくりん)爆殺事件
浜口	1930	ロンドン軍縮会議⇒統帥権干犯問題
②若槻	1931	柳条湖(りゅうじょうこ)事件(じけん)⇒満州事変
犬養	1932	犬養毅(いぬかいつよし)、海軍青年将校らに殺される（五・一五事件）
斎藤	1932	満州国承認
	1933	日本、国際連盟を脱退
岡田	1936	二・二六事件
①近衛	1937	盧溝橋(ろこうきょう)事件⇒日中戦争
	1938	国家総動員法成立
②③近衛	1940	大政翼賛会(たいせいよくさんかい)創立／日独伊三国軍事同盟
	1941	日ソ中立条約締結
東条	1941	日本軍、ハワイ真珠湾等奇襲攻撃⇒太平洋戦争始まる
鈴木	1945	日本、ポツダム宣言受諾

［１２］昭和時代（戦後の民主化と国交回復）

幣原	1945	衆議院議員選挙法改正公布⇒婦人参政権などを規定／第１次農地改革
①吉田	1946	持株会社整理委員会発足（財閥解体の本格的開始） 第２次農地改革 11.3　日本国憲法公布
	1947	5.3　日本国憲法施行
③吉田	1951	サンフランシスコ講和会議開催 対日平和条約調印・日米安全保障条約調印
③鳩山	1956	日ソ共同宣言⇒日ソ国交正常化／日本、国連に加盟
①佐藤	1965	日韓基本条約調印⇒日韓国交正常化
①田中	1972	日中共同声明⇒日中国交正常化
福田	1978	日中平和友好条約調印

【31】 文化史のまとめ

[1]飛鳥文化

■**時期**・・・6 世紀後半～7 世紀前半(推古朝中心)

■**特徴**・・・①わが国最初の仏教文化

②百済や高句麗、そして中国の南北朝時代の文化の影響

【仏教】

①仏教公伝(538／552)

②三経義疏(聖徳太子)・・・法華経・勝鬘経・維摩経

※法華経は現存する最古の書蹟

【建築】・・・**氏寺**

①聖徳太子＝四天王寺・法隆寺・中宮寺

②蘇我馬子＝飛鳥寺(法興寺)

③秦 河勝＝広隆寺(京都太秦)

【彫刻】

①法隆寺金堂釈迦三尊像(作＝鞍 作鳥)

②飛鳥寺釈迦如来像(「飛鳥大仏」)

③法隆寺百済観音像

④中宮寺半跏思惟像

⑤広隆寺半跏思惟像

【絵画・工芸】

①玉 虫厨子須弥座絵

②中宮寺天寿国繍帳

[2]白鳳文化

■**時期**・・・7 世紀後半～8 世紀初頭(天武・持統朝中心)

■**特徴**・・・①初唐文化の影響

②律令国家の形成期の文化＝清新・明朗で活気に満ちた文化

【建築】

◎薬師寺東塔(フェノロサ＝「凍れる音楽」)

【彫刻】

①薬師寺金堂薬師三尊像

②薬師寺東院堂聖観音像

③興福寺仏頭(もと山田寺の本尊)

【絵画】

◎法隆寺金堂壁画(1949 年焼失)

[3]天平文化

■**時期**・・・8 世紀(聖武朝中心)

■**特徴**・・・①唐の最盛期の文化の影響⇒国際性豊か

②貴族中心の文化、国家仏教の発展

【仏教】・・・**鎮護国家思想**

①全国に国分寺

②南都六宗＝三論宗・成実宗・倶舎宗・法相宗・律宗・華厳宗

【建築】

【彫刻】

乾漆像

①東大寺法華堂不空羂索観音像

②唐招提寺鑑真和上坐像

③興福寺阿修羅像

【文学・史書】

①古事記(712)＝太安万侶

②日本書紀(720)＝舎人親王

③風土記・・・5 カ国のみ現存

※出雲のみほぼ完本

④懐風藻＝最古の漢詩文集

①東大寺正倉院＝校倉造 ②唐招提寺講堂＝平城宮朝集殿を移築	塑像 ①東大寺法華堂日光・月光菩薩像 ②東大寺法華堂執金剛神像 ③東大寺戒壇院四天王像	⑤万葉集＝最古の和歌集 **【絵画】** ◎正倉院鳥毛立女屏風

［4］弘仁・貞観文化

■**時期**・・・8 世紀末～9 世紀末(桓武・嵯峨・清和朝中心) ■**特徴**・・・①晩唐の文化の影響の下での貴族中心の文化 ②新しい仏教(密教)と神秘的な密教芸術の発展	
【仏教】・・・密教 ①天台宗・・・最澄／比叡山延暦寺 ②真言宗・・・空海／高野山金剛峯寺・京都教王護国寺(東寺) **【建築】** ①室生寺金堂・・・屋根は檜皮葺(現在は柿葺) ②室生寺五重塔・・・檜皮葺。高さ 16m と小さい。 **【彫刻】・・・一木造・翻波式** ①元興寺薬師如来像 ②神護寺薬師如来像	③観心寺如意輪観音像 ④室生寺釈迦如来像 ⑤薬師寺僧形八幡神像 **【絵画】** ①神護寺両界曼荼羅 ②園城寺不動明王像(「黄不動」) **【書道】・・・唐風** ◎「三筆」＝嵯峨天皇・橘 逸 勢・空海 **【教育】** ◎空海＝綜芸種智院　※庶民に門戸開放

［5］国風文化（藤原文化）

■**時期**・・・10 世紀～11 世紀半ば ■**特徴**・・・①日本独自の文化 ②摂関家を中心とする貴族文化 ③浄土教の影響⇒阿弥陀仏と念仏	
【仏教】 ①浄土教の流行＝『往生要集』(源信) ②末法思想の流行 **【建築】** ①藤原道長・・・法成寺 ②藤原頼通・・・平等院鳳凰堂 **【絵画】** ①来迎図＝高野山聖衆来迎図 ②大和絵＝日本の風物を描く(屏風絵中心)	**【彫刻】・・・寄木造／定朝** 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 **【文学】** ①最初の勅撰和歌集＝『古今和歌集』 ②最古の作り物語＝『竹取物語』 ③最初の歌物語＝『伊勢物語』(在原業平) ④最初の仮名日記＝『土佐日記』(紀貫之) ⑤女流文学＝『源氏物語』(紫式部)／『枕草子』(清少納言)

［6］院政期文化

■**時期**・・・11 世紀後半～12 世紀後半(院政期)

■**特徴**・・・①文化の地方普及

②庶民文化のおこり

【建築】

①中尊寺金色堂(岩手県平泉)・・・藤原清衡

②臼杵の磨崖仏(大分県)

③三仏寺投入堂(鳥取県)

④富貴寺大堂(大分県)

【装飾経】

◎厳島神社平家納経

【絵画】・・・絵巻物が流行

①源氏物語絵巻⇒引目鉤鼻・吹抜屋台

②伴大納言絵巻

③鳥獣戯画(伝・鳥羽僧正覚猷)

【歴史物語】

◎『大鏡』・・・※道長に批判的／紀伝体

【著作】

◎『梁塵秘抄』＝後白河法皇　※今様を集大成

［7］鎌倉文化（※鎌倉新仏教は除く）

■**時期**・・・12 世紀末～14 世紀初め(鎌倉時代)

■**特徴**・・・①文化の公武二元制

②宋・元の文化(禅宗など)の影響

③素朴で質実な気風

【建築】

①大仏様＝東大寺南大門　※重源・陳和卿

②禅宗様＝円覚寺舎利殿(神奈川県鎌倉)

③和様＝蓮華王院本堂(京都府)

【彫刻】・・・奈良仏師の活躍

①東大寺南大門金剛力士像＝運慶・快慶

②東大寺僧形八幡神像＝快慶

③蓮華王院千手観音像＝湛慶

④六波羅蜜寺空也上人像＝康勝

【絵画】・・・似絵／絵巻物

①伝源頼朝像(神護寺蔵)＝藤原隆信

②後鳥羽上皇像＝藤原信実

③一遍上人絵伝＝円伊

④蒙古襲来絵巻＝肥後の御家人・竹崎季長の奮戦ぶりを描く

⑤北野天神縁起絵巻＝藤原信実

【歴史書】

①『愚管抄』(慈円)

②『吾妻鏡』＝鎌倉幕府を北条氏の立場から

【文学】

①随筆・・・『方丈記』(鴨長明)／『徒然草』(吉田兼好)

②和歌・・・『山家集』(西行)／『新古今和歌集』(後鳥羽上皇・藤原定家ら)／『金槐和歌集』(源実朝)

③軍記物語・・・『平家物語』 ※「平家琵琶」

[8]北山文化

■**時期**・・・14 世紀末～15 世紀前半(3 代将軍足利義満の頃)

■**特徴**・・・①武家文化が公家的・禅的要素を摂取⇒活力ある文化

②中国文化(禅宗)の影響と五山の禅僧の活躍

【建築】・・・鹿苑寺金閣

3 階・・・禅宗様

2 階・・・和様仏堂風

1 階・・・寝殿造

【能】・・・猿楽能の完成⇒能

足利義満の保護⇒観阿弥・世阿弥(『風姿花伝』)

【仏教】・・・五山・十刹の制⇒臨済宗の寺を格付け

※南禅寺＝五山の上

◎京都五山＝天竜寺(しょうこく)・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺

◎鎌倉五山＝建長寺・円覚(えんがく)寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺

[9]東山文化

■**時期**・・・15 世紀後半(8 代将軍足利義政の頃)

■**特徴**・・・①禅の精神に基づく簡素さと、伝統文化の幽玄・侘(わび)を精神的な基調に

②生活と結びついた独自の文化の創出

③庶民文芸の発達

【建築】・・・慈照寺銀閣

2 階・・・禅宗様／1 階・・・書院造

■書院造＝畳・襖・床・違い棚・付書院・明障子(あかりしょうじ)

※代表＝慈照寺東求堂同仁斎

【庭園】・・・枯山水

①大徳寺大仙院庭園

②竜安寺(りょうあんじ)石庭(大小 15 個の石「虎の子渡しの庭」)

【絵画】

水墨画・・・雪舟＝「四季山水図巻(しきさんすいずかん)」・「秋冬山水図(しゅうとうさんすいず)」

狩野派・・・水墨画に大和絵の技法を取り入れる

①狩野正信＝狩野派の祖

②狩野元信＝「大仙院花鳥図」

【庶民文化】

■御伽草子(おとぎぞうし)・・・絵の余白に話し言葉＝庶民向け

「浦島太郎」・「一寸法師」・「物ぐさ太郎」など昔話

※のち江戸時代初期に仮名草子に

■連歌・・・連歌師が各地を遍歴、普及に努める

◎宗祇＝『新撰菟玖波集』

【侘茶】・・・茶と禅の精神の統一

◎村田珠光(じゅこう)＝侘茶を創始

［１０］桃山文化

■**時期**・・・16 世紀後半（信長・秀吉の時代）

■**特徴**・・・①新鮮味豊かで、豪華・壮大な文化

②仏教色が薄く、現実主義的傾向が強い

③武士・豪商が文化の担い手

【建築】

①城郭＝安土城（織田信長）／大坂城・伏見城（豊臣秀吉）／姫路城（池田輝政）

②茶室建築

千利休＝妙喜庵茶室（待庵）・・・2 畳敷

③伝・遺構

聚楽第⇒西本願寺飛雲閣・大徳寺唐門

伏見城⇒都久夫須麻神社本殿

【侘茶】・・・完成

千利休＝簡素・閑寂⇒茶道を確立⇒花道・香道

【庶民芸能】

○出雲阿国＝かぶき踊り⇒阿国歌舞伎

【絵画】・・・障壁画

①狩野永徳・・・水墨画と大和絵を融合

＝「洛中洛外図屏風」・「唐獅子図屏風」

③長谷川等伯＝智積院襖絵（濃絵）／松林図屏風（水墨画）

【教育】

①コレジオ＝宣教師養成学校（豊後・府内）

②セミナリオ＝神学校（安土／有馬）

【キリスト教布教に活躍した外国人】

①フランシスコ・ザビエル＝キリスト教を伝える

②ヴァリニャーニ＝天正遣欧使節

③ルイス・フロイス＝『日本史』

［１１］寛永期文化

■**時期**・・・17 世紀前半（徳川家康～家光の時代）

■**特徴**・・・①桃山文化の継承

②禁教⇒南蛮文化の影響の低下

【学問】・・・朱子学がさかんに

◎朱子学＝君臣・父子の別、上下の秩序を重視⇒幕府・藩に受け入れられる

①藤原惺窩・・・京学

②林羅山（道春）・・・藤原惺窩の門人⇒家康に重用⇒以後、林家は代々幕府の儒者に

【建築】

①権現造＝日光東照宮・・・豪華な装飾彫刻

②数寄屋造・・・書院造＋草庵風の茶室

桂離宮＝智仁親王（後陽成天皇の弟）の別邸

修学院離宮＝後水尾上皇の山荘

【絵画】

◎俵屋宗達＝「風神雷神図屏風」⇒琳派の祖

【工芸】

①本阿弥光悦＝「舟橋蒔絵硯箱」

②酒井田柿右衛門＝有田焼（「赤絵」）

［１２］元禄文化

■**時期**・・・17 世紀後半～18 世紀初め（幕藩体制安定期）

■**特徴**・・・①上方の町人中心

②現実主義的傾向

③儒学の隆盛（朱子学・陽明学・古学）

【文学】・・・上方の町人文芸中心

①浮世草子（うきよぞうし）＝井原西鶴・・・現世を直視

好色物・・・『好色一代男』・『好色五人女』

町人物・・・『日本永代蔵』・『世間胸算用』

②脚本（人形浄瑠璃（じょうるり）・歌舞伎）＝近松門左衛門

世話物・・・『曾根崎心中』

時代物・・・『国姓爺合戦（こくせんやかっせん）』

③俳諧＝松尾芭蕉＝『奥の細道』

【芸能】

◎歌舞伎

上方＝坂田藤十郎（和事（わごと））

江戸＝市川団十郎（荒事（あらごと））

【絵画】

①尾形光琳＝「燕子花図屏風（かきつばた）」・「紅白梅図屏風」⇒琳派

②菱川師宣（もろのぶ）＝「見返り美人」・・・浮世絵の祖

【工芸】

①野々村仁清（にんせい）⇒京焼（きょうやき）の祖

②尾形光琳＝「八橋蒔絵螺鈿硯箱（やつはしらでん）」

③宮崎友禅＝友禅染

【儒学】

■朱子学

◎新井白石＝『読史余論（とくしよろん）』

■陽明学

◎中江藤樹（とうじゅ）⇒熊沢蕃山（ばんざん）

■古学

①山鹿素行＝『聖教要録（せいきょうようろく）』⇒「聖学」⇒赤穂配流

②伊藤仁斎＝古義堂（こぎどう）（京都堀川）⇒「古義学派」

③荻生徂徠（おぎゅうそらい）＝蘐園塾（けんえん）（江戸）⇒「古文辞学」／『政談』

［１３］化政文化

■**時期**・・・18 世紀半ば～19 世紀半ば（江戸時代後期）

■**特徴**・・・①江戸を中心とする文化

②学問・思想の多様化（洋学・国学など）

③幕藩体制の動揺⇒享楽的傾向

【文学】・・・貸本屋の普及⇒読者が広がる

①滑稽本・・・庶民生活を生き生きと描く

十返舎一九＝『東海道中膝栗毛』

②読本（よみほん）・・・文章主体の小説

上田秋成『雨月物語（うげつ）』

曲亭馬琴『南総里見八犬伝（なんそう）』

■俳諧

①与謝蕪村＝『蕪村七部集』

②小林一茶＝『おらが春』

【絵画】・・・浮世絵黄金時代

【学問】

■国学四大人

荷田春満（かだのあずままろ）⇒賀茂真淵（かものまぶち）⇒本居宣長（もとおりのりなが）⇒平田篤胤（あつたね）

①本居宣長＝『古事記伝』

②平田篤胤＝復古神道・・・儒教・仏教を激しく排斥

■尊王思想・・・天皇を王者として尊ぶ

◎徳川光圀（みつくに）⇒『大日本史』（1657～1906）⇒水戸学⇒徳を以ておさめる王者は力を以て支配する覇者にまさる⇒幕末の尊王論に影響

■浮世絵・・・庶民に広く親しまれる
①鈴木春信＝錦絵(多色摺の浮世絵版画)を創作⇒「弾琴美人」
②喜多川歌麿＝「ポッピンを吹く女」・・・美人画の分野で大首絵の様式を創案
③東洲斎写楽＝「市川鰕蔵」・・・役者絵・相撲絵で大首絵の手法を用いる
④葛飾北斎＝「富嶽三十六景」・・・優れた描写力と大胆な構成が特色
⑤歌川(安藤)広重＝「東海道五十三次」・・・静かで客観的、親しみやすい風景画
■文人画・・・知識階級に親しまれる
①池大雅・蕪村＝「十便十宜図」・・・画風大成
②渡辺崋山＝「鷹見泉石像」
■西洋画
◎司馬江漢・・・銅版画を創始⇒「不忍池図」

■洋学の発達
①新井白石＝『西洋紀聞』(1715 年頃)
②徳川吉宗⇒青木昆陽らにオランダ語を学ばせる⇒蘭学の発達
医学
◎前野良沢・杉田玄白ら＝『解体新書』
■私塾
①シーボルト＝鳴滝塾(長崎)
②緒方洪庵＝適塾(大坂) ※適々斎塾とも
③吉田松陰＝松下村塾(萩) ※設立は叔父
【教育】
■幕府
◎湯島聖堂学問所(林家)⇒昌平坂学問所(官立)
■藩学・郷学
◎池田光政(岡山)＝花畠教場・・・1641 年日本最古の藩学／⇒1675 年郷学として閑谷学校を設立

[１４]明治時代の文化

(1) 文学

種別	作家	作品名
写実主義	坪内逍遙	『小説神髄』・『当世書生気質』
	二葉亭四迷	『浮雲』
ロマン主義	森鷗外	『舞姫』
	樋口一葉	『にごりえ』・『たけくらべ』
	島崎藤村	『若菜集』
	与謝野晶子	『みだれ髪』
自然主義	国木田独歩	『牛肉と馬鈴薯』
	田山花袋	『蒲団』・『田舎教師』
	島崎藤村	『破戒』・『夜明け前』
	石川啄木	『一握の砂』・『悲しき玩具』
反自然主義	夏目漱石	『吾輩は猫である』・『坊っちゃん』
	森鷗外	『雁』

(2) 絵画・彫刻

種別	作家	作品名
絵画(日本画)	狩野芳崖	「悲母観音」
	橋本雅邦	「竜虎図」
	下村観山	「大原御幸」
絵画(西洋画)	高橋由一	「鮭」
	黒田清輝	「湖畔」
	青木繁	「海の幸」
彫刻	高村光雲	「老猿」
	荻原守衛	「女」
	朝倉文夫	「墓守」
	ラグーザ	「日本婦人」

[15]大正～昭和初期の文化

(1) 美術

種別	作家	作品名
日本画	横山大観	「生々流転」
西洋画	安井曾太郎	「金蓉(きんよう)」
	梅原竜三郎	「紫禁城(しきんじょう)」
	岸田劉生(きしだりゅうせい)	「麗子微笑」
彫刻	高村光太郎	「手」

(2) 音楽

種別	音楽家・歌手	作品名
洋楽	山田耕筰(こうさく)	「からたちの花」・「この道」
オペラ歌手	三浦環(たまき)(※日本人初)	プッチーニ作オペラ「蝶々夫人」の主役
箏曲	宮城道雄	「春の海」

(3) 文学

種別	作家	作品名
①高踏派	夏目漱石	『こころ』・『明暗』
※反自然主義	森鷗外	『阿部一族』・『高瀬舟』
②耽美派	谷崎潤一郎(たにざきじゅんいちろう)	『細雪』・『痴人の愛』
※反自然主義	永井荷風(ながいかふう)	『腕くらべ』・『つゆのあとさき』

③白樺派 ※学習院 雑誌『白樺』創刊	有島武郎	『カインの末裔』・『惜しみなく愛は奪ふ』・『或る女』
	志賀直哉	『和解』・『暗夜行路』・『小僧の神様』
	武者小路実篤	『お目出たき人』・『友情』
④新思潮派 ※東大	芥川龍之介	『羅生門』・『鼻』・『河童』・『或る阿呆の一生』
	菊池寛	『父帰る』・『恩讐の彼方に』
	山本有三	『女の一生』・『真実一路』・『路傍の石』
⑤新感覚派	横光利一	『日輪』・『蠅』
	川端康成	『雪国』・『伊豆の踊子』
⑥大衆文学	中里介山	『大菩薩峠』
	直木三十五	『南国太平記』
	吉川英治	『宮本武蔵』・『新・平家物語』
	江戸川乱歩	『二銭銅貨』・『パノラマ島奇譚』
⑦プロレタリア文学	小林多喜二	『蟹工船』
	葉山嘉樹	『海に生くる人々』
	徳永直	『太陽のない街』
⑧児童文学	鈴木三重吉	「赤い鳥」創刊
	小川未明	『赤い蝋燭と人魚』
	宮沢賢治	『風の又三郎』・『銀河鉄道の夜』

＜通訳案内士試験第 1 次邦文試験受験対策＞

基礎から体系的に学ぶ

マラソンセミナー
日本歴史

定価　2,100 円（税込）
2013 年 10 月 1 日発行
発行者　ハロー通訳アカデミー
植山源一郎
〒168-0065　東京都杉並区浜田山 4-33-3-303
電話　03-3313-6970
E メール：info@hello.ac
ホームページ: http://www.hello.ac
ブログ：http://blog.goo.ne.jp/gu6970

本書は、個人で学習することを目的に、提供しているものであり、提供された個人限りでご使用ください。本書の著作権は植山源一郎に帰属しており、個人で使用する以外、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送することを固く禁じます。
©2012 Genichiro Ueyama, All Rights Reserved.